

市 政 世 論 調 査 報 告 書

(第 37 回・平成 17 年)

調 査 項 目

第 1 章

定 住 意 向
生 活 環 境
市 政 へ の 要 望
防 災 対 策 に つ い て
「市民参加のしくみづくり」について

第 2 章

「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の
目標値に対する達成度

八 王 子 市

は じ め に

「地域のことは地域で考える」—— 地方分権が進む中、各自治体には、地域の特色を活かしたまちづくりが求められています。これは、地域のことは地域に暮らす人々が、自己責任のもとに創意・工夫を重ねまちづくりを行っていくことでもあります。

本市では、平成15年3月に市民の皆様に参加をいただき、「人とひと、人と自然が共生し、だれもが生き生きするまち」をまちづくりの基本理念とした「八王子ゆめおりプラン」を策定しました。

しかしながら、ゆめおりプランがめざす安全で快適に暮らせる心やすらぐまちづくりは、行政の力だけで実現できるものではありません。市民の皆様と行政とが相互理解のもとに、それぞれの役割と責務を明確にし、互いに協働してまちづくりに取り組むことが必要です。

そのため、本市では、積極的に行政情報を発信・提供すると共に、市民の皆様の意向を迅速かつ的確に把握するため、毎年、広聴事業の一環として『市政世論調査』を実施しています。

本年は、「定住意向」「生活環境」「市政への要望」の継続項目に加え、「防災対策」「市民参加のしくみづくり」「八王子ゆめおりプランの施策指標の目標値に対する達成度」を調査項目として設定しました。

今後も、市政世論調査を通じて市民の皆様の市政への参加を図り、調査結果を有効に活用し、皆様と市との協働によるまちづくりを推進していく所存です。

最後になりましたが、この調査にご協力いただきました市民の皆様に心から御礼申し上げます。

平成17年9月

八王子市長 黒須 隆一

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査項目	3
4. 回収結果	4
5. 報告書の見方	4
6. 回答者の属性	5
II 調査結果の分析	11
第1章	
1. 定住意向	13
1-1 定住意向	13
1-2 住み続けたい理由	16
1-3 市外へ移りたい理由	19
2. 生活環境	21
2-1 生活環境の評価	21
3. 市政への要望	27
3-1 重点施策要望	27
4. 防災対策について	31
4-1 大地震に備えた準備状況	31
4-2 建物倒壊防止対策の実施状況	33
4-3 建物倒壊防止策を実施しない理由	34
4-4 家具の転倒防止対策の実施状況	35
4-5 ブロック塀等の補強対策の実施状況	37
4-6 災害発生時に危険だと思う場所	38
4-7 防災マップの普及状況	40
4-8 避難場所の認知状況	42
4-9 大地震の時の集合場所	44
4-10 大地震の時の連絡方法	46
4-11 近隣の災害弱者の有無	48
4-12 災害弱者に対する大地震の時の対応	49
4-13 市に期待する防災対策	51

5. 「市民参加のしくみづくり」について	53
5-1 市政参加のための制度の周知状況	53
5-2 市政に関する意見を述べたことの有無	55
5-3 意見を述べた方法	56
5-4 意見を述べたことについての感想	57
5-5 意見を述べたことがない理由	58
5-6 市民が市の政策立案や行政運営に参加することの意識	60
5-7 市の政策立案や行政運営への参加意向	62
5-8 市の政策立案や行政運営へ参加するために必要なこと	64
第2章	
6. 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度	66
6-1 市民協働の推進状況	66
6-2 現在の市政情報入手方法の満足度	67
6-3 市の窓口の利用の有無	68
6-4 市の窓口サービスの満足度	69
6-5 この1年間の地域行事への参加	70
6-6 日常生活環境の安全度	72
6-7 市の相談窓口の充実度	74
6-8 市の相談窓口の利用の有無	75
6-9 相談窓口を利用した感想	76
6-10 市の子育て支援策の満足度	77
6-11 現在の生きがい	79
6-12 健康のために心がけていること	81
6-13 かかりつけの医療機関の有無	83
6-14 この1年間に取り組んだ学習活動	84
6-15 この1年間に行ったスポーツの頻度	86
6-16 この1年間の芸術・文化活動の頻度	88
6-17 市は景観に配慮されたまちであるか	89
6-18 市のにぎわいと活力の有無	91
6-19 環境問題への関心度	93
6-20 市の現在の環境	94
6-21 都市の美観が損なわれる原因	96
6-22 市は、美観が保持されたまちだと思うか	99
6-23 省エネ・省資源を実行しているか	101
III 調査票	103
集計結果入り調査票	105

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満 20 歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：3,000 人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法（層化→地点抽出→対象者抽出）
 - ・層化…「八王子ゆめおりプラン」で示された本庁・事務所管轄区域に基づき、6 地域に区分する。（下の地域区分図参照）
 - ・地点抽出…各地域の調査対象人口（満 20 歳以上の男女）に応じて調査対象を配分する。調査対象に基づいて合計 100 地点となるように各地区の地点数を決定、地点を抽出する。
 - ・対象者抽出…抽出された各地点において対象者数が 30 人となるように無作為系統抽出を行う。

【本調査における地域区分】

- 中央地域：本庁管内
西部地域：元八王子・恩方・川口
西南部地域：浅川・横山・館
北部地域：加住・石川
東南部地域：由井・北野
東部地域：由木・由木東・南大沢



- (5) 調査方法：郵送配布・郵送回収法
- (6) 調査期間：平成 17 年 5 月 19 日～6 月 9 日
- (7) 調査機関：(株) エスピー研

3. 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 生活環境
- (3) 市政への要望
- (4) 防災対策について
- (5) 「市民参加のしくみづくり」について
- (6) 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度

4. 回収結果

対象者数：3,000人

有効回収数：1,706票（有効回収率56.9%）

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、「件数」として表示した。その比率は、件数を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 分析の軸(=表側)として回答者の属性や設問は、「無回答」を除いているため、各回答者の属性の基数の合計が全体と一致しない場合がある。
- (6) 本文やグラフの選択肢表記では、長文のものについては語句を省略していることがある。

(7) 標本誤差

標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)、および回答比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数(サンプル数)
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,706	±2.05	±2.74	±3.14	±3.35	±3.42
1,500	±2.19	±2.92	±3.35	±3.58	±3.65
1,000	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
500	±3.79	±5.06	±5.80	±6.20	±6.32
100	±8.49	±11.31	±12.96	±13.86	±14.14

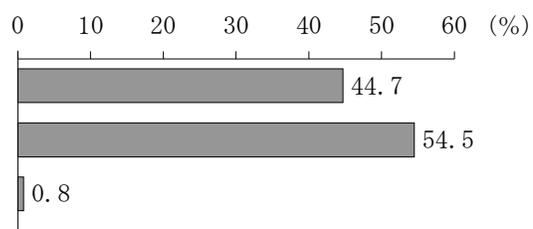
注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,706で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.35%以内(56.65%~63.35%)である」と見ることができる。

6. 回答者の属性

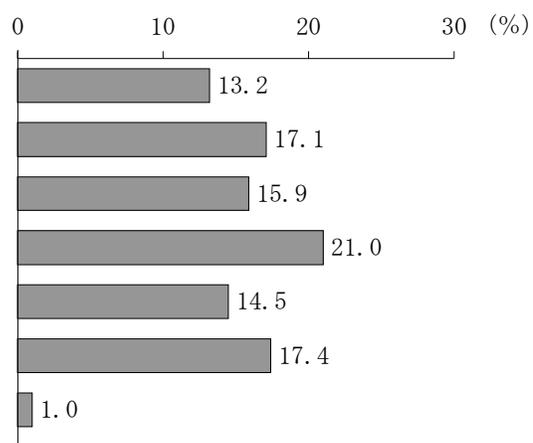
1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	763	44.7
2 女性	930	54.5
(無回答)	13	0.8
合計	1,706	100.0

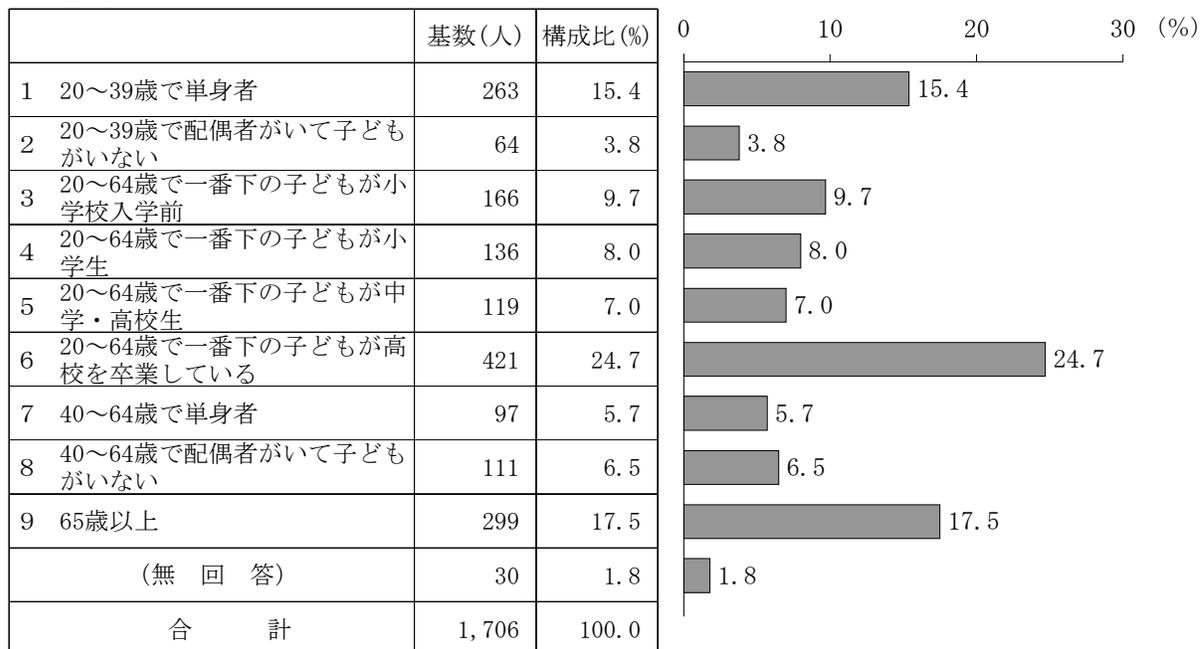


2 年齢

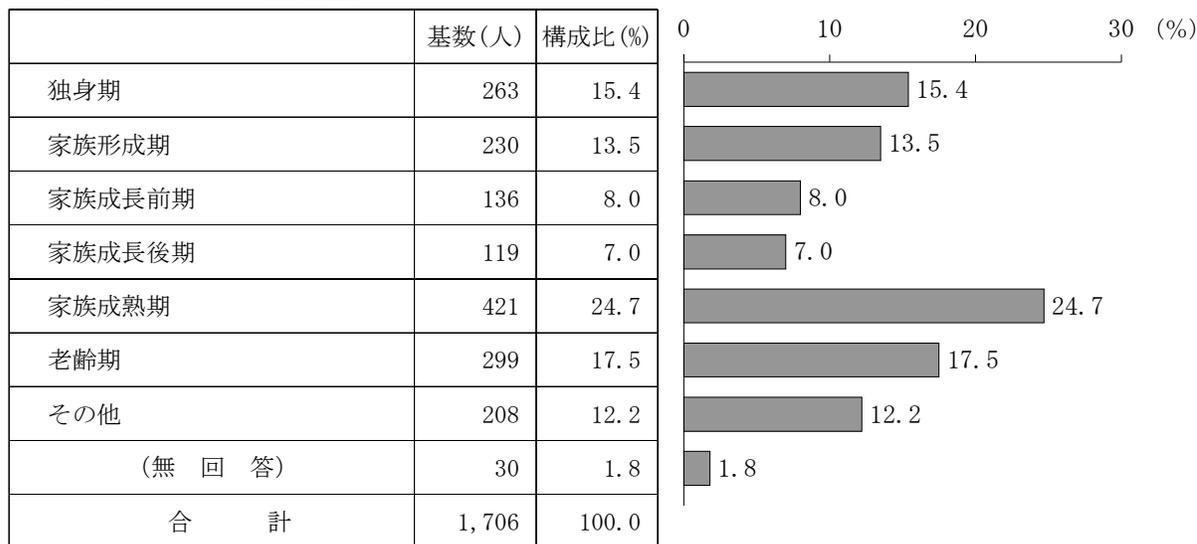
	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	225	13.2
2 30歳代	291	17.1
3 40歳代	271	15.9
4 50歳代	358	21.0
5 60～64歳	247	14.5
6 65歳以上	297	17.4
(無回答)	17	1.0
合計	1,706	100.0



3 ライフステージ



■ ライフステージ (集約型)

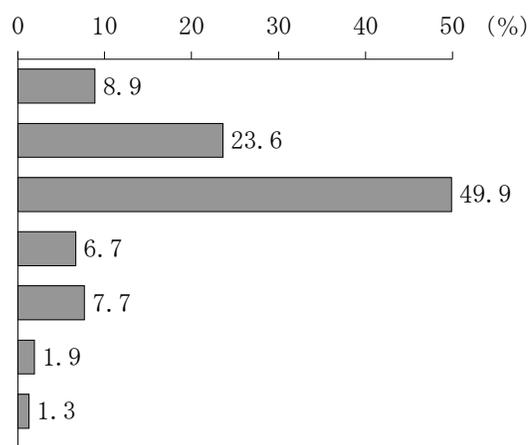


■ ライフステージ区分

独 身 期	20～39歳で単身者
家 族 形 成 期	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家 族 成 長 前 期	20～64歳で一番下の子どもが小学生
家 族 成 長 後 期	20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家 族 成 熟 期	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老 齢 期	65歳以上
そ の 他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

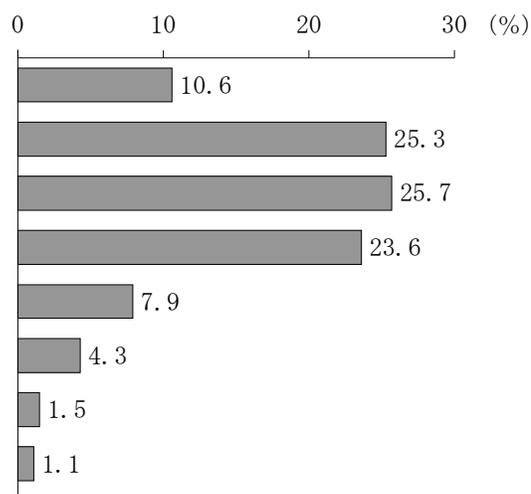
4 世帯構成

	基数(人)	構成比(%)
1 ひとり暮らし (単身世帯)	151	8.9
2 夫婦のみ (一世代世帯)	402	23.6
3 親と未婚の子ども (二世代会帯)	852	49.9
4 親と子ども夫婦 (二世代会帯)	115	6.7
5 親と子どもと孫 (三世代会帯)	132	7.7
6 その他	32	1.9
(無回答)	22	1.3
合計	1,706	100.0



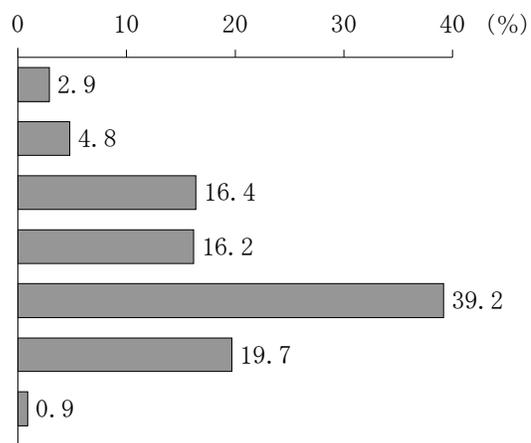
5 同居家族人数

	基数(人)	構成比(%)
1 1人	180	10.6
2 2人	432	25.3
3 3人	439	25.7
4 4人	403	23.6
5 5人	135	7.9
6 6人	73	4.3
7 7人以上	25	1.5
(無回答)	19	1.1
合計	1,706	100.0

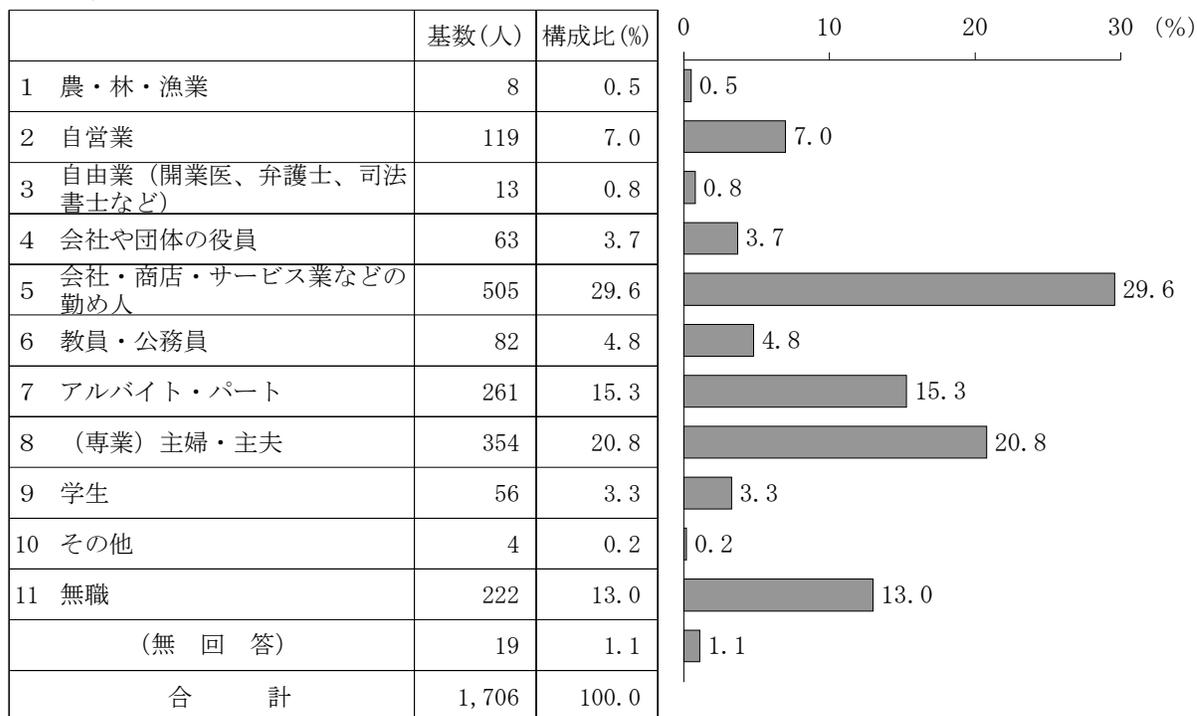


6 居住年数

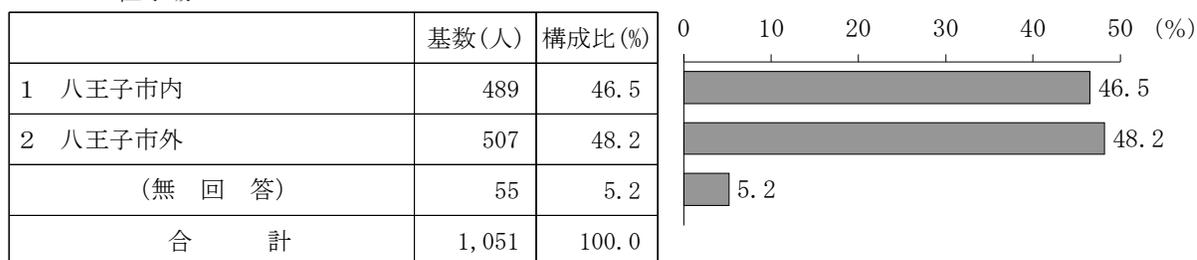
	基数(人)	構成比(%)
1 1年未満	50	2.9
2 1～3年未満	82	4.8
3 3～10年未満	279	16.4
4 10～20年未満	276	16.2
5 20年以上	668	39.2
6 生まれてからずっと	336	19.7
(無回答)	15	0.9
合計	1,706	100.0



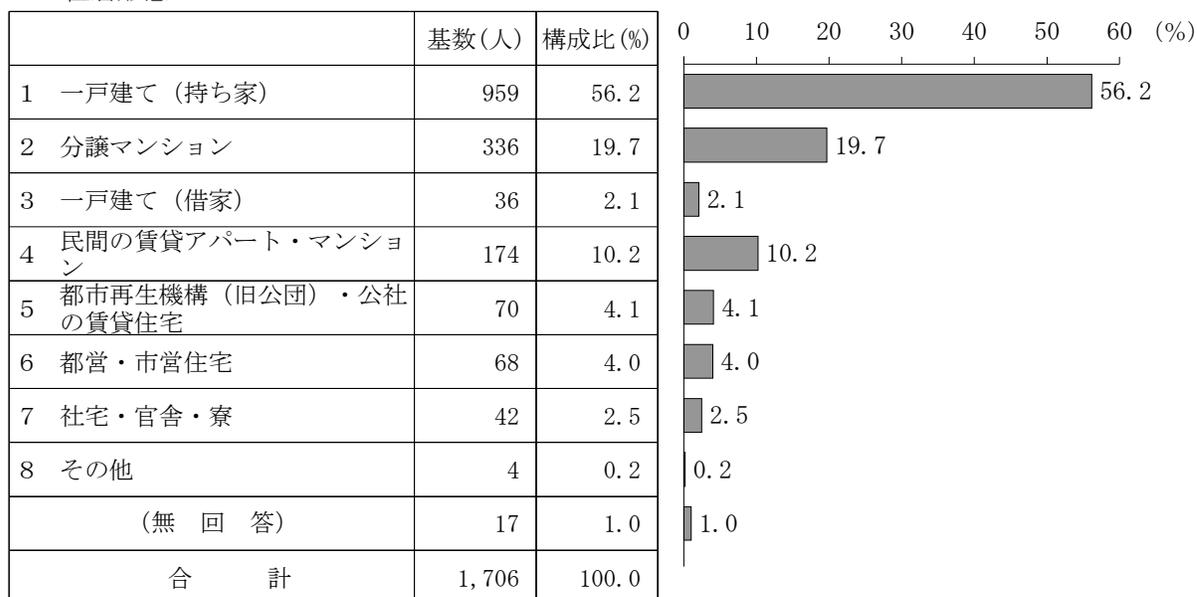
7 職業



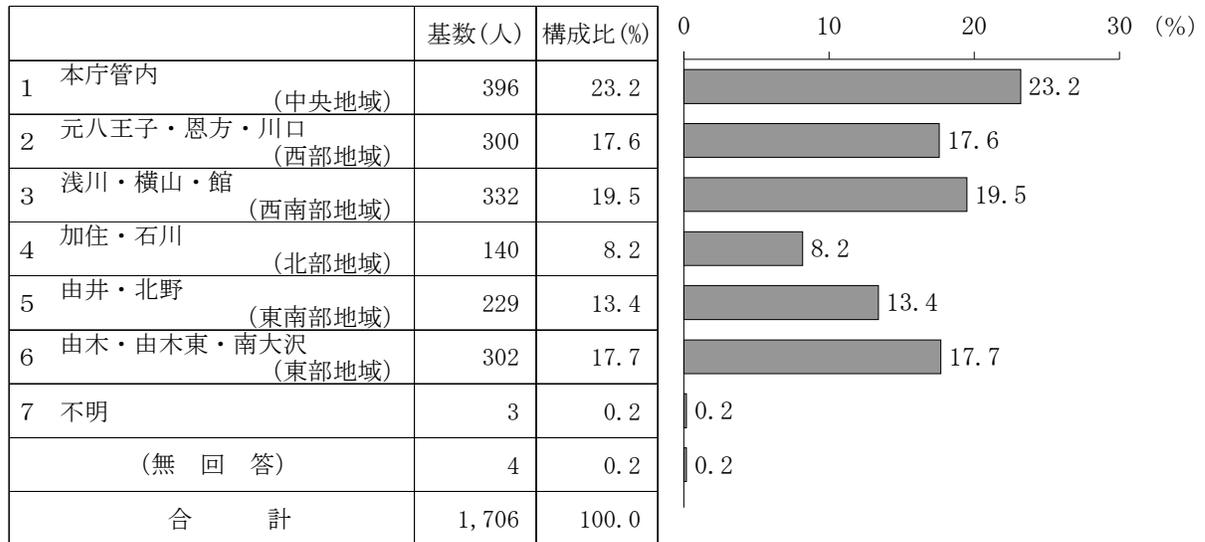
7-1 仕事場



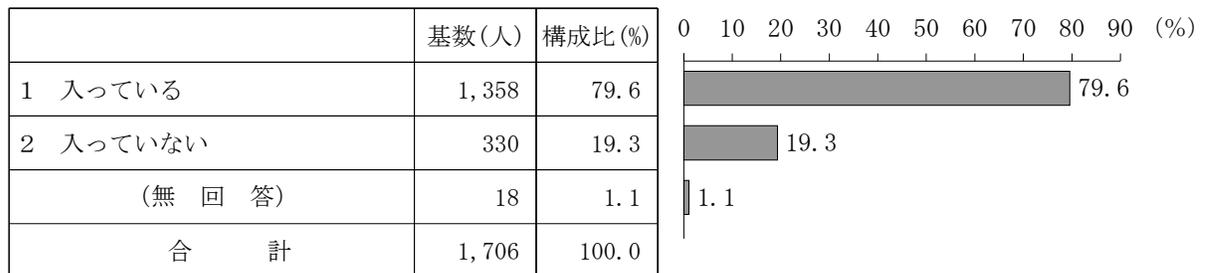
8 住居形態



9 居住地域



10 町会や自治会の加入状況



Ⅱ 調査結果の分析

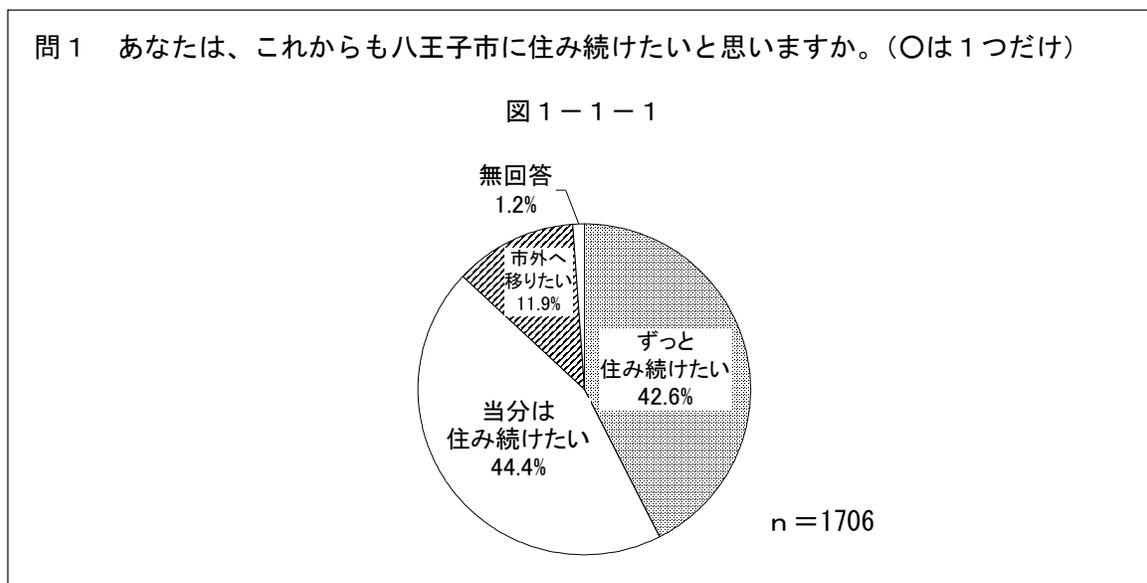
Ⅱ 調査結果の分析

第1章

1. 定住意向

1-1 定住意向

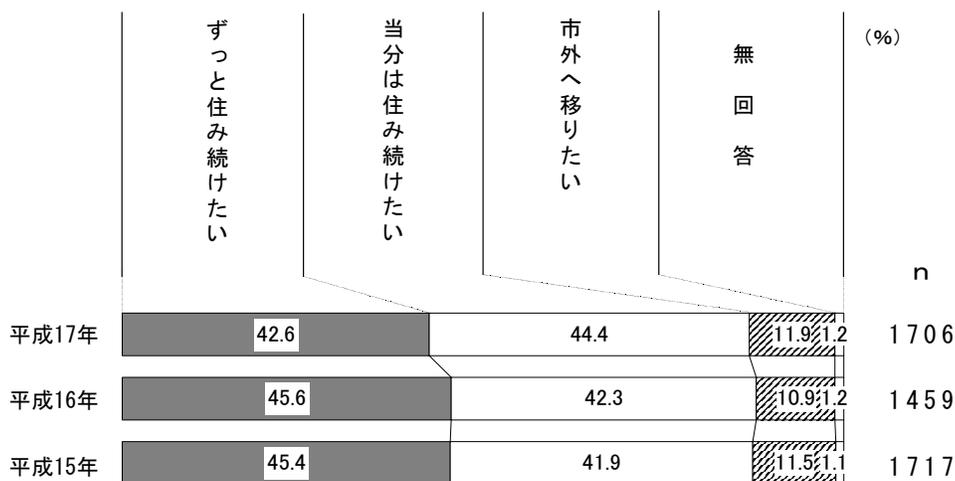
◇『住み続けたい』が9割近くを占める



市への定住意向について聞いたところ、「当分は住み続けたい」(44.4%)が4割半ばで最も高く、「ずっと住み続けたい」(42.6%)を合わせると、『住み続けたい』(87.0%)が9割近くを占める。また、「市外へ移りたい」(11.9%)は1割程度にとどまっている。(図1-1-1)

過去の調査と比較すると、今回は平成16年より「ずっと住み続けたい」は3ポイント減少しているものの、「当分は住み続けたい」は2ポイント増加しており、これらを合わせた『住み続けたい』は9割近くと高い水準を維持している。(図1-1-2)

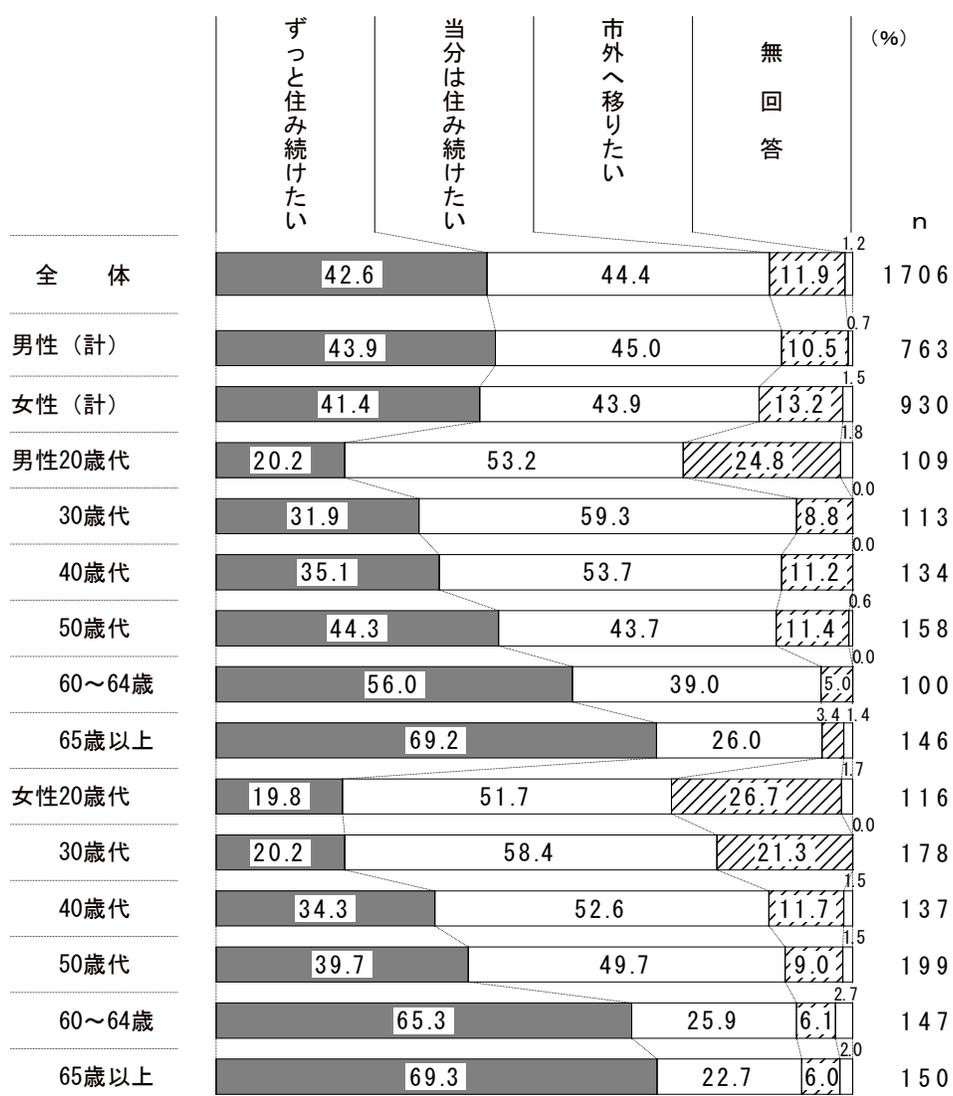
図1-1-2 定住意向—経年比較



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

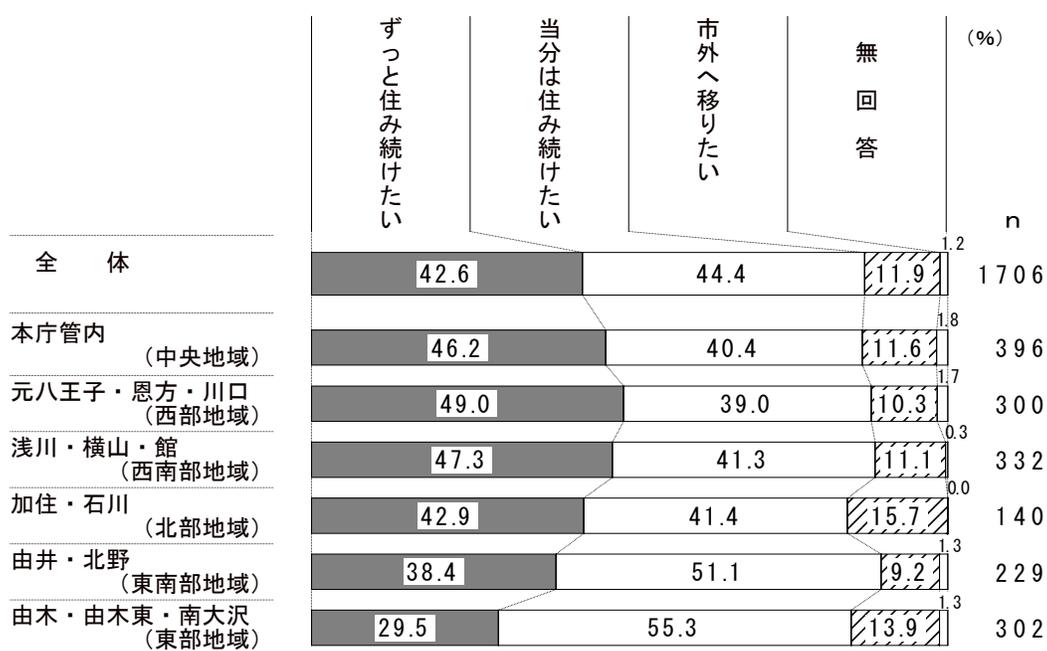
性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性65歳以上と女性60歳以上の年代においては、男女ともに6割以上を占め高くなっている。また、「市外へ移りたい」は男性20歳代と女性20歳代から30歳代の年代で2割以上と、他の年齢層と比べ高くなっている。(図1-1-3)

図1-1-3 定住意向一性・年齢別



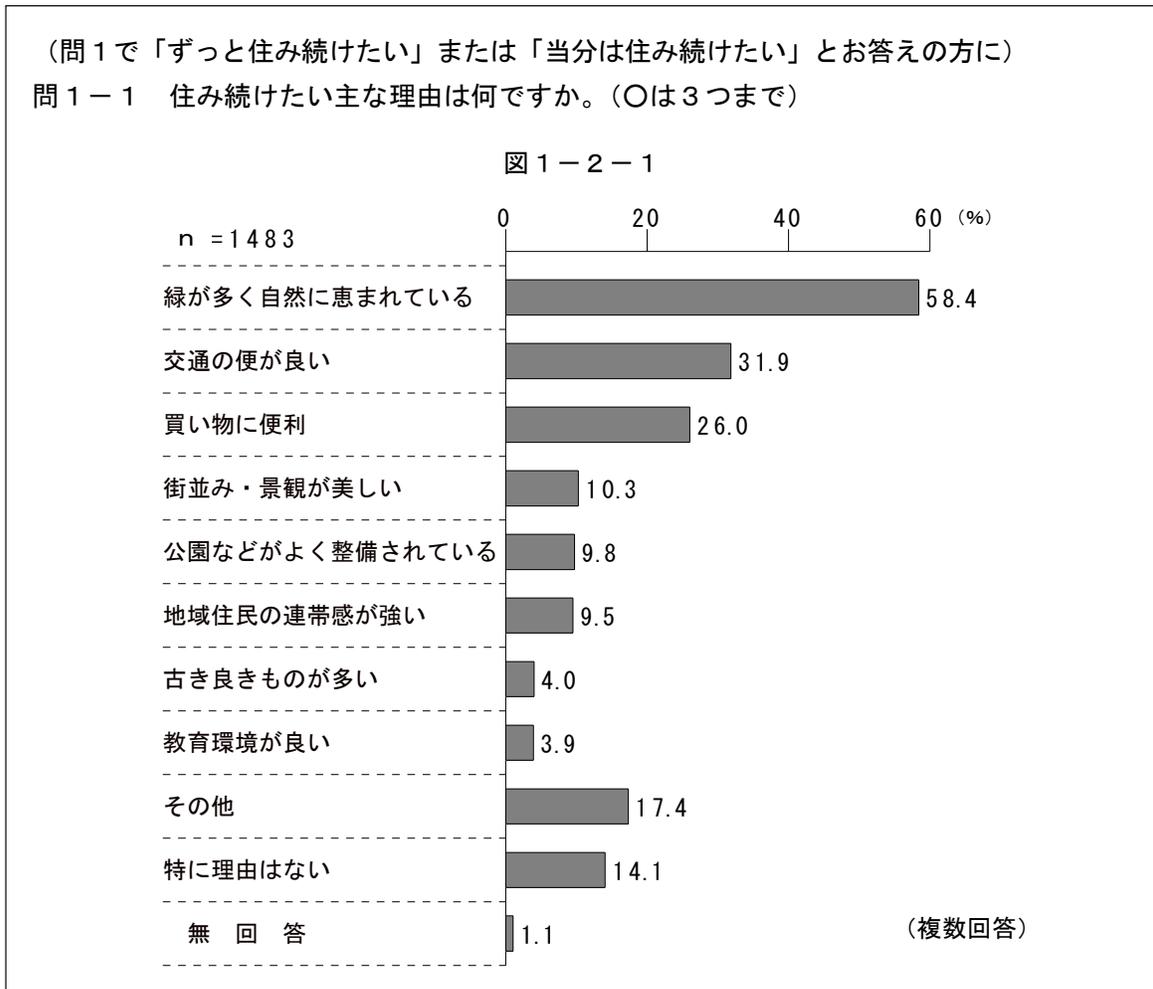
居住地域別にみると、『住み続けたい』はすべての地域で8割以上を占め高くなっている。また、「ずっと住み続けたい」は本庁管内（中央地域）、元八王子・恩方・川口（西部地域）、浅川・横山・館（西南部地域）で5割近くと高くなっている。一方、由井・北野（東南部地域）は4割近く、由木・由木東・南大沢（東部地域）は3割と他の地域より低くなっている。（図1-1-4）

図1-1-4 定住意向－居住地域別



1-2 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が半数を超え、突出している



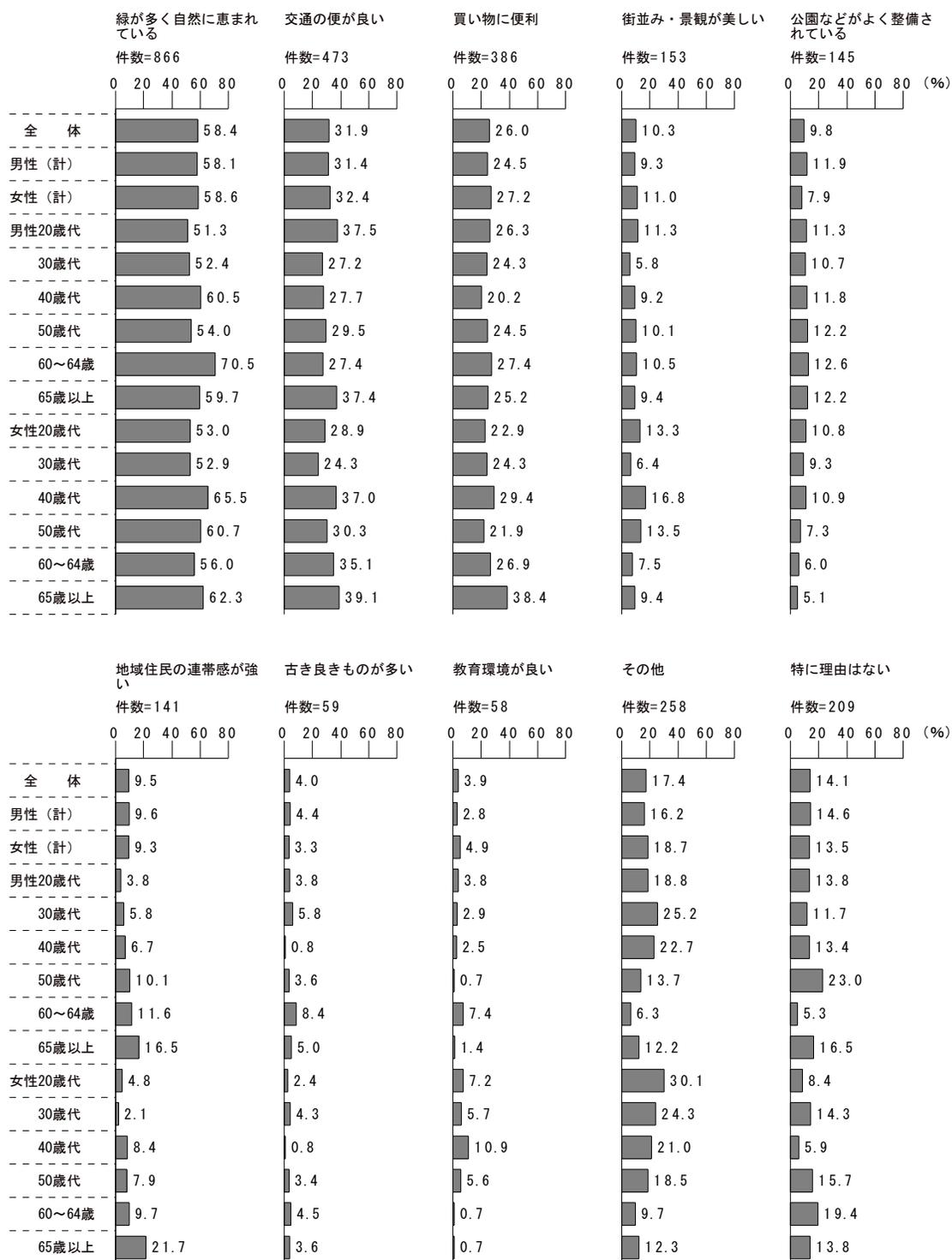
八王子市への定住意向で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と答えた人(1,483人)に、住み続けたい理由について聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(58.4%)が6割近くと最も高く、次いで「交通の便が良い」(31.9%)、「買い物に便利」(26.0%)などの順となっている。(図1-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性60歳～64歳でほぼ7割と高く、「買い物に便利」は女性65歳以上で4割近くと高くなっている。「地域住民の連帯感が強い」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、また女性65歳以上で2割を超え高くなっている。

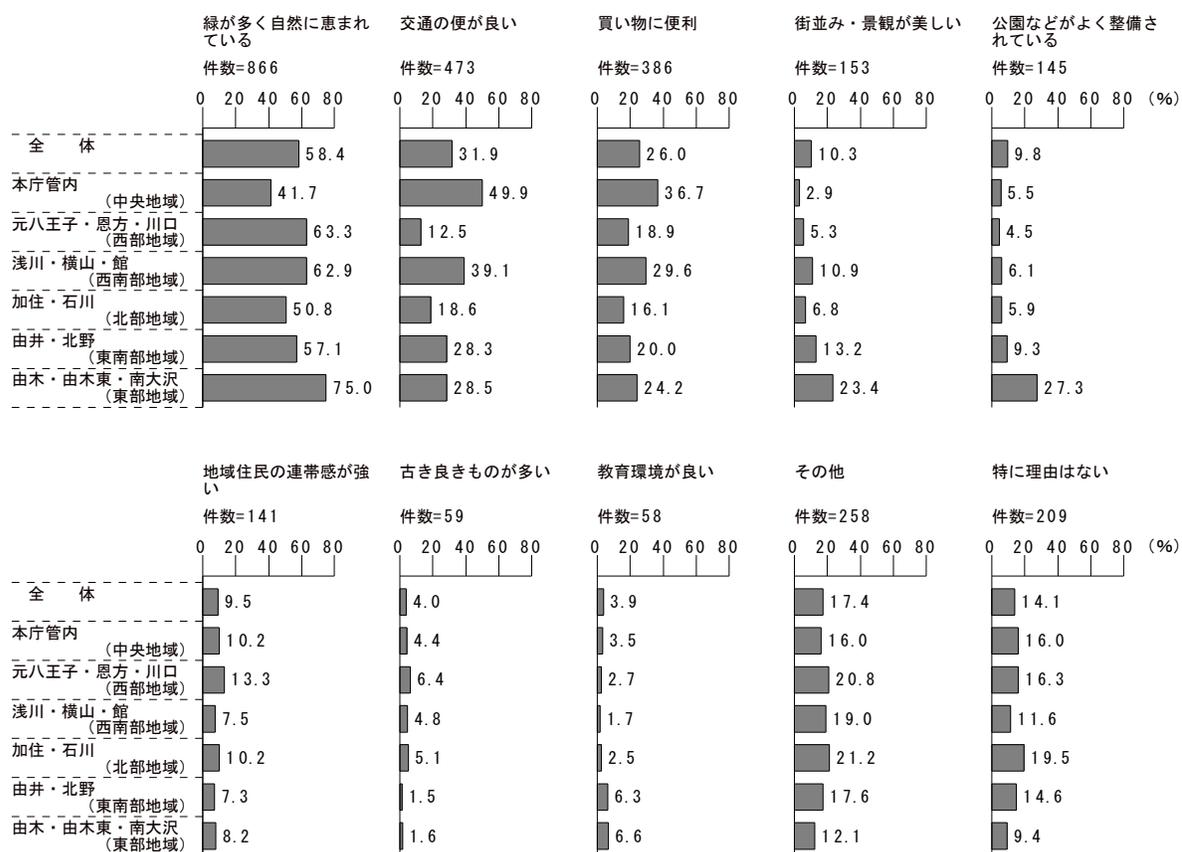
(図1-2-2)

図1-2-2 住み続けたい理由—性・年齢別



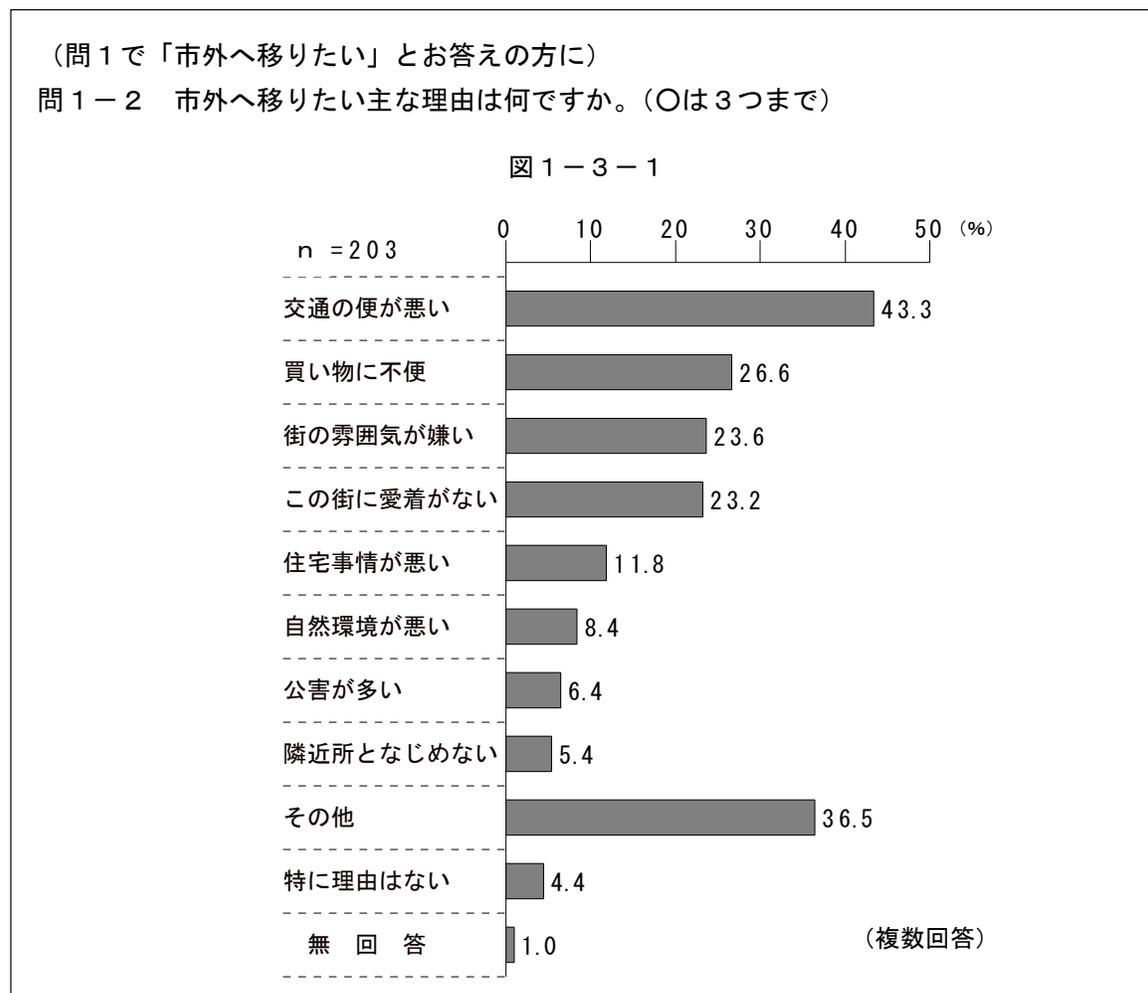
居住地域別にみると、本庁管内（中央地域）では「交通の便が良い」で5割、「買い物に便利」で4割近くと高くなっている。由木・由木東・南大沢（東部地域）では「緑が多く自然に恵まれている」で7割半ば、「街並み・景観が美しい」で2割を超え、「公園などがよく整備されている」で3割近くと高くなっている。（図1-2-3）

図1-2-3 住み続けたい理由—居住地域別



1-3 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割を超える



八王子市への定住意向で「市外へ移りたい」と答えた人(203人)に、市外へ移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」(43.3%)が4割を超え最も高く、次いで「買い物に不便」(26.6%)、「街の雰囲気が嫌い」(23.6%)、「この街に愛着がない」(23.2%)、「住宅事情が悪い」(11.8%)などの順となっている。(図1-3-1)

性別にみると、「交通の便が悪い」で7ポイント、「自然環境が悪い」で5ポイント、それぞれ男性の方が高く、「買い物に不便」で女性の方が5ポイント高くなっている。(図1-3-2)

居住地域別にみると、本庁管内(中央地域)では「街の雰囲気が嫌い」がほぼ4割と高い。元八王子・恩方・川口(西部地域)では「交通の便が悪い」が7割を超え、「買い物に不便」が4割近くと高い。加住・石川(北部地域)では「交通の便が悪い」がほぼ6割、「買い物に不便」が4割半ば、「住宅事情が悪い」が2割を超え高い。由木・由木東・南大沢(東部地域)では「この街に愛着がない」が3割を超え高い。(図1-3-3)

図 1-3-2 市外へ移りたい理由—性別

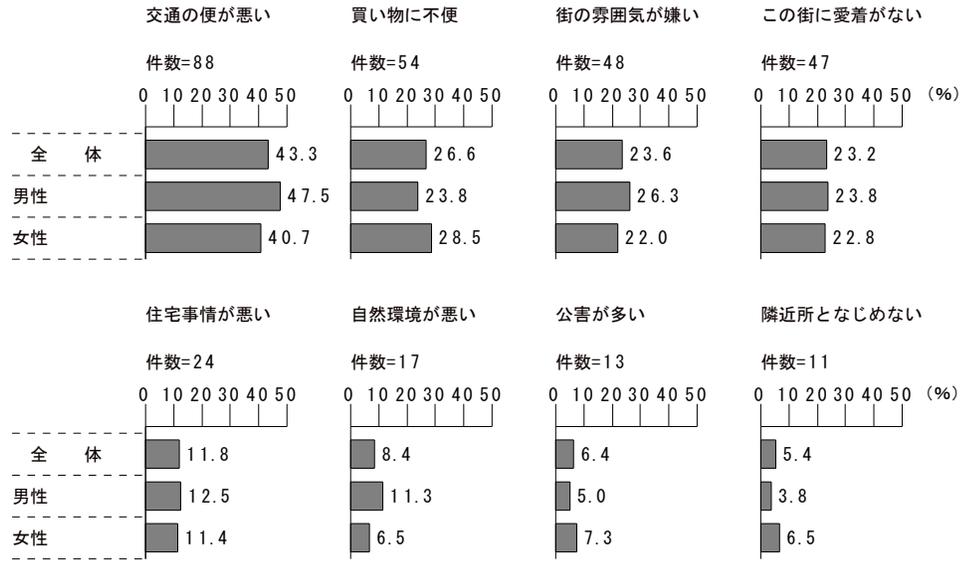
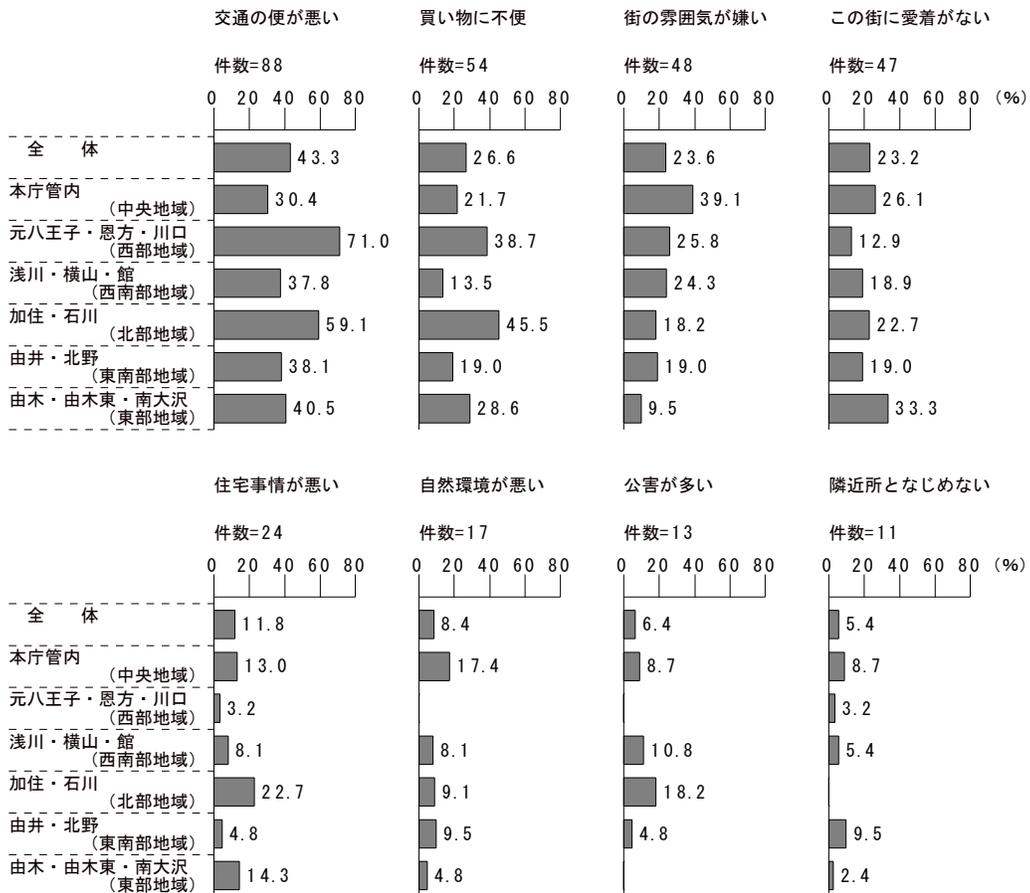


図 1-3-3 市外へ移りたい理由—居住地域別



2. 生活環境

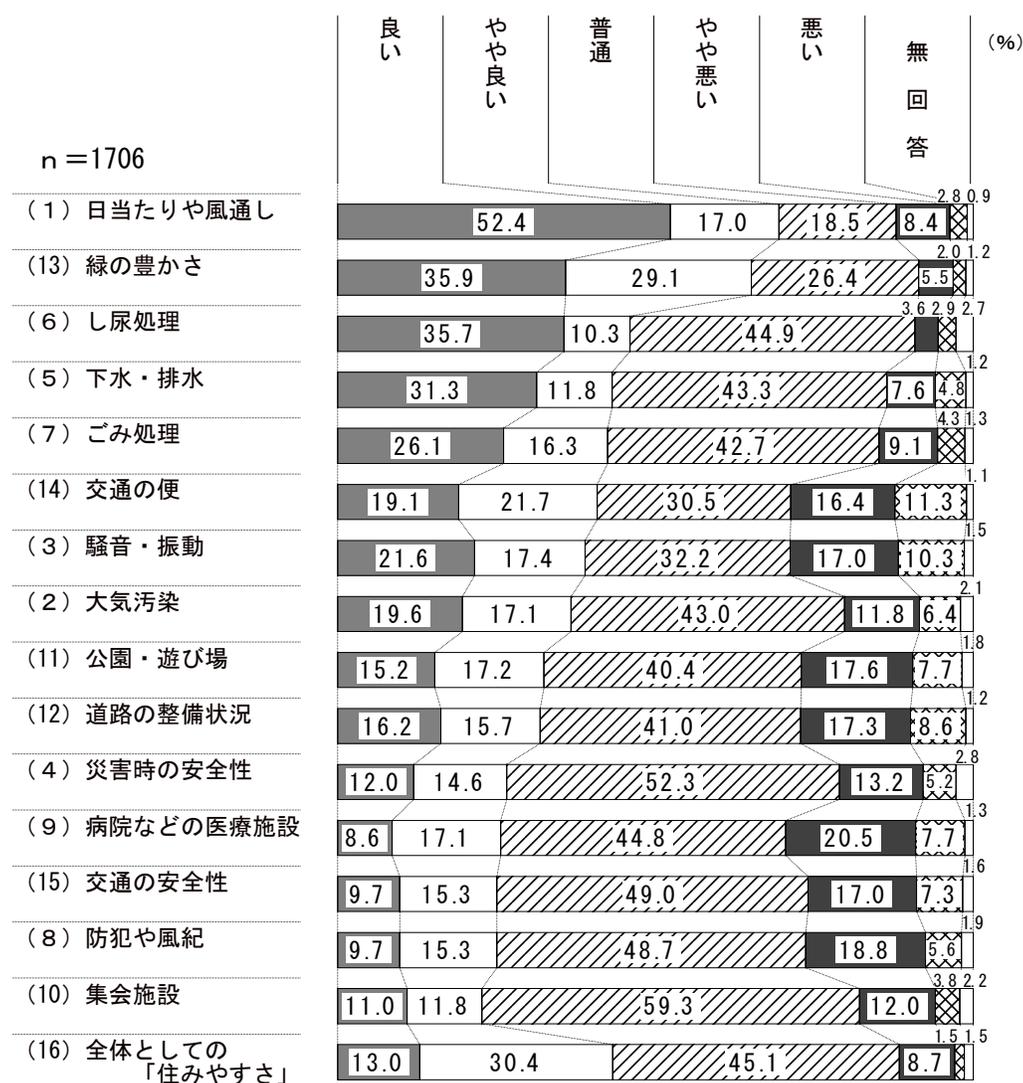
2-1 生活環境の評価

◇「日当たりや風通し」、「緑の豊かさ」の2項目が飛び抜けて評価が高い

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-1-1



【(16) 全体としての「住みやすさ」】を除き、「良い」と「やや良い」の合算で比率の高い順に並べた。

■評価順位

生活環境を 15 の項目に分け、それぞれの評価を聞いた。

「良い」と「やや良い」の合計を【良い】とし、「やや悪い」と「悪い」の合計を【悪い】とみなした場合の、それぞれの上位 5 項目をあげると次のようになっている。(図 2-1-1)

<u>【良 い】</u>		<u>【悪 い】</u>	
①日当たりや風通し	(69.4%)	①病院などの医療施設	(28.2%)
②緑の豊かさ	(65.0%)	②交通の便	(27.7%)
③し尿処理	(46.0%)	③騒音・振動	(27.3%)
④下水・排水	(43.1%)	④道路の整備状況	(25.9%)
⑤ごみ処理	(42.4%)	⑤公園・遊び場	(25.3%)

なお、【(16) 全体としての「住みやすさ」】は、【良い】(43.4%) が 4 割を超え、【悪い】(10.2%) が 1 割と、【良い】の方が 33 ポイント高くなっている。

加重平均値 (満足度)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = (\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \\ + \text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は 5.00 点～1.00 点の間に分布し、中間点の 3.00 点を境に、5.00 点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に 1.00 点に近くなるほど不満足度が高くなる。

■満足度順位

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの上位 5 項目は次のようになっている。

(図 2-1-2)

<u>上 位</u>		<u>下 位</u>	
①日当たりや風通し	(4.09 点)	①病院などの医療施設	(2.98 点)
②緑の豊かさ	(3.93 点)	②交通の安全性	(3.03 点)
③し尿処理	(3.74 点)	③防犯や風紀	(3.05 点)
④下水・排水	(3.58 点)	④集会施設	(3.14 点)
⑤ごみ処理	(3.51 点)	④道路の整備状況	(3.14 点)

図 2-1-2 生活環境の評価点

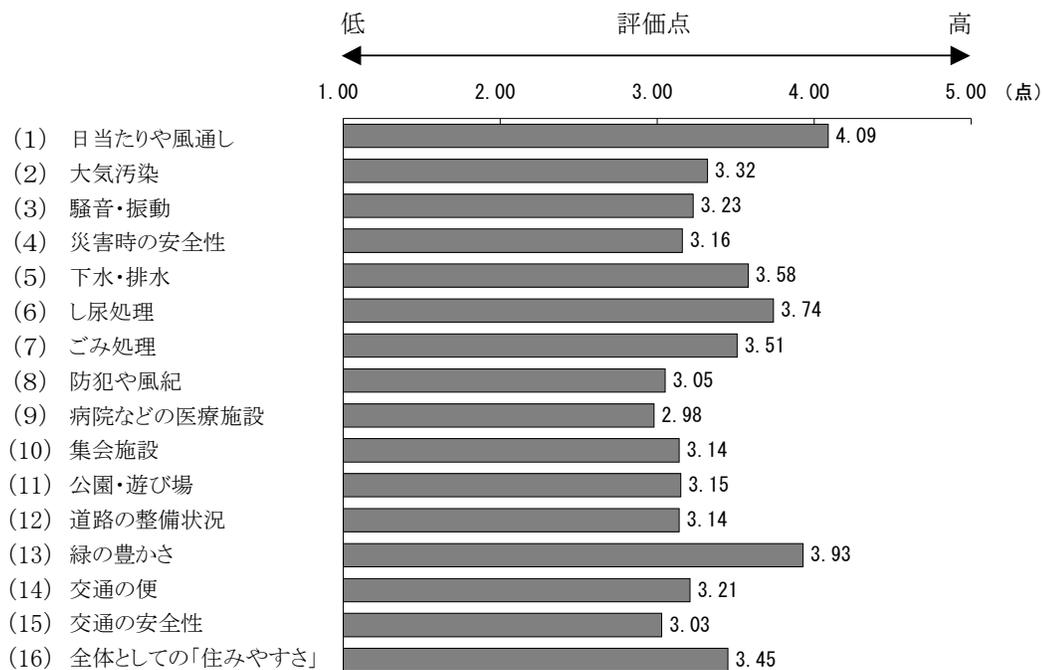


表 2-1-1 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別

(点)

	全 体	評価点					
		本 庁 管 内 中 央 地 域	元 八 王 子 ・ 西 部 ・ 恩 方 ・ 川 口	浅 川 ・ 横 山 ・ 西 南 部 地 域 ・ 館	加 住 ・ 石 川 北 部 地 域	由 井 ・ 北 野 東 南 部 地 域	由 木 ・ 由 木 東 東 部 ・ 南 地 域 大 沢
(1) 日当たりや風通し	4.09	3.82	4.13	4.17	4.12	4.13	4.28
(2) 大気汚染	3.32	2.92	3.43	3.45	2.96	3.45	3.68
(3) 騒音・振動	3.23	2.87	3.53	3.35	2.61	3.38	3.47
(4) 災害時の安全性	3.16	2.97	3.20	3.23	3.01	3.24	3.28
(5) 下水・排水	3.58	3.56	3.16	3.71	3.55	3.77	3.74
(6) し尿処理	3.74	3.71	3.35	3.87	3.76	3.90	3.90
(7) ごみ処理	3.51	3.46	3.39	3.63	3.39	3.66	3.55
(8) 防犯や風紀	3.05	2.91	3.11	3.19	2.88	3.08	3.06
(9) 病院などの医療施設	2.98	3.15	2.57	3.23	3.12	2.99	2.84
(10) 集会施設	3.14	3.15	3.02	3.24	2.93	3.12	3.28
(11) 公園・遊び場	3.15	2.90	2.80	3.29	2.82	3.32	3.69
(12) 道路の整備状況	3.14	3.06	2.44	3.24	2.93	3.38	3.73
(13) 緑の豊かさ	3.93	3.35	3.97	4.07	3.82	4.07	4.41
(14) 交通の便	3.21	3.67	2.39	3.39	2.64	3.30	3.41
(15) 交通の安全性	3.03	2.95	2.57	3.17	2.71	3.24	3.42
(16) 全体としての「住みやすさ」	3.45	3.35	3.19	3.59	3.18	3.54	3.77

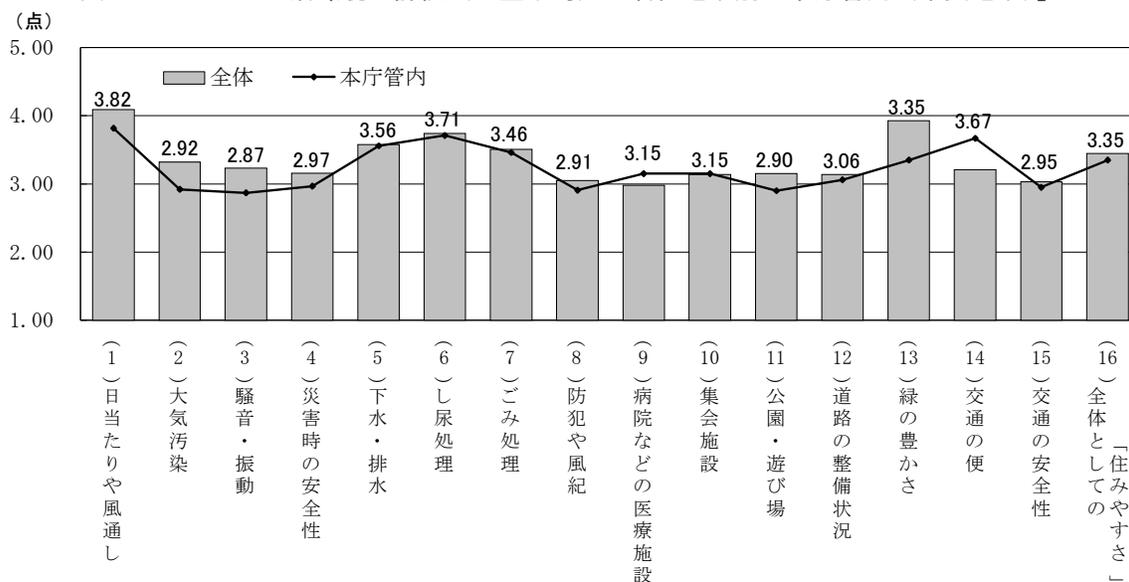
■ は、項目内での最高値をあらわす
■ は、項目内での最低値をあらわす

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(+0.46)となっている。下回っているのは13項目で、加住・石川（北部地域）と並んで多い。最も差が大きいのは「緑の豊かさ」(-0.58)で、他に差が大きいのは「大気汚染」(-0.40)、「騒音・振動」(-0.36)となっている。(図2-1-3)

図2-1-3 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」

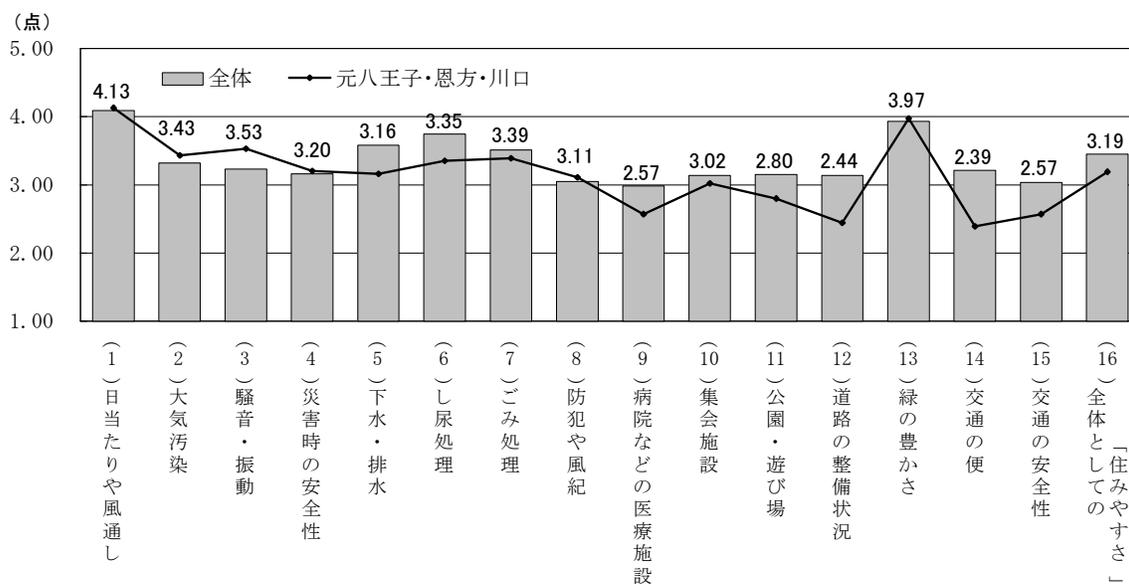


【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中6項目で、最も差が大きいのは「騒音・振動」(+0.30)となっている。下回っているのは10項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(-0.82)で、他に差が大きいのは「道路の整備状況」(-0.70)、「交通の安全性」(-0.46)、「下水・排水」(-0.42)、「病院などの医療施設」(-0.41)、「し尿処理」(-0.39)、「公園・遊び場」(-0.35)となっている。

(図2-1-4)

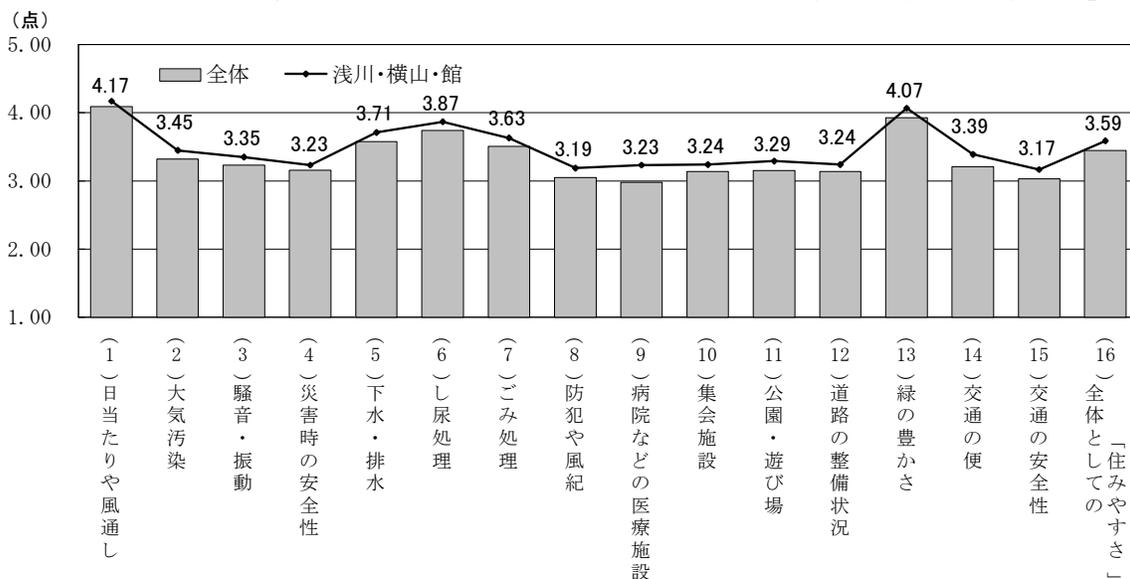
図2-1-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

16項目中すべての項目で市全体より上回っているものの、大きく上回る項目はみられず、市全体と大きな差はない。（図2-1-5）

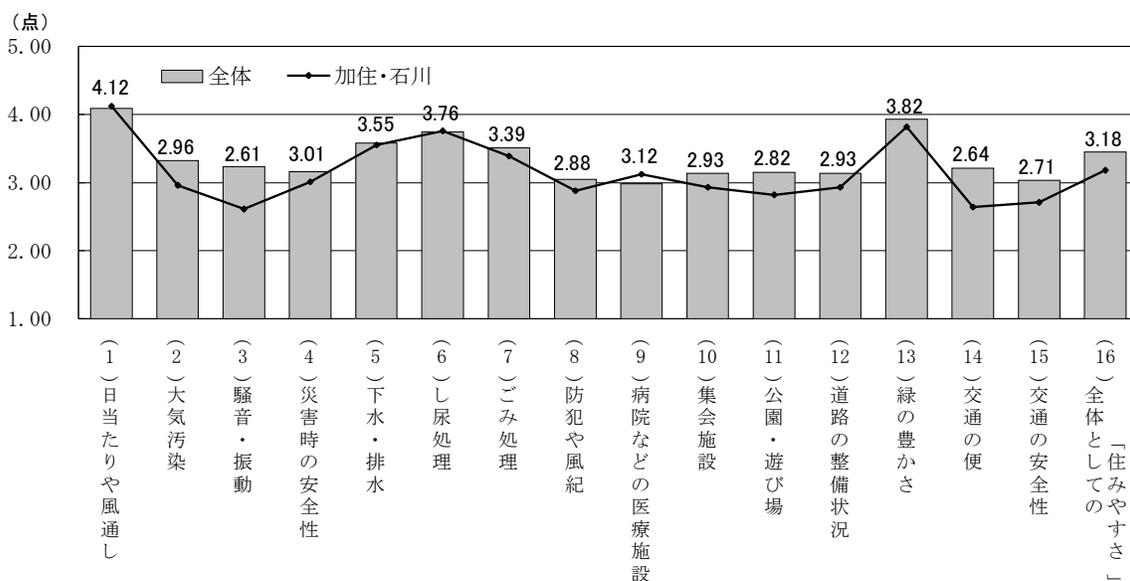
図2-1-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、差が大きくなっている項目はみられない。下回っているのは13項目で、本庁管内（中央地域）と並んで多い。最も差が大きいのは「騒音・振動」(-0.62)で、他に差が大きいのは「交通の便」(-0.57)、「大気汚染」(-0.36)、「公園・遊び場」(-0.33)、「交通の安全性」(-0.32)となっている。（図2-1-6）

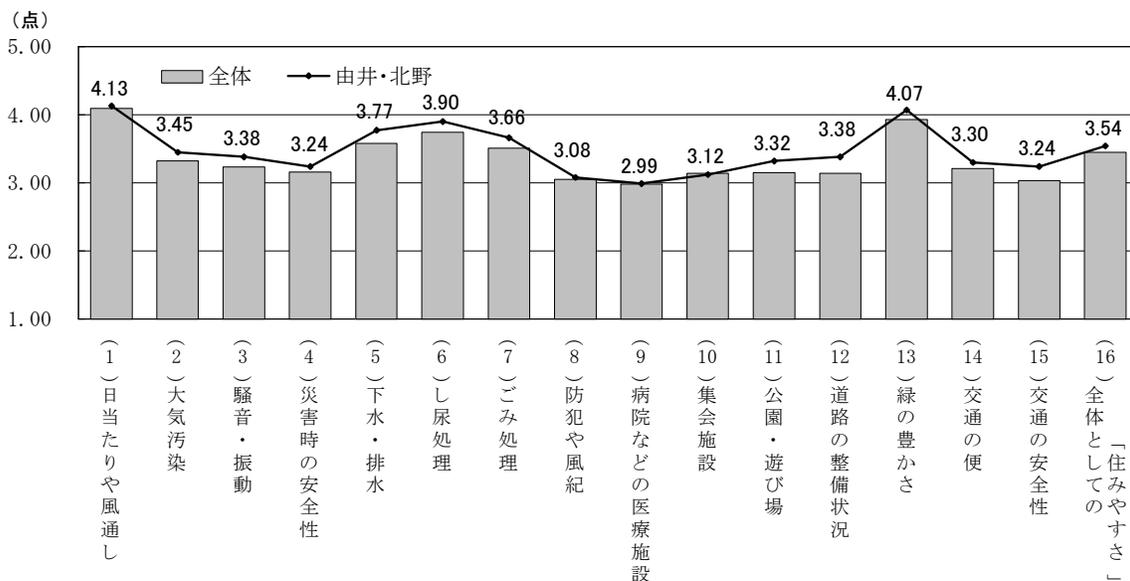
図2-1-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目、下回っているのは1項目で、いずれも差が大きくなっている項目はみられない。(図2-1-7)

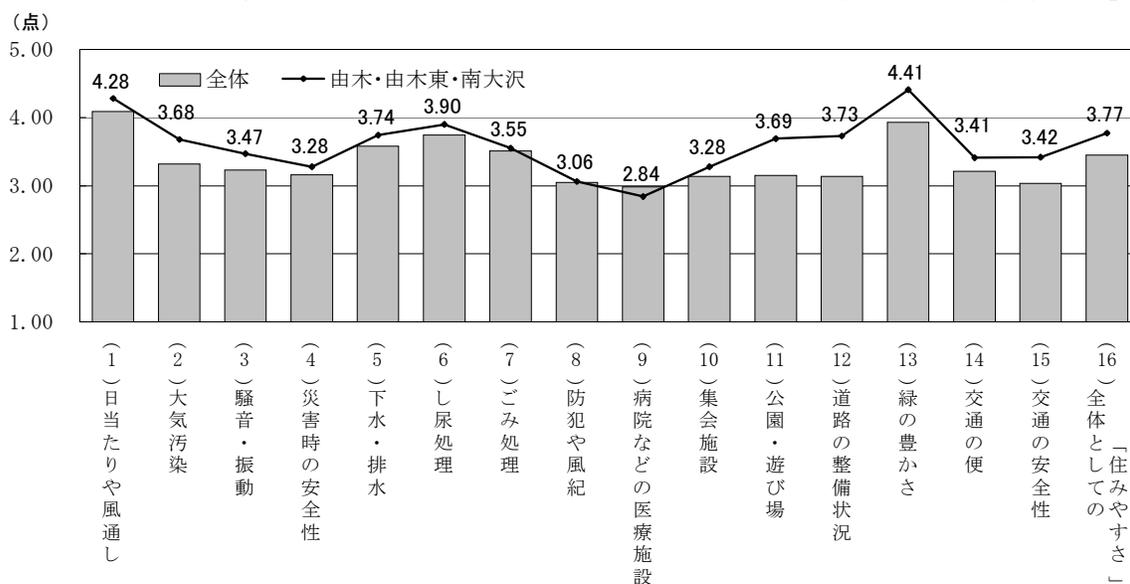
図2-1-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは「道路の整備状況」(+0.59)、「公園・遊び場」(+0.54)、「緑の豊かさ」(+0.48)、「交通の安全性」(+0.39)、「大気汚染」(+0.36)、『全体としての「住みやすさ」』(+0.32)となっている。下回っているのは「病院などの医療施設」(-0.15)のみとなっている。(図2-1-8)

図2-1-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」



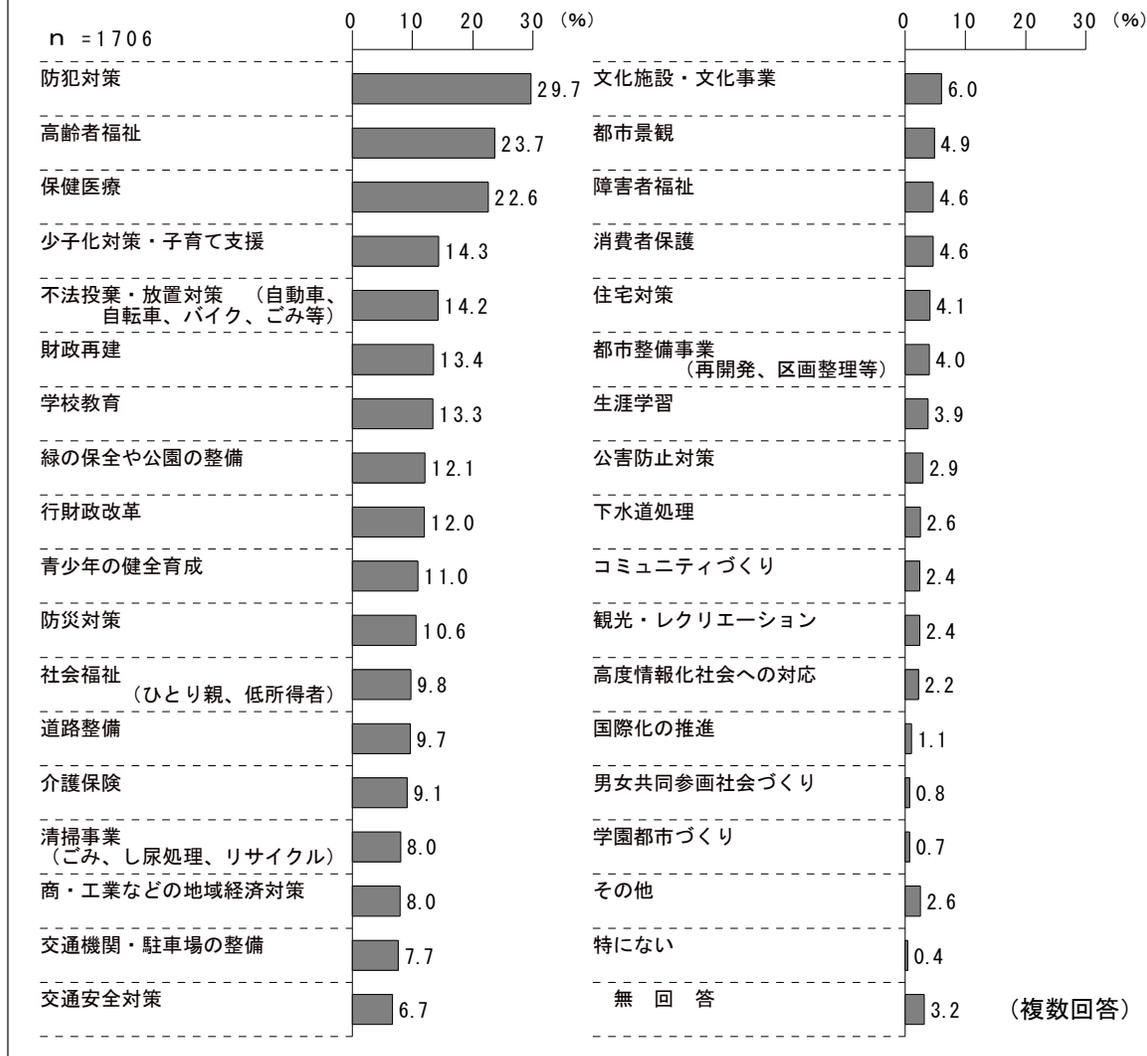
3. 市政への要望

3-1 重点施策要望

◇ 「防犯対策」、「高齢者福祉」、「保健医療」が上位3位

問3 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。
次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください。

図3-1-1



市政全般において特に力を入れてほしいと思う施策について聞いたところ、「防犯対策」(29.7%)が3割と最も高く、次いで「高齢者福祉」(23.7%)、「保健医療」(22.6%)、「少子化対策・子育て支援」(14.3%)、「不法投棄・放置対策(自動車、自転車、バイク、ごみ等)」(14.2%)などの順となっている。(図3-1-1)

経年での変化をみると、今回は前回から引き続き上位3位には「防犯対策」、「高齢者福祉」、「保健医療」が入り、同じ結果となっている。第4位には、前回9位だった「少子化対策・子育て支援」、第5位には前回6位だった「不法投棄・放置対策（自動車、自転車、バイク、ごみ等）」が入っている。その結果、前回4位だった「財政再建」が第6位に、前回5位だった「学校教育」が第7位となっている。（表3-1-1）

表3-1-1 重点施策要望一経年比較

(%)

年 順位	平成15年	平成16年	平成17年
第1位	高齢者福祉 (30.6)	防犯対策 (31.1)	防犯対策 (29.7)
第2位	防犯対策 (26.6)	高齢者福祉 (27.2)	高齢者福祉 (23.7)
第3位	保健医療 (22.4)	保健医療 (23.2)	保健医療 (22.6)
第4位	財政再建 (18.5)	財政再建 (16.0)	少子化対策・ 子育て支援 (14.3)
第5位	行財政改革 (16.2)	学校教育 (14.3)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (14.2)
第6位	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (15.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (13.7)	財政再建 (13.4)
第7位	学校教育 (11.8)	行財政改革 (12.3)	学校教育 (13.3)
第8位	青少年の健全育成/ 介護保険	道路整備 (11.4)	緑の保全や公園 の整備 (12.1)
第9位		少子化対策・ 子育て支援 (11.3)	行財政改革 (12.0)
第10位	清掃事業 (10.5)	清掃事業 (10.8)	青少年の健全育成 (11.0)

性別にみると、男女ともに第1位は「防犯対策」となっている。第2位と第3位には、性別により「保健医療」と「高齢者福祉」の順序が入れ替わっている。また、「高齢者福祉」は7ポイント、「保健医療」は5ポイント、女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性では第1位に50歳代以下の年代では「防犯対策」、60～64歳では「防犯対策」と「高齢者福祉」、65歳以上では「高齢者福祉」となっている。女性では、第1位に20歳代では「防犯対策」と「少子化対策・子育て支援」、30歳代では「防犯対策」、40歳代では「学校教育」、50歳以上の年代では「高齢者福祉」となっている。

「防犯対策」は男性ではすべての年代で第3位までに、女性では第4位までに入っている。「高齢者福祉」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性の65歳以上では5割を占めている。(表3-1-2)

表3-1-2 重点施策要望－性・年齢別

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男 性	防犯対策 (31.3)	保健医療 (20.1)	高齢者福祉 (19.9)	財政再建 (15.9)	行財政改革 (15.3)
女 性	防犯対策 (28.5)	高齢者福祉 (26.6)	保健医療 (24.9)	少子化対策・ 子育て支援 (16.5)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (15.6)
男 性 20 歳 代	防犯対策 (30.3)	少子化対策・ 子育て支援 (19.3)	緑の保全や公園 の整備 (17.4)	財政再建 (16.5)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (14.7)
30 歳 代	防犯対策 (38.9)	少子化対策・ 子育て支援 (26.5)	保健医療 (20.4)	学校教育 (18.6)	商・工業などの 地域経済対策 (15.0)
40 歳 代	防犯対策 (42.5)	財政再建 (20.1)	学校教育 (17.9)	行財政改革 (17.2)	高齢者福祉 (16.4)
50 歳 代	防犯対策 (27.8)	高齢者福祉 (21.5)	保健医療 (19.0)	青少年の 健全育成 (17.1)	財政再建 (16.5)
60～64 歳	防犯対策／高齢者福祉 (27.0)		保健医療 (24.0)	行財政改革 (21.0)	財政再建 (19.0)
65 歳 以上	高齢者福祉 (37.0)	保健医療 (30.1)	防犯対策 (22.6)	行財政改革 (15.1)	青少年の 健全育成 (13.0)
女 性 20 歳 代	防犯対策／ 少子化対策・子育て支援 (30.2)		清掃事業 (ごみ、し尿処理、 リサイクル) (19.8)	緑の保全や公園 の整備 (17.2)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (16.4)
30 歳 代	防犯対策 (38.2)	少子化対策・ 子育て支援 (36.0)	保健医療／学校教育 (26.4)		緑の保全や公園 の整備 (18.5)
40 歳 代	学校教育 (36.5)	防犯対策 (30.7)	保健医療 (24.1)	高齢者福祉 (19.0)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (16.8)
50 歳 代	高齢者福祉 (30.2)	防犯対策 (25.1)	保健医療 (24.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (19.6)	財政再建 (14.1)
60～64 歳	高齢者福祉 (40.1)	保健医療 (30.6)	防犯対策 (23.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (18.4)	青少年の 健全育成／ 介護保険 (13.6)
65 歳 以上	高齢者福祉 (50.0)	保健医療 (28.0)	介護保険 (25.3)	防犯対策 (23.3)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (14.0)

居住地域別にみると、元八王子・恩方・川口（西部地域）は「保健医療」が第1位で、その他の地域では「防犯対策」が第1位となっており、「由井・北野（東南部地域）」ではほぼ4割と高くなっている。また、すべての居住地域で「保健医療」、「高齢者福祉」が第3位までに、「防犯対策」が第4位までに入っている。元八王子・恩方・川口（西部地域）では「道路整備」が第3位、加住・石川（北部地域）では「学校教育」が第2位に入っているのが目立つ。（表3-1-3）

表3-1-3 重点施策要望－居住地域別

(96)

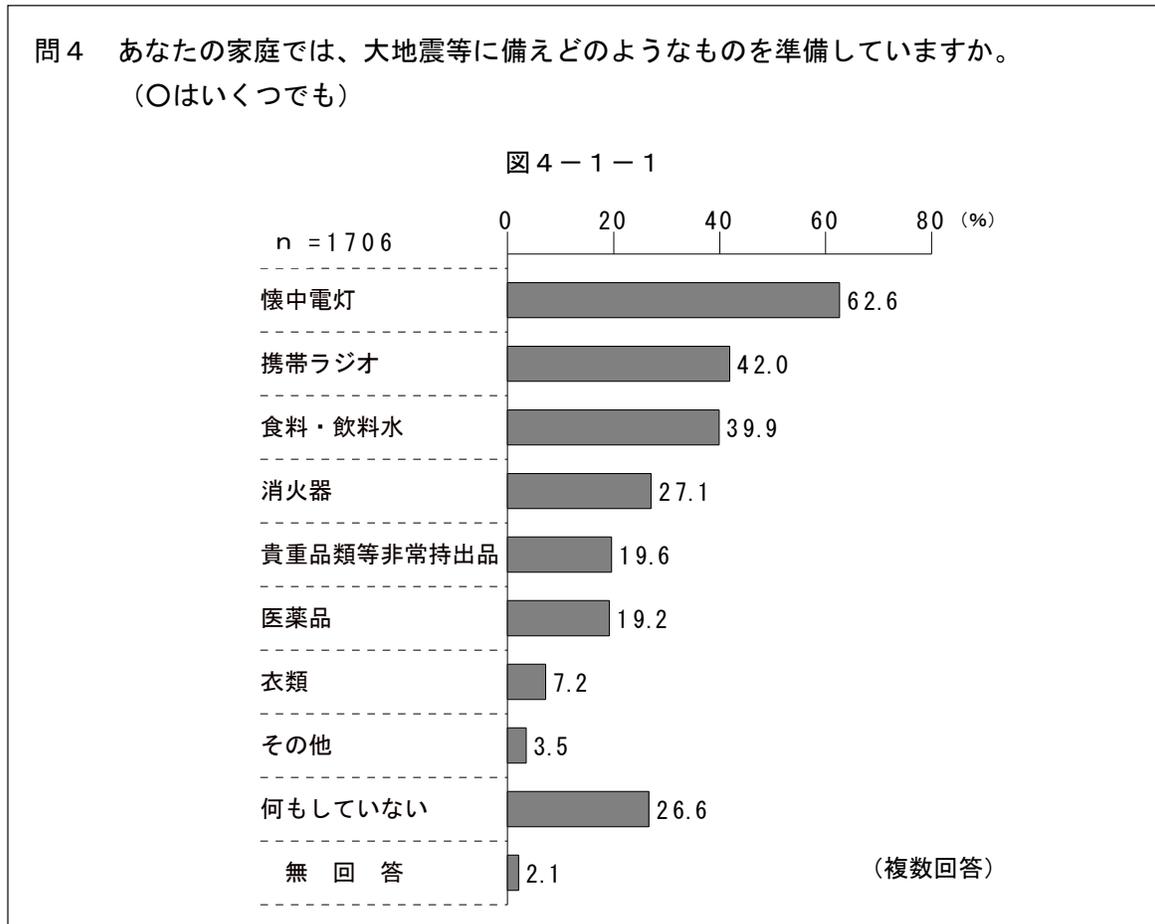
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
本 庁 管 内 (中 央 地 域)	防犯対策 (28.8)	保健医療 (23.5)	高齢者福祉 (20.2)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (16.4)	財政再建 (13.9)
元八王子・恩方・川口 (西 部 地 域)	保健医療 (24.7)	高齢者福祉 (24.3)	道路整備 (23.7)	防犯対策 (19.3)	交通機関・ 駐車場の整備 (15.0)
浅川・横山・館 (西 南 部 地 域)	防犯対策 (28.3)	保健医療 (25.0)	高齢者福祉 (24.7)	財政再建／学校教育 (18.1)	
加 住 ・ 石 川 (北 部 地 域)	防犯対策 (30.7)	学校教育 (19.3)	保健医療／高齢者福祉 (16.4)		防災対策 (15.0)
由 井 ・ 北 野 (東 南 部 地 域)	防犯対策 (40.6)	高齢者福祉 (27.1)	保健医療 (25.8)	少子化対策・ 子育て支援 (17.0)	行財政改革 (15.7)
由木・由木東・南大沢 (東 部 地 域)	防犯対策 (33.8)	高齢者福祉 (27.5)	保健医療 (17.2)	少子化対策・子育て支援／ 不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、ごみ等)／ 学校教育 (14.6)	

4. 防災対策について

4-1 大地震に備えた準備状況

◇「懐中電灯」が6割を超える

問4 あなたの家庭では、大地震等に備えどのようなものを準備していますか。
(〇はいくつでも)



家庭での大地震等に備えた準備状況について聞いたところ、「懐中電灯」(62.6%)が6割を超え最も高く、次いで「携帯ラジオ」(42.0%)、「食料・飲料水」(39.9%)、「消火器」(27.1%)、「貴重品類等非常持出品」(19.6%)、「医薬品」(19.2%)、「衣類」(7.2%)となっている。また、「何もしていない」(26.6%)が2割半ばと比較的高くなっている。(図4-1-1)

上位5項目を性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「懐中電灯」、「携帯ラジオ」、「貴重品類等非常持出品」はそれぞれ高い年代ほど割合が高い傾向にあり、「懐中電灯」は60歳以上の年代で7割、「携帯ラジオ」は、60歳以上の年代で5割を超え、「貴重品類等非常持出品」は65歳以上で3割を超え高くなっている。

(図4-1-2)

上位5項目を住居形態別にみると、一戸建て(持ち家)、分譲マンション、一戸建て(借家)では、「懐中電灯」で6割以上、「携帯ラジオ」で4割から5割、「消火器」で3割以上と、他の住居形態に比べて高くなっている。また、民間の賃貸アパート・マンションと社宅・官舎・寮では、上位5項目は他の住居形態より低くなっている。(図4-1-3)

図4-1-2 大地震に備えた準備状況—性別・年齢別(上位5項目)

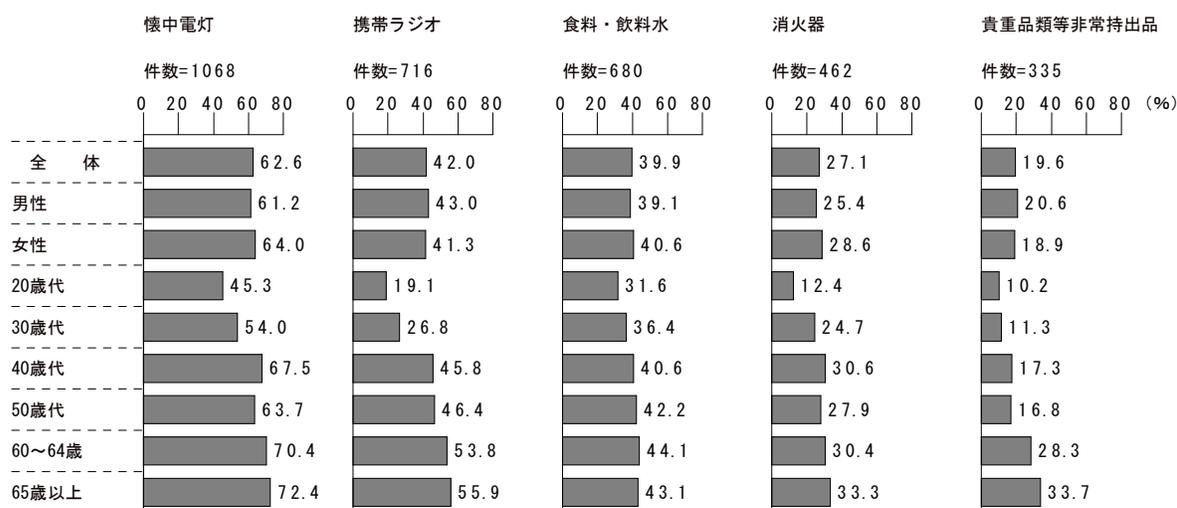
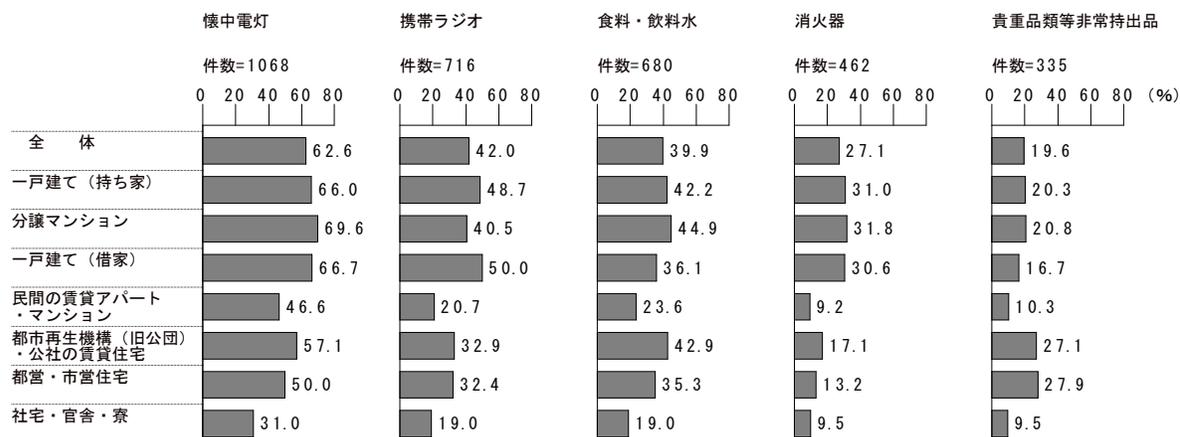


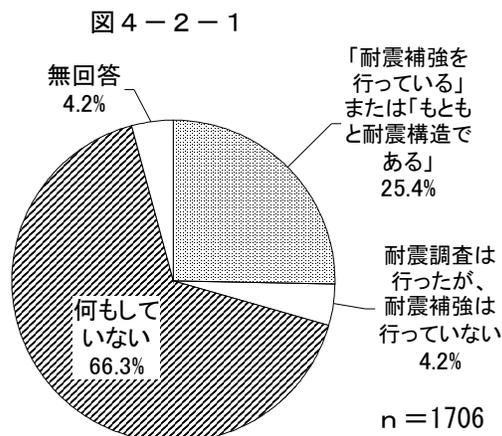
図4-1-3 大地震に備えた準備状況—住居形態別(上位5項目)



4-2 建物倒壊防止対策の実施状況

◇「何もしていない」が6割半ば、『「耐震補強を行っている」または「もともと耐震構造である」』が2割半ばを占める

問5 阪神・淡路大震災では、死亡被災者の約9割が建物倒壊や家具等の転倒による圧死でした。あなたの家庭では、建物倒壊防止対策を行っていますか。(○は1つだけ)

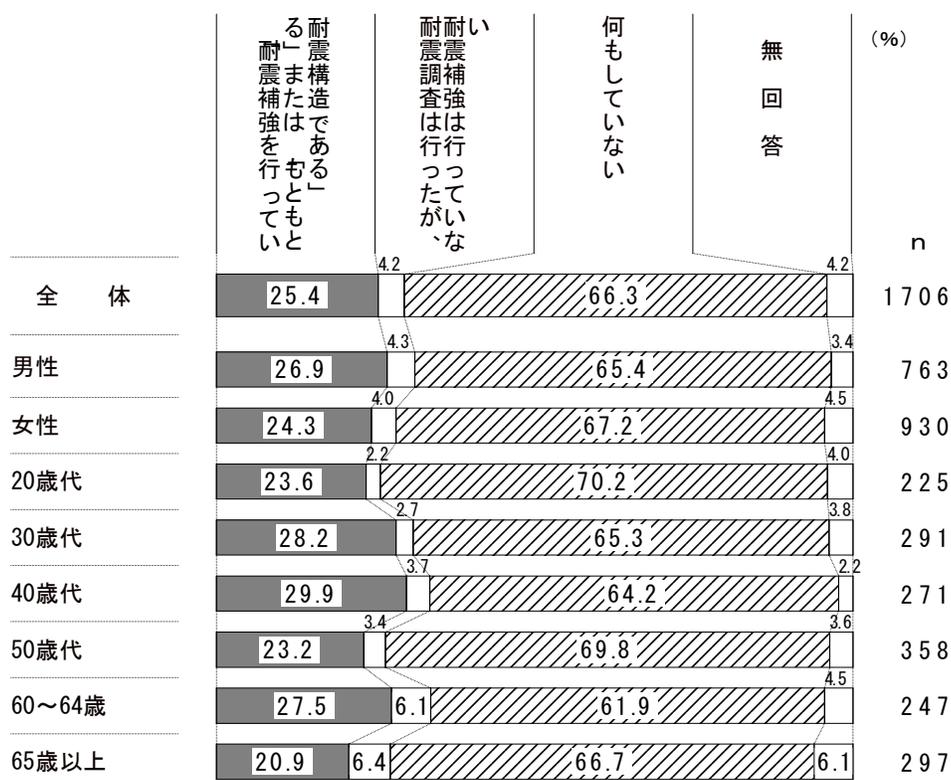


家庭での建物倒壊防止対策の実施状況について聞いたところ、『「耐震補強を行っている」または「もともと耐震構造である」』(25.4%)が2割半ば、「耐震調査は行ったが、耐震補強は行っていない」は1割未満となっている。また、「何もしていない」(66.3%)が6割半ばを占め高くなっている。(図4-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

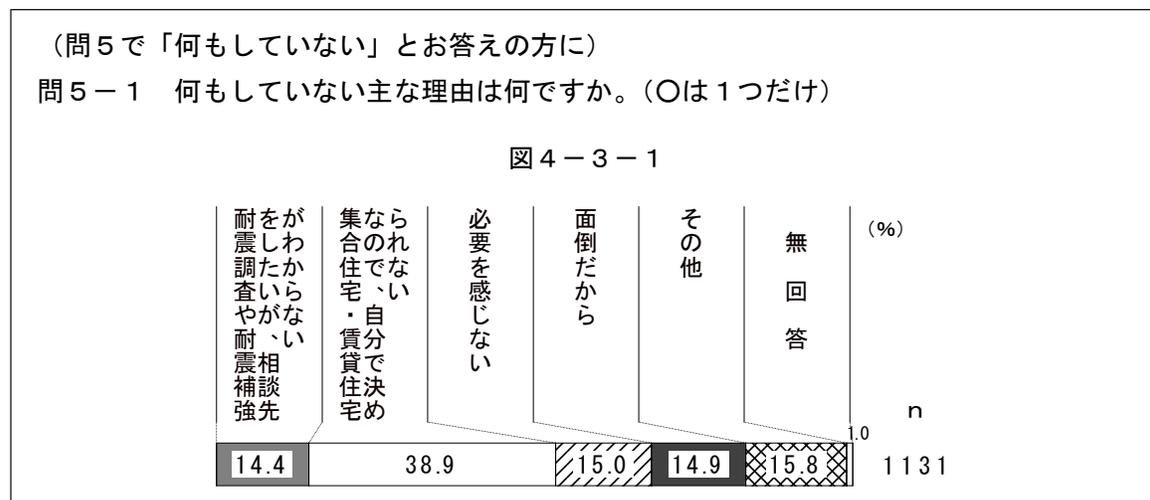
年齢別にみても、ほぼ同じ傾向になっている。(図4-2-2)

図4-2-2 建物倒壊防止対策の実施状況—性別・年齢別



4-3 建物倒壊防止策を実施しない理由

◇「集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない」が4割近く

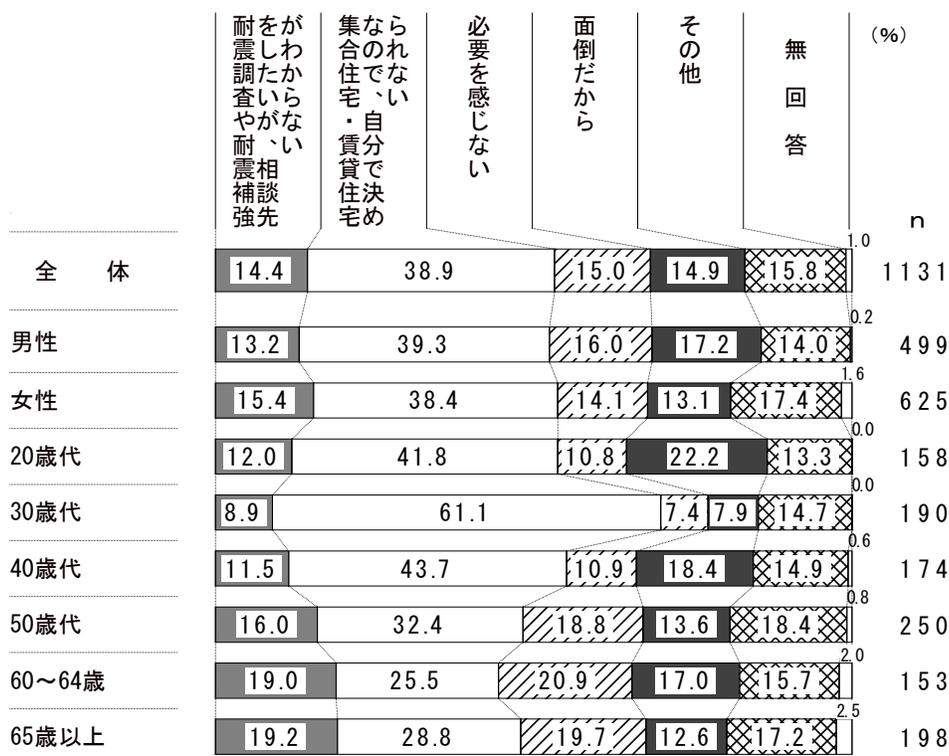


建物倒壊防止対策の実施状況で「何もしていない」と答えた人(1,131人)に、何もしていない理由について聞いたところ、「集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで「必要を感じない」(15.0%)、「面倒だから」(14.9%)、「耐震調査や耐震補強をしたいが、相談先がわからない」(14.4%)がそれぞれ1割半ばとなっている。(図4-3-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない」が30歳代で6割を超え、飛び抜けて高くなっている。(図4-3-2)

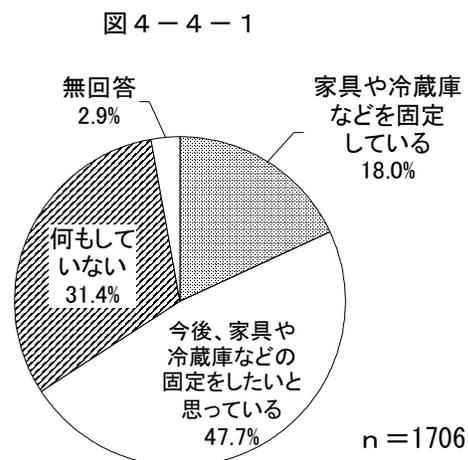
図4-3-2 建物倒壊防止策を実施しない理由—性別・年齢別



4-4 家具の転倒防止対策の実施状況

◇「今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている」が5割近く

問6 あなたの家庭では、何か家具の転倒防止対策を行っていますか。(○は1つだけ)



家庭での家具の転倒防止対策の実施状況について聞いたところ、「今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている」(47.7%)が5割近く、「家具や冷蔵庫などを固定している」(18.0%)が2割近くとなっている。また、「何もしていない」(31.4%)が3割を超える。(図4-4-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている」は60歳以上の年代で5割を超え、「何もしていない」は20歳代と50歳代で4割近くと比較的高くなっている。

(図4-4-2)

住居形態別にみると、「何もしていない」は民間の賃貸アパート・マンションと社宅・官舎・寮で4割を超え高くなっている。(図4-4-3)

図4-4-2 家具の転倒防止対策の実施状況—性別・年齢別

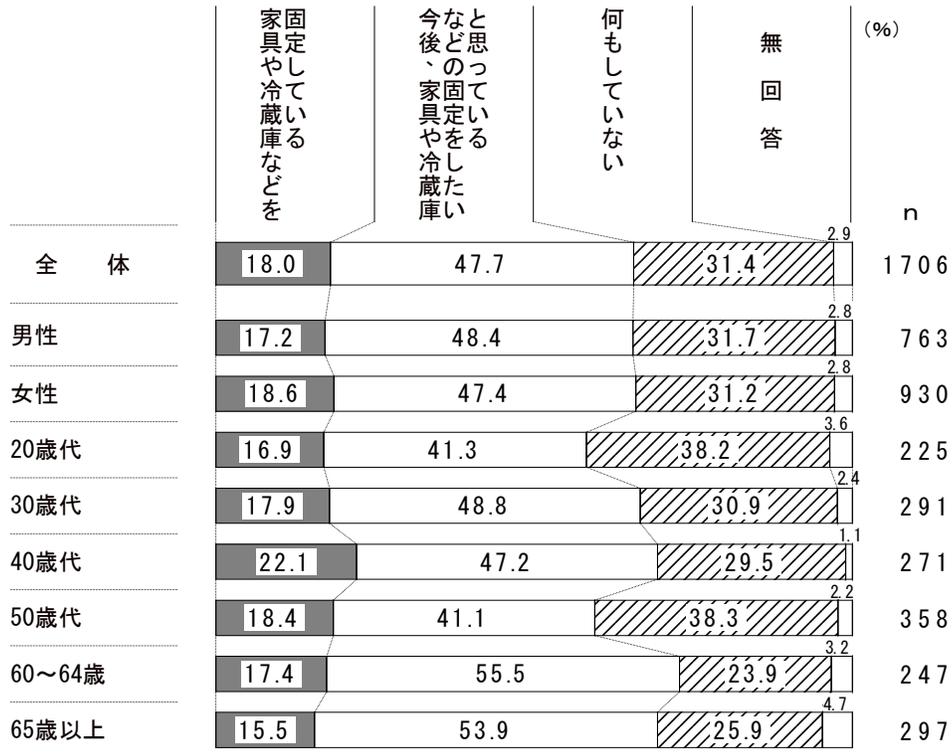
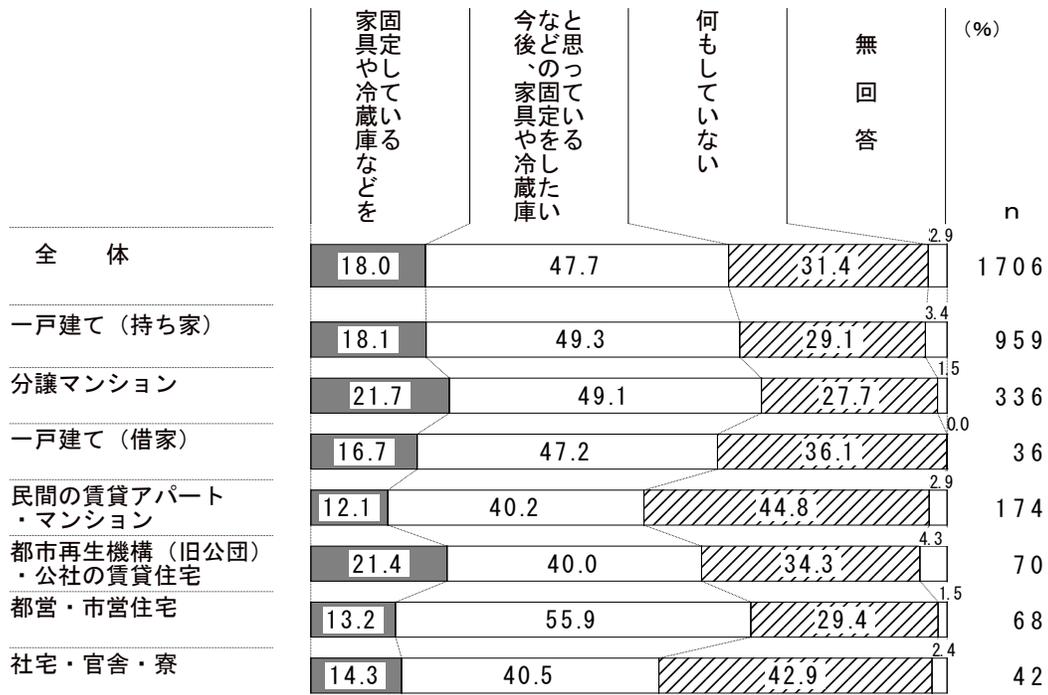


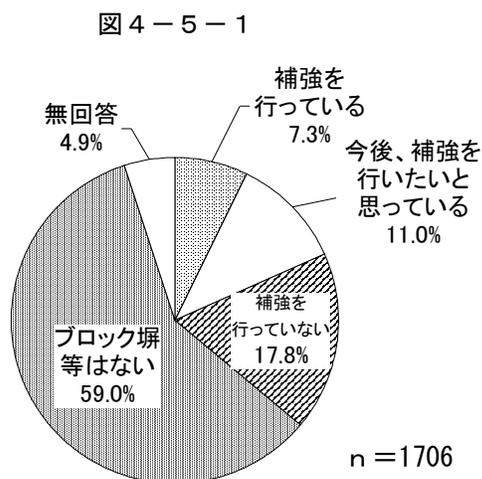
図4-4-3 家具の転倒防止対策の実施状況—住居形態別



4-5 ブロック塀等の補強対策の実施状況

◇「補強を行っていない」が2割近く、「ブロック塀等はない」がほぼ6割

問7 家の外まわりの安全対策として、ブロック塀等の補強対策を行っていますか。
(○は1つだけ)

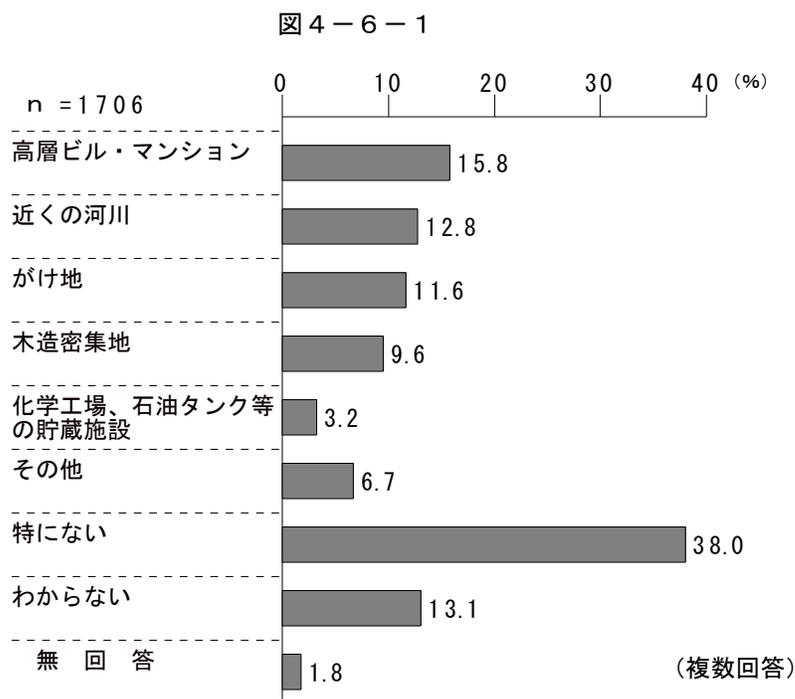


安全対策としてブロック塀等の補強対策の実施状況について聞いたところ、「補強を行っていない」(17.8%)が2割近く、「今後、補強を行いたいと思っている」(11.0%)が1割を超え、「補強を行っている」(7.3%)が1割未満となっている。なお、「ブロック塀等はない」(59.0%)がほぼ6割となっている。(図4-5-1)

4-6 災害発生時に危険だと思う場所

◇「高層ビル・マンション」が1割半ば、「特にない」が4割近く

問8 あなたの自宅周辺では、災害発生時に危険だと思う場所がありますか。
(○はいくつでも)



自宅周辺の災害発生時に危険だと思う場所について聞いたところ、「高層ビル・マンション」(15.8%)が1割半ば、「近くの河川」(12.8%)と「がけ地」(11.6%)が1割を超え、「木造密集地」(9.6%)と「化学工場、石油タンク等の貯蔵施設」(3.2%)が1割未満となっている。また、「特にない」(38.0%)は4割近くである。(図4-6-1)

上位5項目を性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「高層ビル・マンション」は40歳代で2割半ばと高くなっている。(図4-6-2)

上位5項目を居住地域別にみると、「高層ビル・マンション」は本庁管内(中央地域)と由木・由木東・南大沢(東部地域)で2割を超え高くなっている。(図4-6-3)

図4-6-2 災害発生時に危険だと思う場所—性別・年齢別(上位5項目)

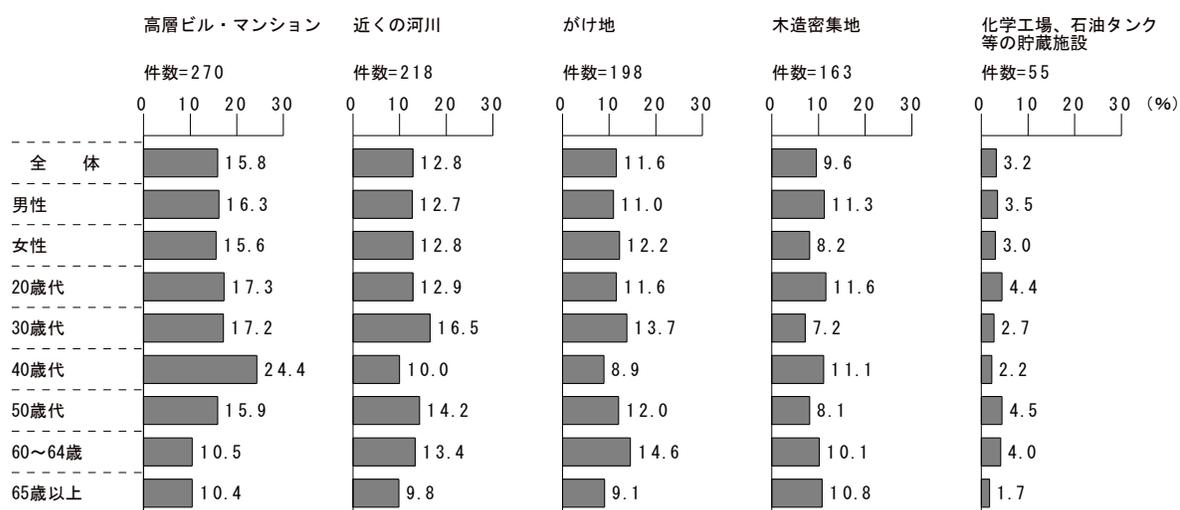
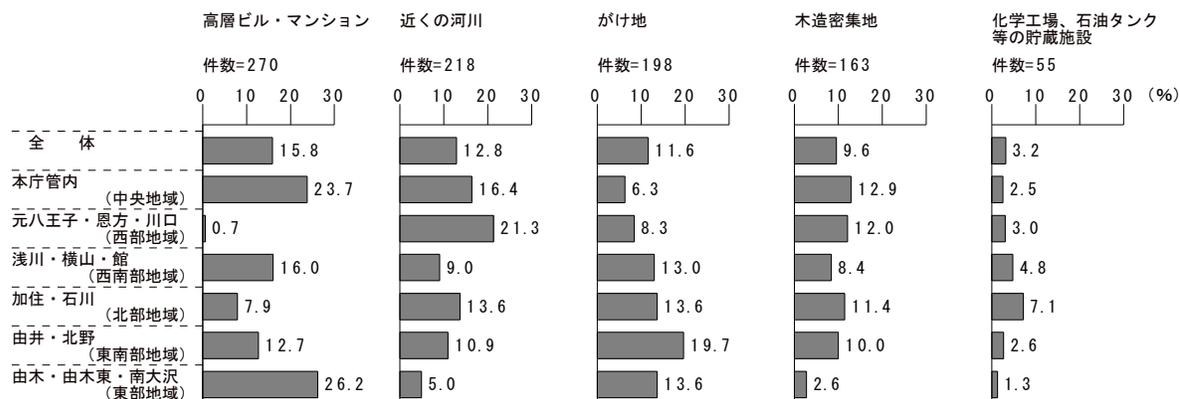


図4-6-3 災害発生時に危険だと思う場所—居住地域別(上位5項目)

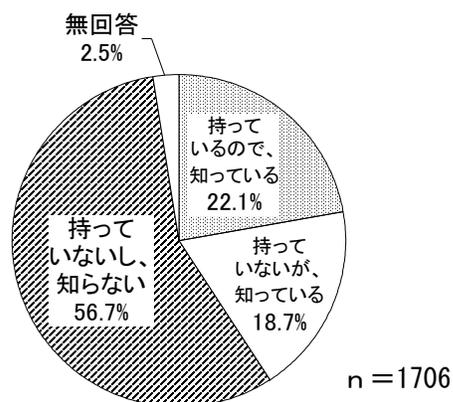


4-7 防災マップの普及状況

◇『知っている』がほぼ4割

問9 あなたは、市で作成した防災マップをご存知ですか。(○は1つだけ)

図4-7-1



市の防災マップを知っているかどうか聞いたところ、「持っているので、知っている」(22.1%)が2割を超え、「持っていないが、知っている」(18.7%)を合わせた『知っている』(40.8%)がほぼ4割となっている。また、「持っていないし、知らない」(56.7%)が6割近くとなっている。

(図4-7-1)

性別にみると、「持っているので、知っている」は女性の方が6ポイント高く、「持っていないが、知っている」を合わせた『知っている』でも4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「持っているので、知っている」は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、『知っている』でも同じ傾向となっている。また、20歳代では「持っていないし、知らない」が8割近くとなっている。(図4-7-2)

居住地域別にみると、『知っている』は浅川・横山・館(西南部地域)で4割半ばと高くなっている。

(図4-7-3)

図4-7-2 防災マップの普及状況－性別・年齢別

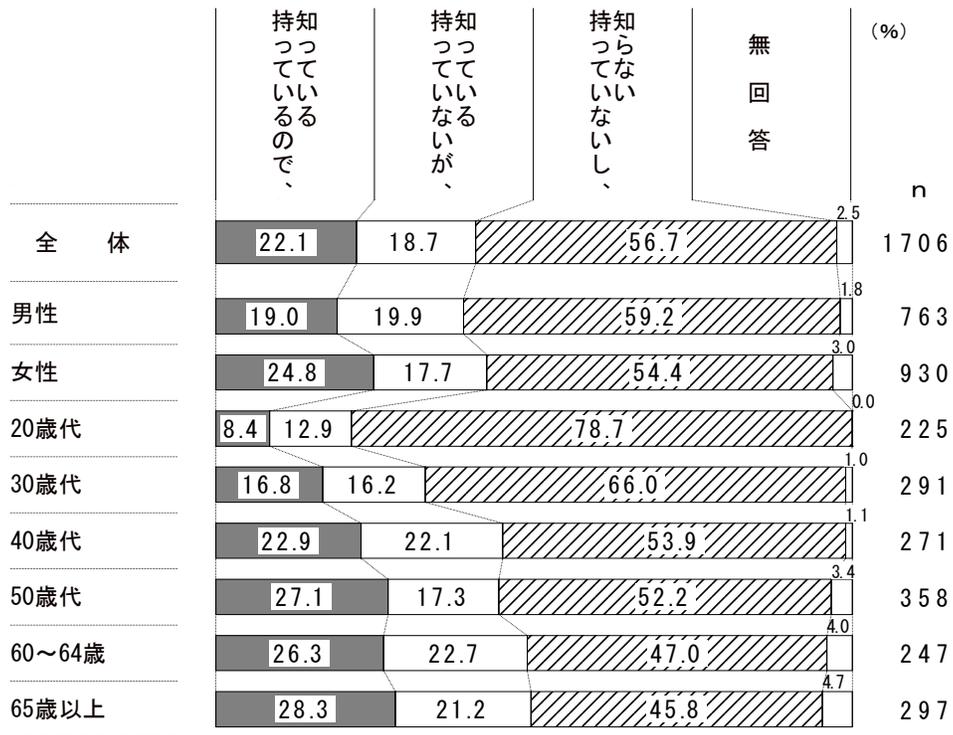
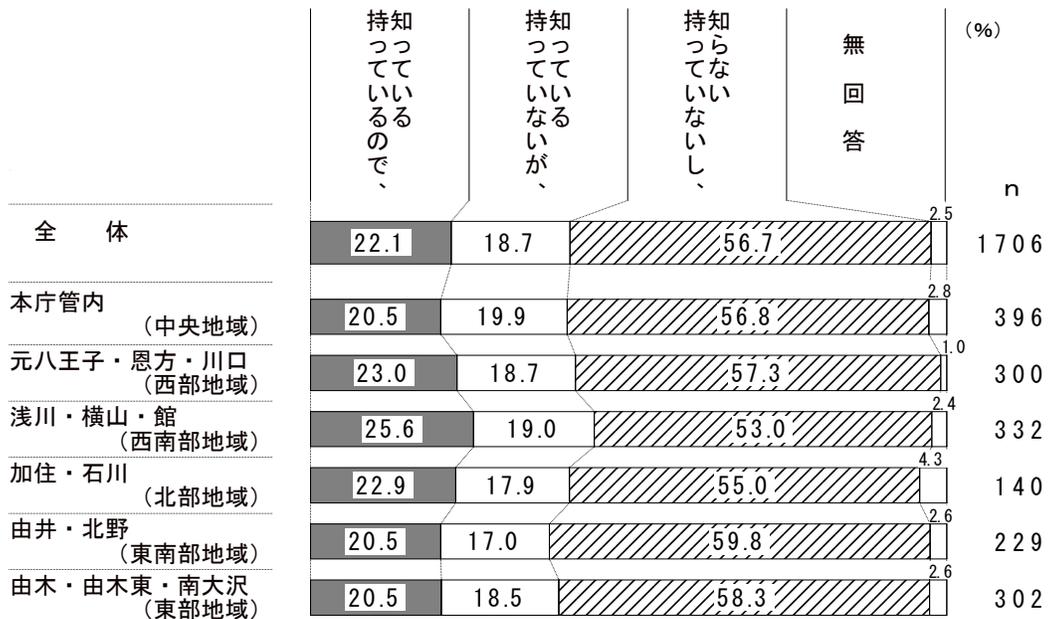


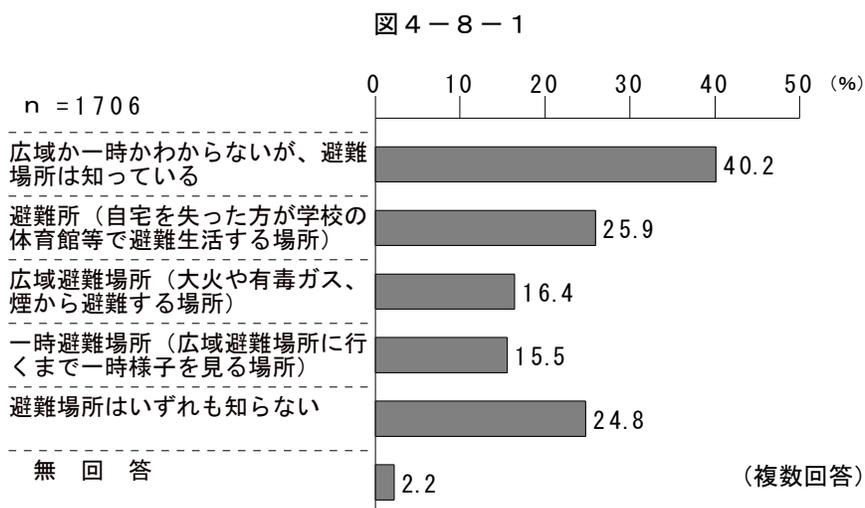
図4-7-3 防災マップの普及状況－居住地域別



4-8 避難場所の認知状況

◇ 「広域か一時かわからないが、避難場所は知っている」が4割

問10 あなたは、お住まいの地域の避難場所がどこにあるかを知っていますか。
(〇はいくつでも)



住まいの地域の避難場所を知っているかどうか聞いたところ、「広域か一時かわからないが、避難場所は知っている」(40.2%)が4割と最も高く、次いで「避難所（自宅が焼失、倒壊し住まいがない方に学校の体育館等で避難生活する場所）」(25.9%)、「広域避難場所（大火や有毒ガス、煙から避難する場所）」(16.4%)、「一時避難場所（広域避難場所に行くまで一時様子を見る場所）」(15.5%)の順となっている。また、「避難場所はいずれも知らない」(24.8%)が2割半ばとなっている。

(図4-8-1)

性別にみると、「避難所（自宅が焼失、倒壊し住まいがない方に学校の体育館等で避難生活する場所）」は女性の方が6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「一時避難場所（広域避難場所に行くまで一時様子を見る場所）」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。（図4-8-2）

居住地域別にみると、地域による大きな差はみられない。（図4-8-3）

図4-8-2 避難場所の認知状況—性別・年齢別

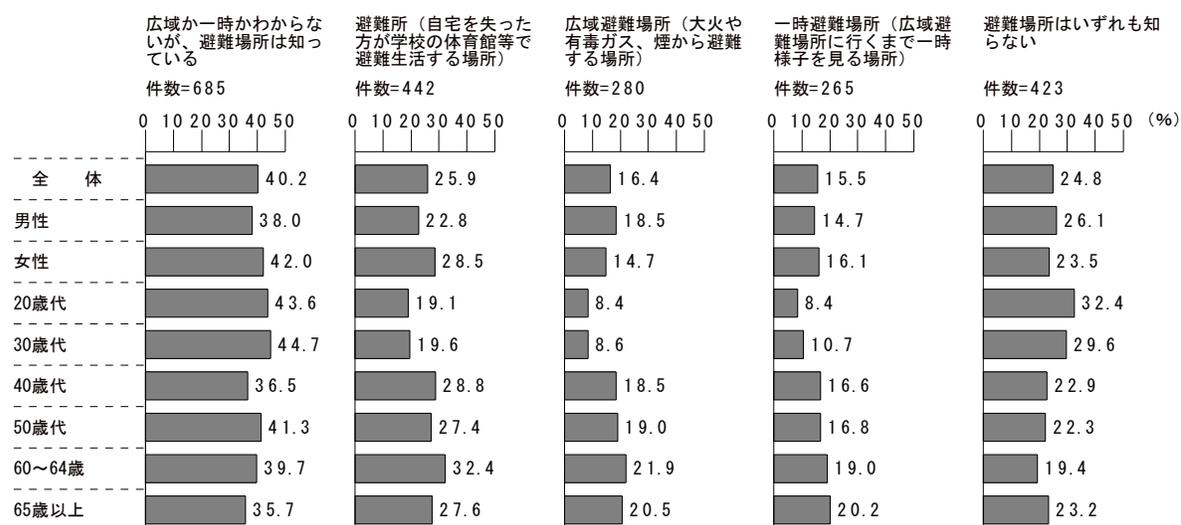
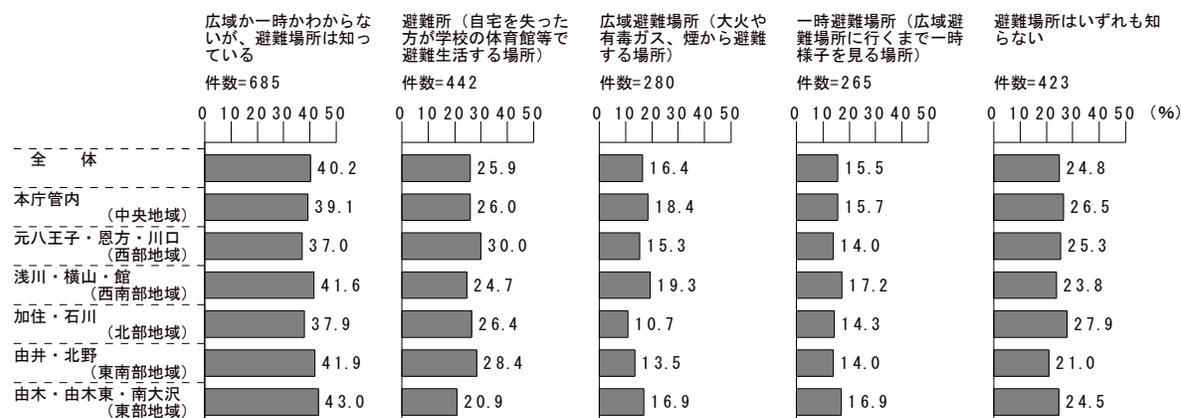


図4-8-3 避難場所の認知状況—居住地域別

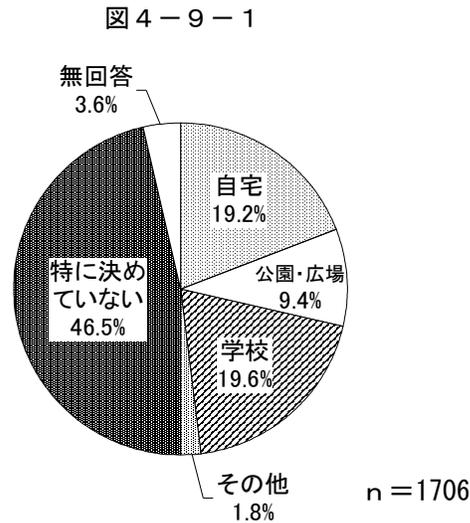


4-9 大地震の時の集合場所

◇「学校」と「自宅」がほぼ2割、「特に決めていない」が半数近く

問11 大地震の時、家族で決めている集合場所や連絡方法は次のどれですか。

(1) 集合場所 (○は1つだけ)



大地震の時に家族で決めている集合場所について聞いたところ、「学校」(19.6%)が2割、「自宅」(19.2%)がほぼ2割、「公園・広場」(9.4%)が1割未満となっている。また、「特に決めていない」(46.5%)が5割近くとなっている。(図4-9-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「自宅」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。「学校」は40歳代でほぼ3割と高く、「特に決めていない」は20歳代で6割を超え高くなっている。(図4-9-2)

居住地域別にみると、「学校」は由木・由木東・南大沢(東部地域)で3割近くと高くなっている。また、加住・石川(北部地域)では「自宅」が2割半ばと高く、「学校」が1割を超えるにとどまっている。(図4-9-3)

図4-9-2 大地震の時の集合場所—性別・年齢別

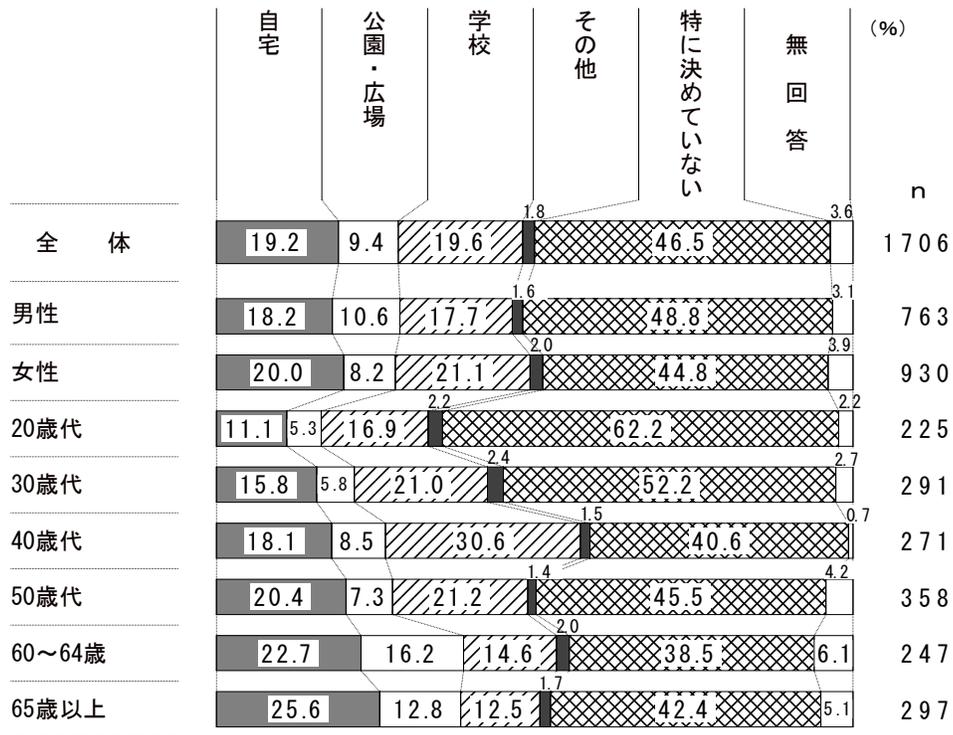
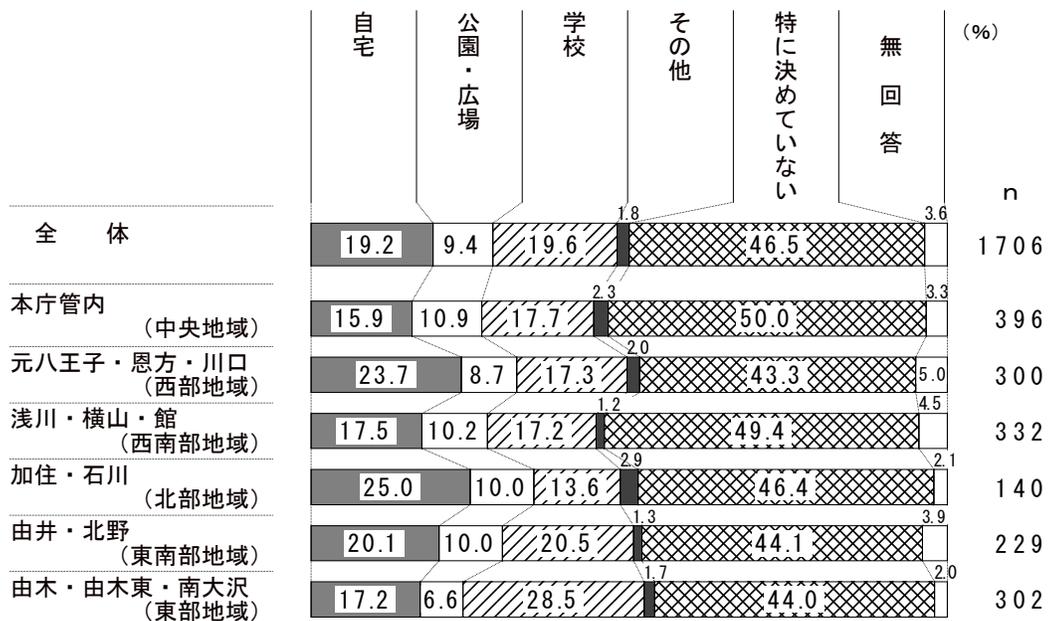


図4-9-3 大地震の時の集合場所—居住地域別



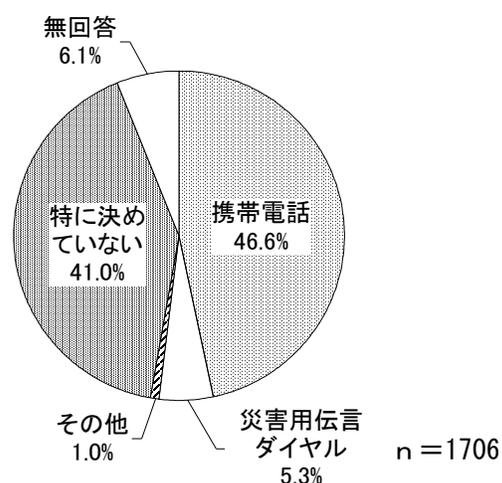
4-10 大地震の時の連絡方法

◇「携帯電話」が5割近く、「特に決めていない」が4割を超える

問11 大地震の時、家族で決めている集合場所や連絡方法は次のどれですか。

(2) 連絡方法 (○は主なもの1つだけ)

図4-10-1



大地震の時に家族で決めている連絡方法について聞いたところ、「携帯電話」(46.6%)が5割近く、「災害用伝言ダイヤル」(5.3%)が1割未満となっている。また、「特に決めていない」(41.0%)が4割を超えている。(図4-10-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「携帯電話」は40歳代と50歳代で5割以上を占めている。(図4-10-2)

居住地域別にみると、「携帯電話」は全地域で5割前後となっている。(図4-10-3)

図4-10-2 大地震の時の連絡方法—性別・年齢別

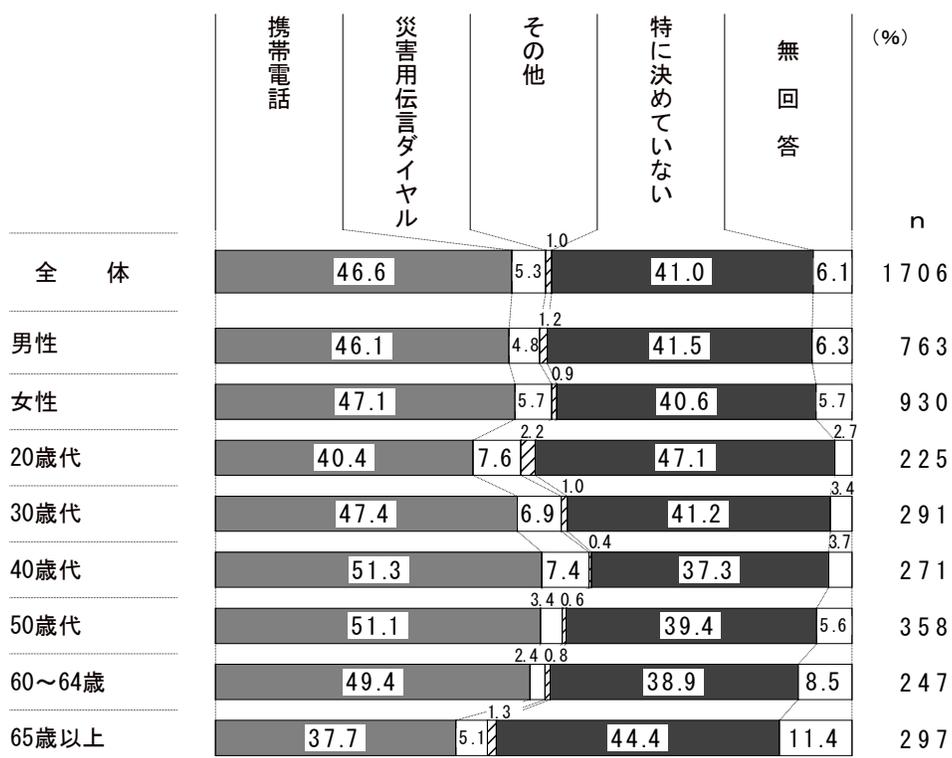
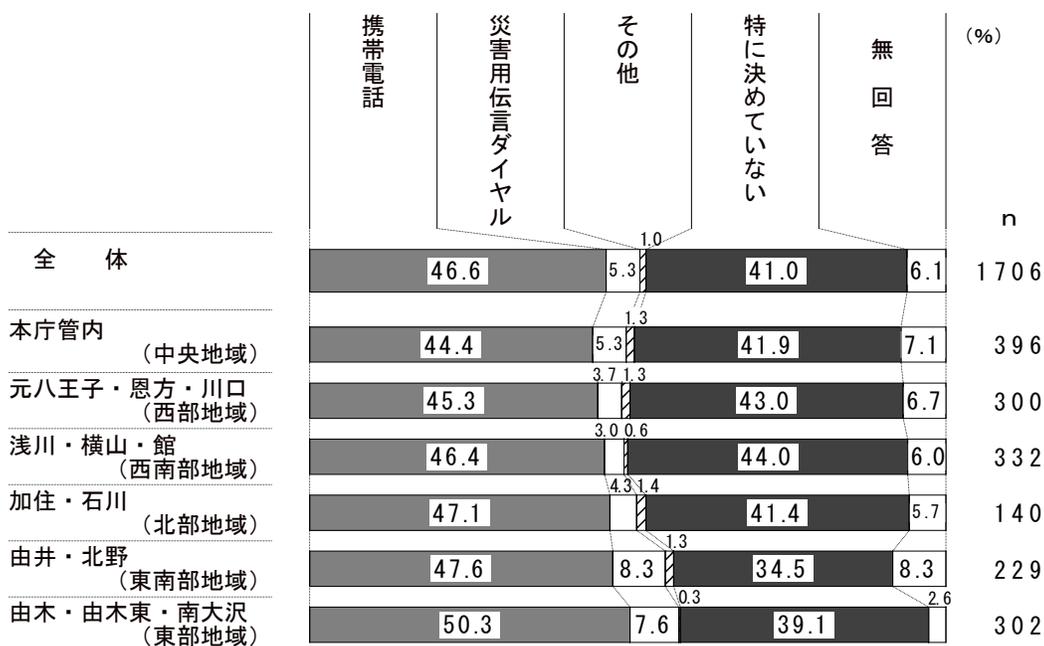
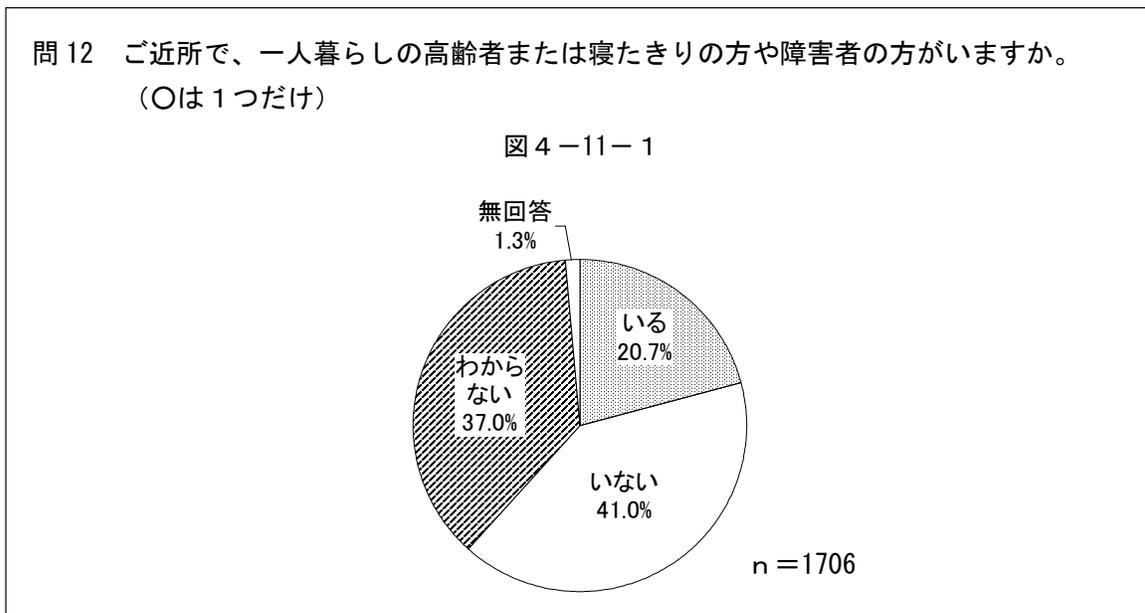


図4-10-3 大地震の時の連絡方法—居住地域別



4-11 近隣の災害弱者の有無

◇「いる」がほぼ2割、「いない」が4割を超え、「わからない」が4割近い

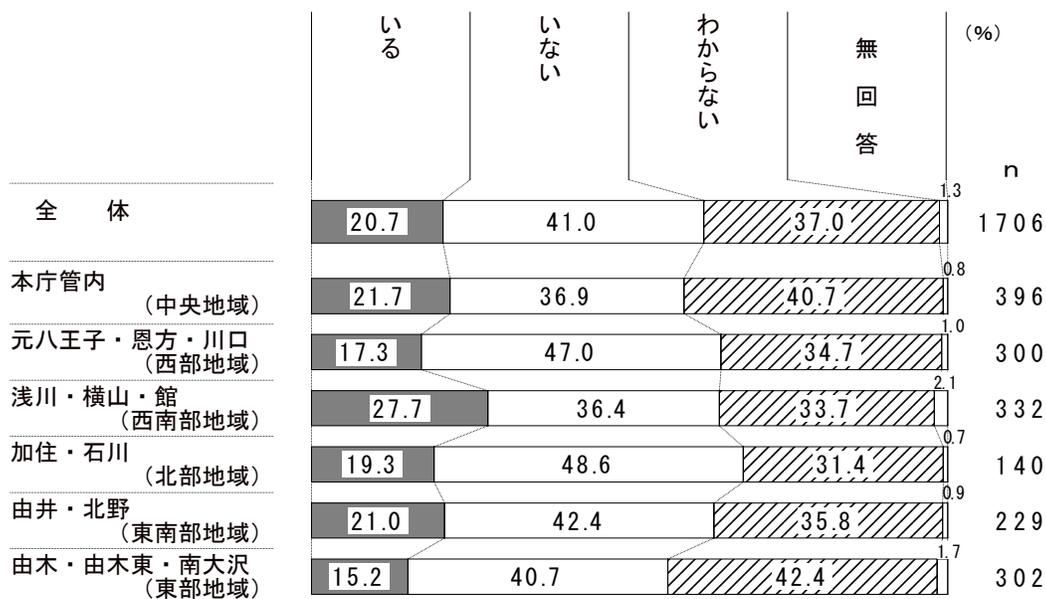


近所で一人暮らしの高齢者または寝たきりの方や障害者の方がいるかどうかについて聞いたところ、「いる」(20.7%)がほぼ2割、「いない」(41.0%)が4割を超える。また、「わからない」(37.0%)が4割近くとなっている。(図4-11-1)

居住地域別にみると、「いる」は浅川・横山・館(西南部地域)で3割近く、「いない」は元八王子・恩方・川口(西部地域)と加住・石川(北部地域)で5割近くと比較的高くなっている。

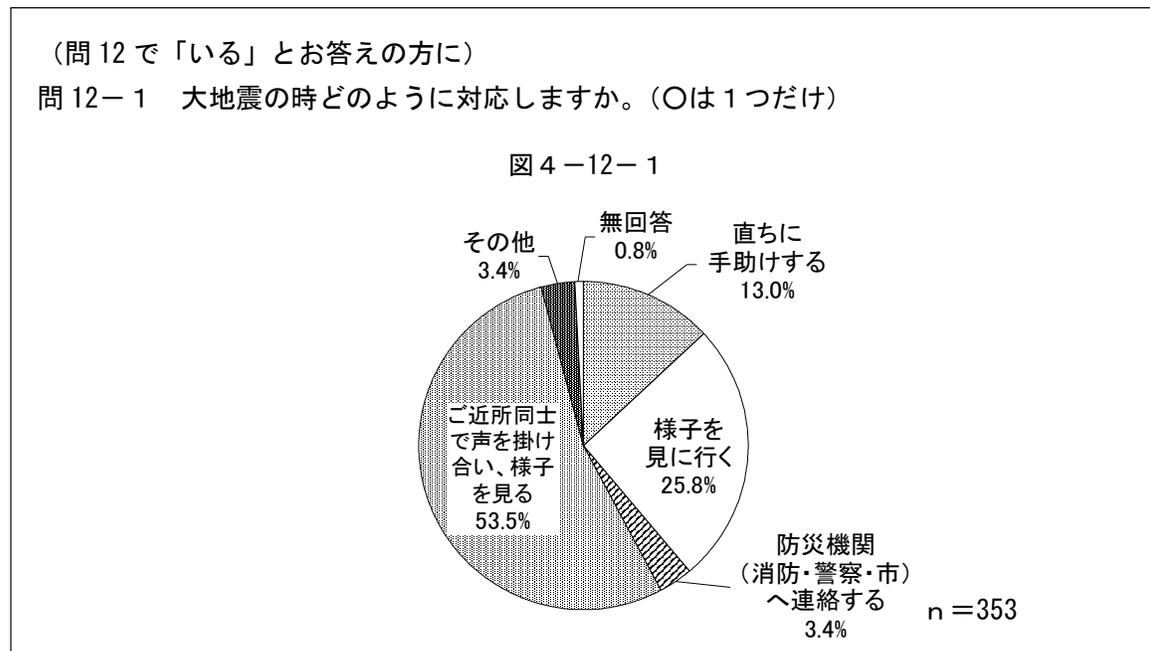
(図4-11-2)

図4-11-2 近隣の災害弱者の有無—居住地域別



4-12 災害弱者に対する大地震の時の対応

◇「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」が半数を超える



近所で一人暮らしの高齢者または寝たきりの方や障害者の方が「いる」と答えた人(353人)に、大地震の時に災害弱者に対してどのように対応するかについて聞いたところ、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」(53.5%)が5割を超え、「様子を見に行く」(25.8%)が2割半ば、「直ちに手助けする」(13.0%)が1割を超え、「防災機関(消防・警察・市)へ連絡する」(3.4%)が1割未満となっている。(図4-12-1)

性別にみると、「様子を見に行く」は男性の方が13ポイント高く、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」は女性の方が16ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「直ちに手助けする」は20歳代でほぼ3割と高く、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」は30歳代で6割を超え高くなっている。(図4-12-2)

居住地域別にみると、「様子を見に行く」は浅川・横山・館(西南部地域)で3割半ばと高く、「ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る」は由井・北野(東南部地域)で6割を超え高くなっている。

(図4-12-3)

図4-12-2 災害弱者に対する大地震の時の対応—性別・年齢別

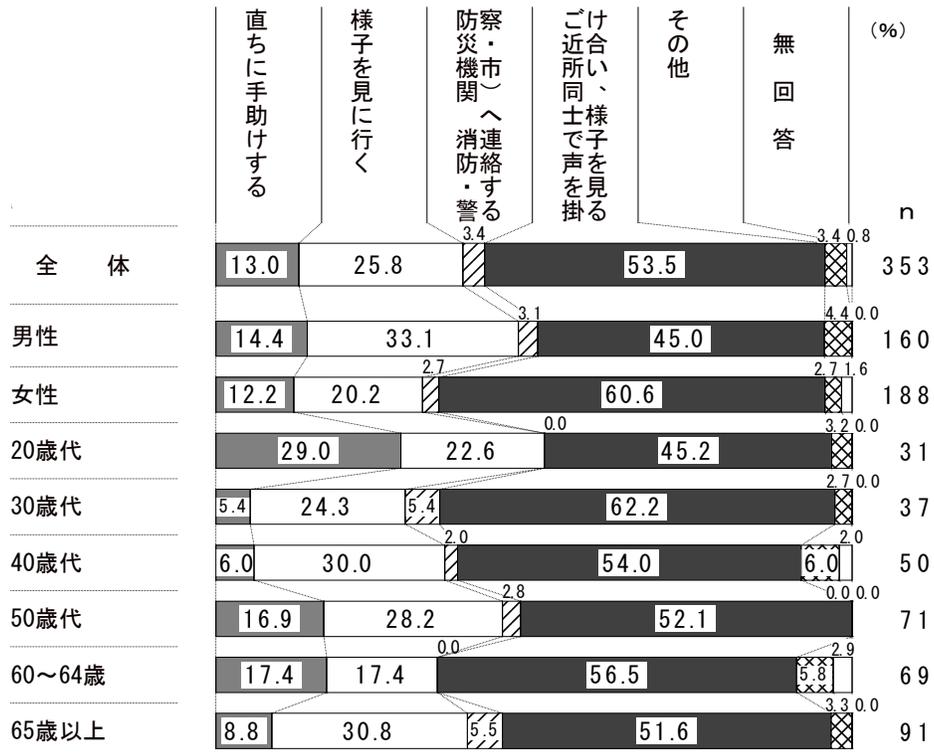
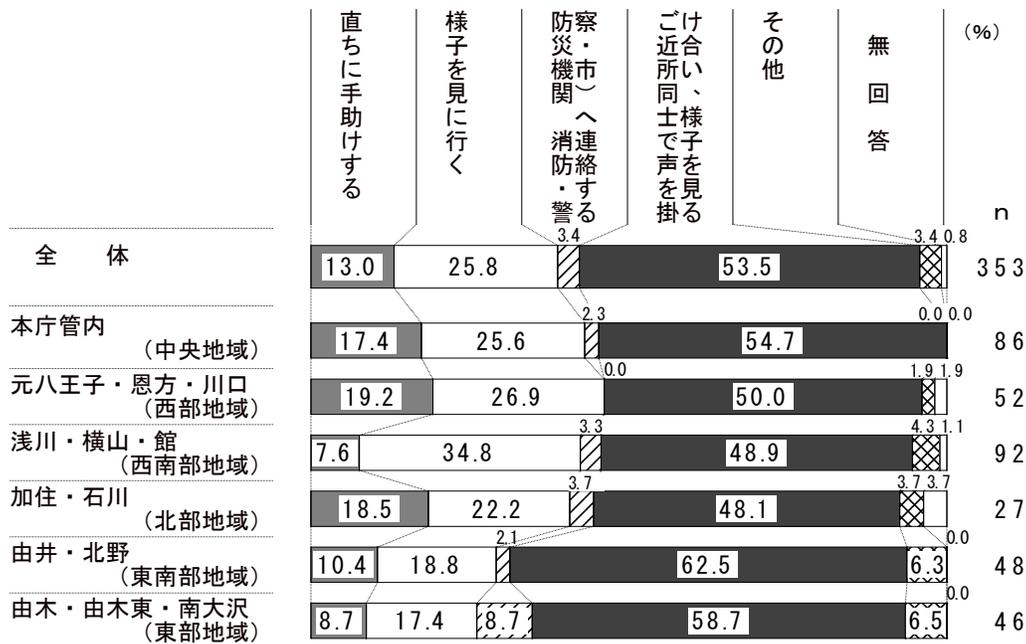
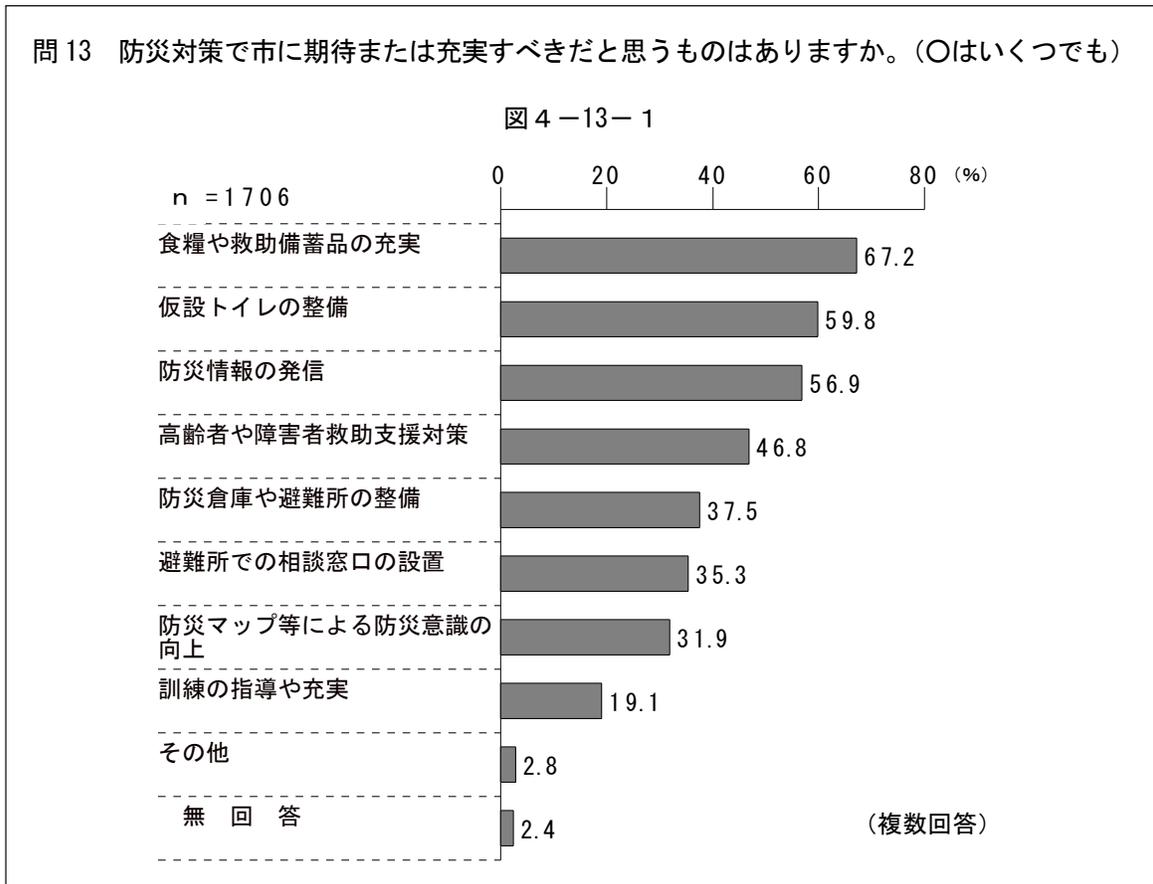


図4-12-3 災害弱者に対する大地震の時の対応—居住地域別



4-13 市に期待する防災対策

◇「食糧や救助備蓄品の充実」が7割近く

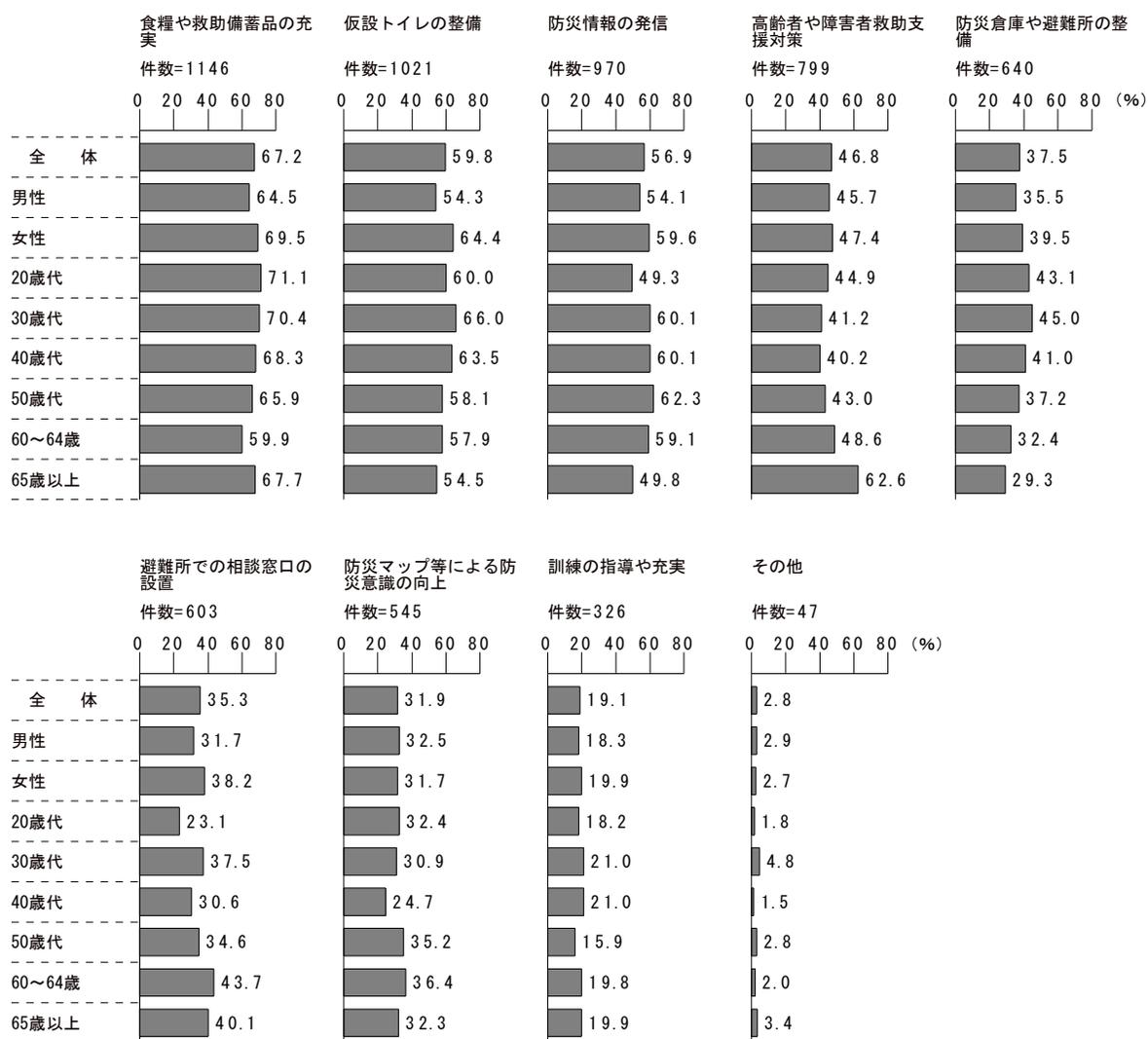


防災対策で市に期待または充実すべきだと思うものについて聞いたところ、「食糧や救助備蓄品の充実」(67.2%)が7割近くと最も高く、次いで「仮設トイレの整備」(59.8%)、「防災情報の発信」(56.9%)、「高齢者や障害者救助支援対策」(46.8%)、「防災倉庫や避難所の整備」(37.5%)、「避難所での相談窓口の設置」(35.3%)などの順となっている。(図4-13-1)

性別にみると、「仮設トイレの整備」は10ポイント、「避難所での相談窓口の設置」は7ポイント、「防災情報の発信」は6ポイント、「食糧や救助備蓄品の充実」は5ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「高齢者や障害者救助支援対策」は65歳以上で6割を超え高い。「防災倉庫や避難所の整備」は低い年代ほど割合が高い傾向にある。(図4-13-2)

図4-13-2 市に期待する防災対策—性別・年齢別

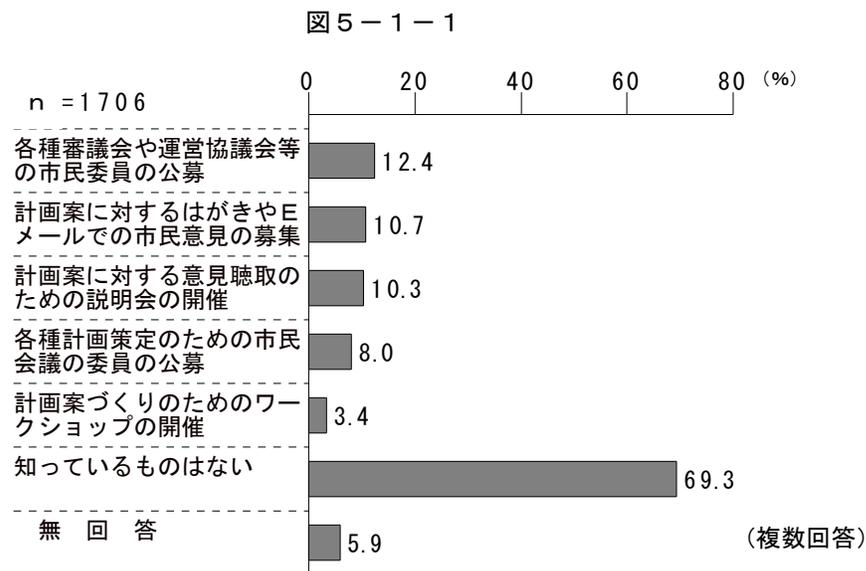


5. 「市民参加のしくみづくり」について

5-1 市政参加のための制度の周知状況

◇「知っているものはない」がほぼ7割と周知度は低い

問 15 市では市民の皆さんに市の政策立案（計画策定や制度づくりなど）や行政運営に主体的に参加していただくために、様々なことを行っています。あなたが知っているものをお答えください。（○はいくつでも）

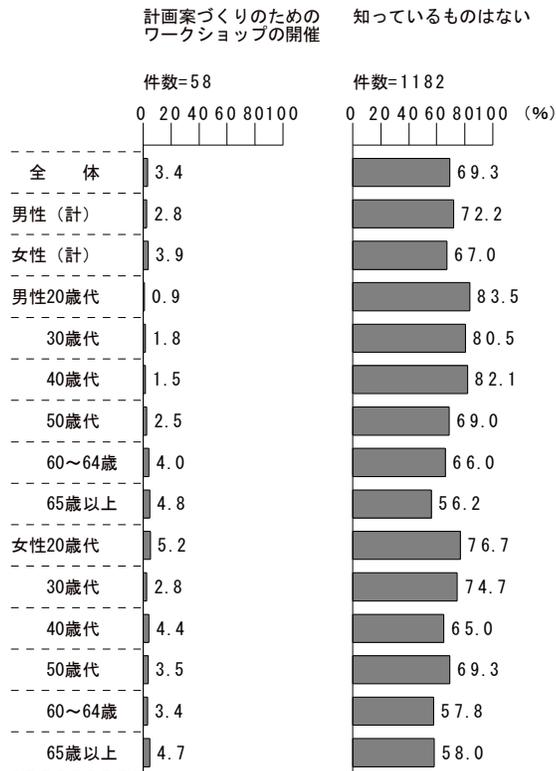
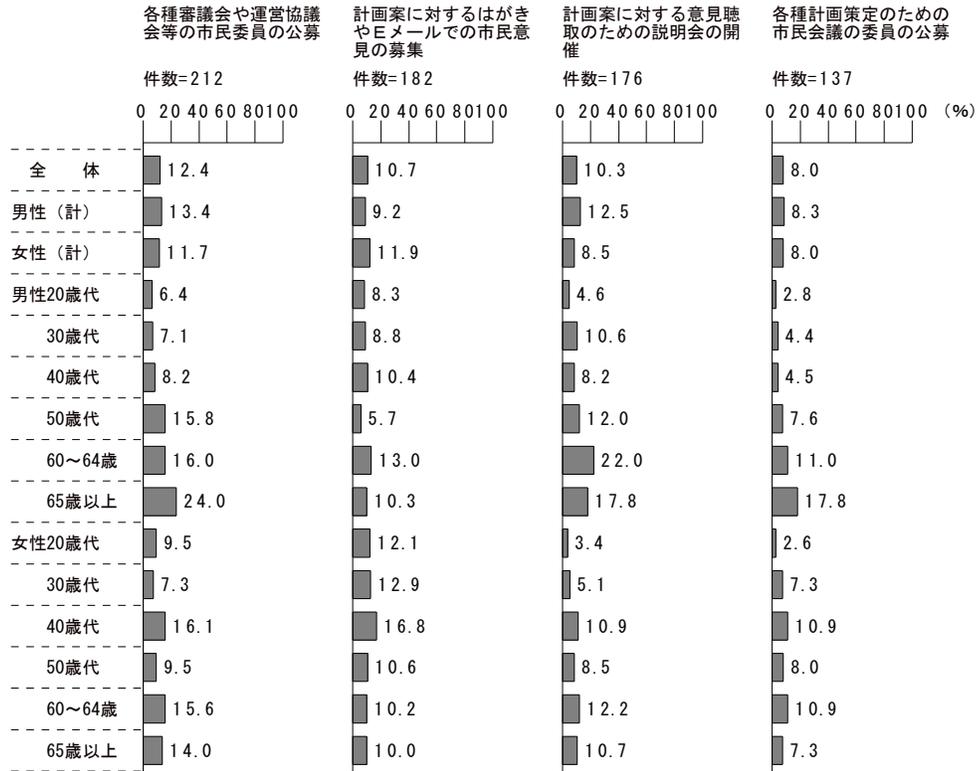


市政参加のための制度について知っているものについて聞いたところ、「各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募」（12.4%）が1割を超え、「計画案に対するはがきやEメールでの市民意見の募集」（10.7%）がほぼ1割、「計画案に対する意見聴取のための説明会の開催」（10.3%）が1割、「各種計画策定のための市民会議の委員の公募」（8.0%）と「計画案づくりのためのワークショップの開催」（3.4%）が1割未満となっている。また、「知っているものはない」（69.3%）がほぼ7割となっている。（図5-1-1）

性別にみると、「知っているものはない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募」と「各種計画策定のための市民会議の委員の公募」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、「各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募」は男性の65歳以上で2割半ばと高い。「計画案に対する意見聴取のための説明会の開催」は男性の60～64歳で2割を超え高くなっている。「知っているものはない」は男女ともに比較的低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の20歳代から40歳代の年代で8割以上を占め高くなっている。（図5-1-2）

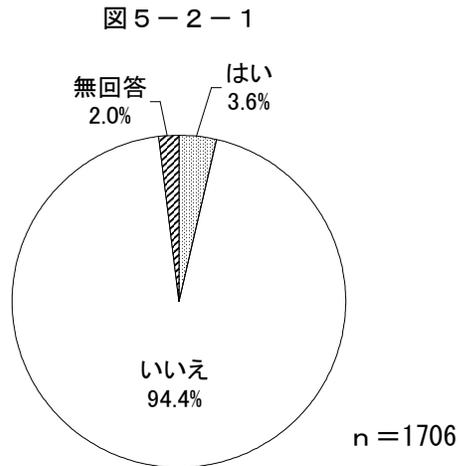
図5-1-2 市政参加のための制度の周知状況—性・年齢別



5-2 市政に関する意見を述べたことの有無

◇ 「いいえ」が9割半ばと多数

問16 あなたは、市の政策立案や行政運営に対して意見を述べたことがありますか。
(○は1つだけ)

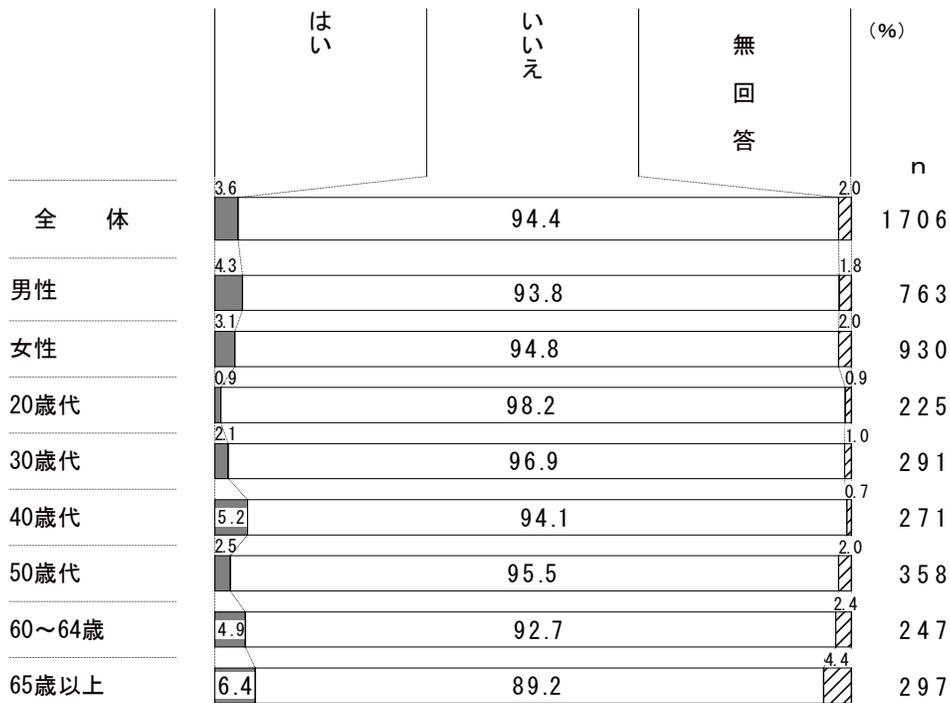


市政に関して意見を述べたことがあるかどうかについて聞いたところ、「はい」(3.6%)が1割未満、「いいえ」(94.4%)が9割半ばとなっている。(図5-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

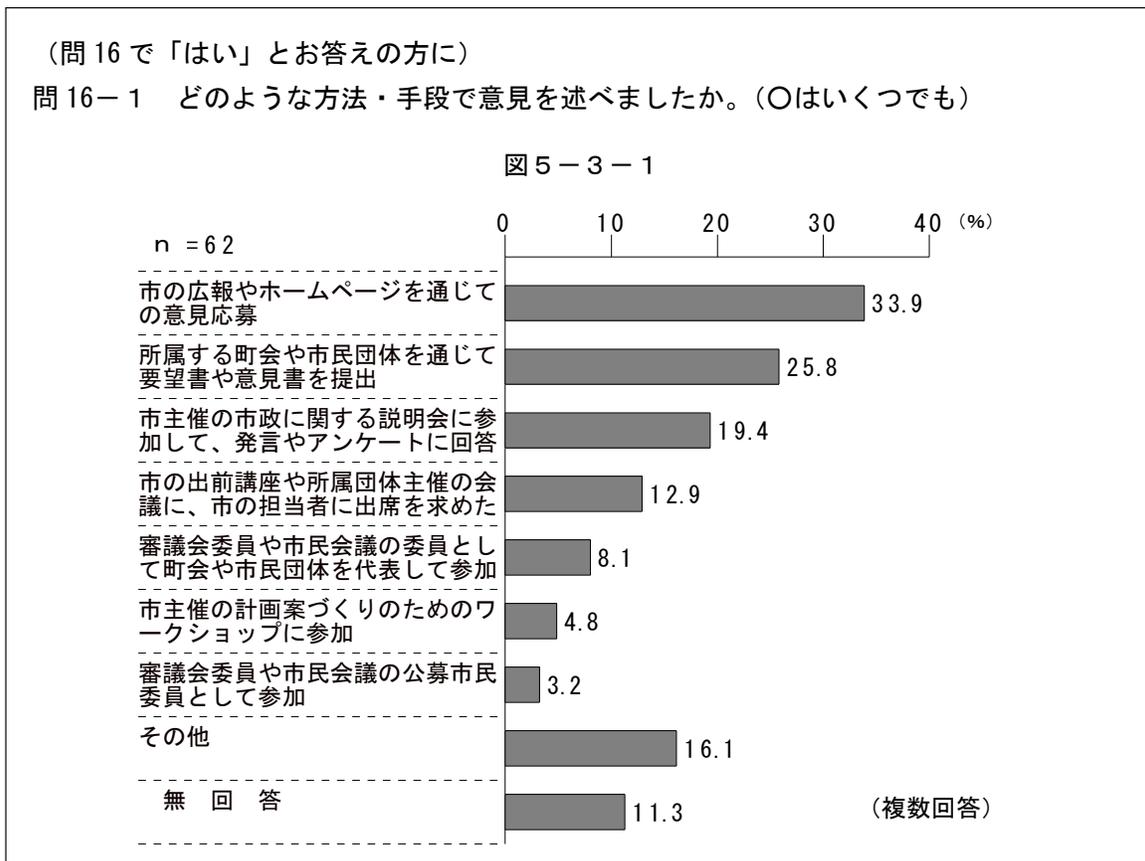
年齢別にみると、「いいえ」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、すべての年代で9割前後と高くなっている。(図5-2-2)

図5-2-2 市政に関する意見を述べたことの有無－性別・年齢別



5-3 意見を述べた方法

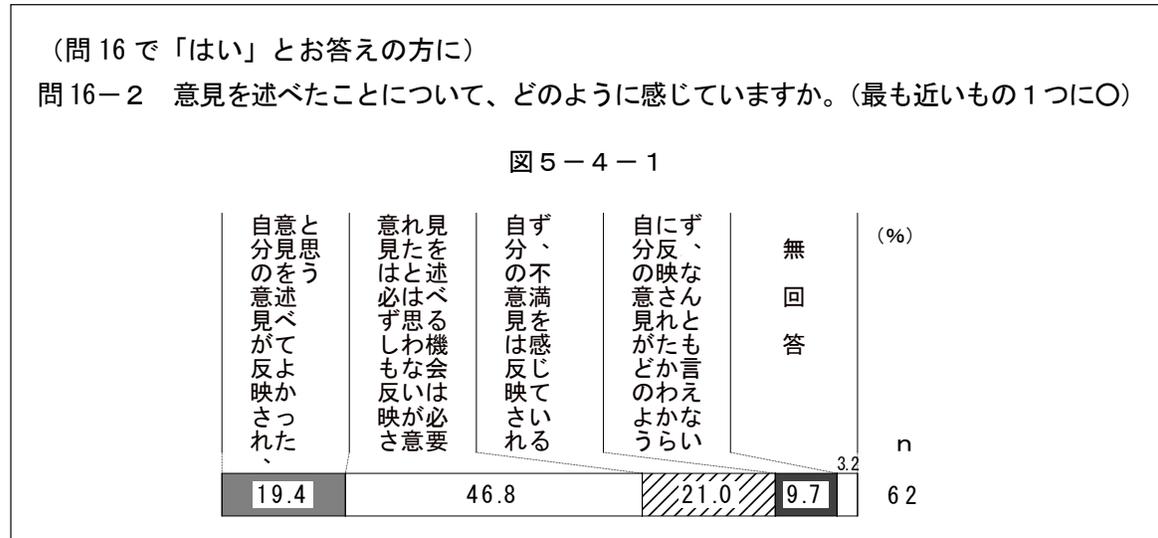
◇「市の広報やホームページを通じての意見応募」が3割を超える



市政に関する意見を述べたことがあるかどうかで「はい」と答えた人(62人)に、どのような方法・手段で意見を述べたかについて聞いたところ、「市の広報やホームページを通じての意見応募」(33.9%)が3割を超え最も高く、次いで「所属する町会や市民団体を通じて要望書や意見書を提出」(25.8%)、「市主催の市政に関する説明会に参加して、発言したりアンケートに回答」(19.4%)、「市の出前講座や自分の所属する団体主催の会議に、市の担当者に出席を求めた」(12.9%)、「審議会委員や市民会議の委員として町会や市民団体を代表する立場で参加」(8.1%)などの順となっている。(図5-3-1)

5-4 意見を述べたことについての感想

◇「自分の意見は必ずしも反映されたとは思わないが、意見を述べる機会が必要だ」が5割近く



市政に関する意見を述べたことがあるかどうかで「はい」と答えた人(62人)に、意見を述べたことについてどのように感じているかについて聞いたところ、「自分の意見は必ずしも反映されたとは思わないが、意見を述べる機会が必要だ」(46.8%)が5割近くで最も高く、次いで「自分の意見は反映されず、不満を感じている」(21.0%)が2割を超え、「自分の意見が反映され、意見を述べてよかったと思う」(19.4%)がほぼ2割、「自分の意見がどのように反映されたかわからず、なんとも言えない」(9.7%)が1割未満となっている。(図5-4-1)

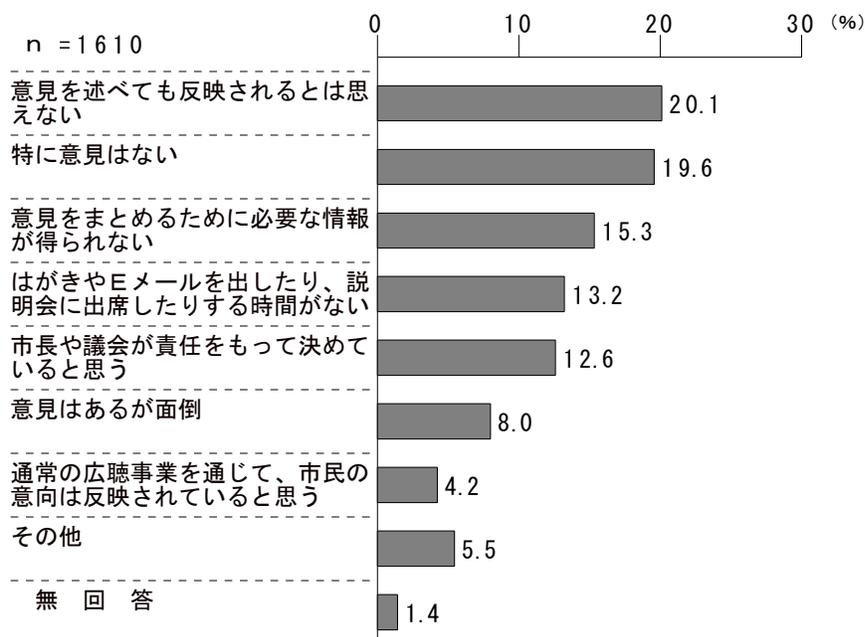
5-5 意見を述べたことがない理由

◇「意見を述べても反映されとは思えない」が2割

(問16で「いいえ」とお答えの方に)

問16-3 あなたが意見を述べたことがない理由として、最も近いと思うものはどれですか。
(○は1つだけ)

図5-5-1



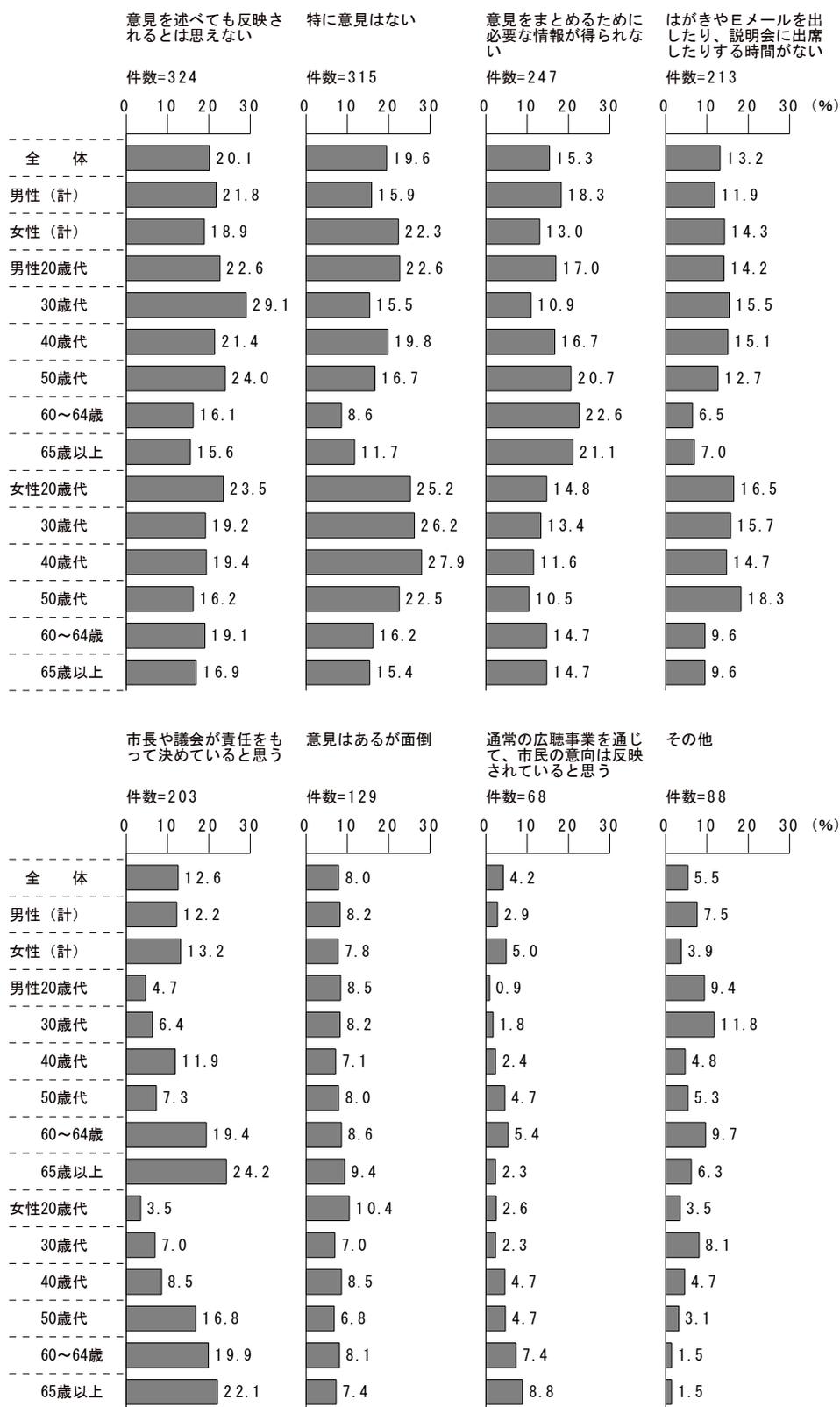
市政に関する意見を述べたことがあるかどうかで「いいえ」と答えた人(1,610人)に、意見を述べたことがない理由について聞いたところ、「意見を述べても反映されとは思えない」(20.1%)が2割と最も高く、次いで「特に意見はない」(19.6%)、「意見をまとめるために必要な情報が得られない」(15.3%)、「はがきやEメールを出したり、説明会に出席したりする時間がない」(13.2%)、「市長や議会が責任をもって決めていると思う」(12.6%)などの順となっている。(図5-5-1)

性別にみると、「特に意見はない」は女性の方が6ポイント高く、「意見をまとめるために必要な情報が得られない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「意見を述べても反映されとは思えない」は男性30歳代でほぼ3割を占めて高くなっている。「市長や議会が責任をもって決めていると思う」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、60歳以上の年代で2割から2割半ばを占めて高くなっている。

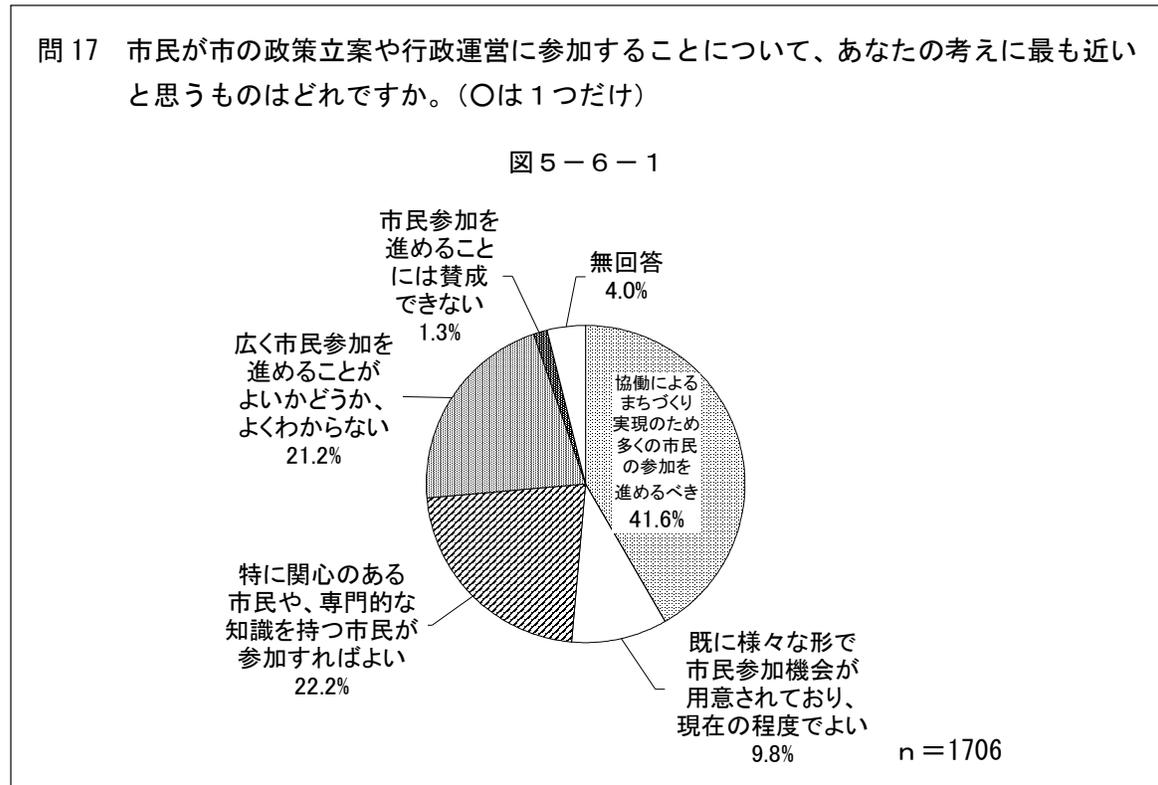
(図5-5-2)

図5-5-2 意見を述べたことがない理由—性・年齢別



5-6 市民が市の政策立案や行政運営に参加することの意識

◇「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」が4割を超える

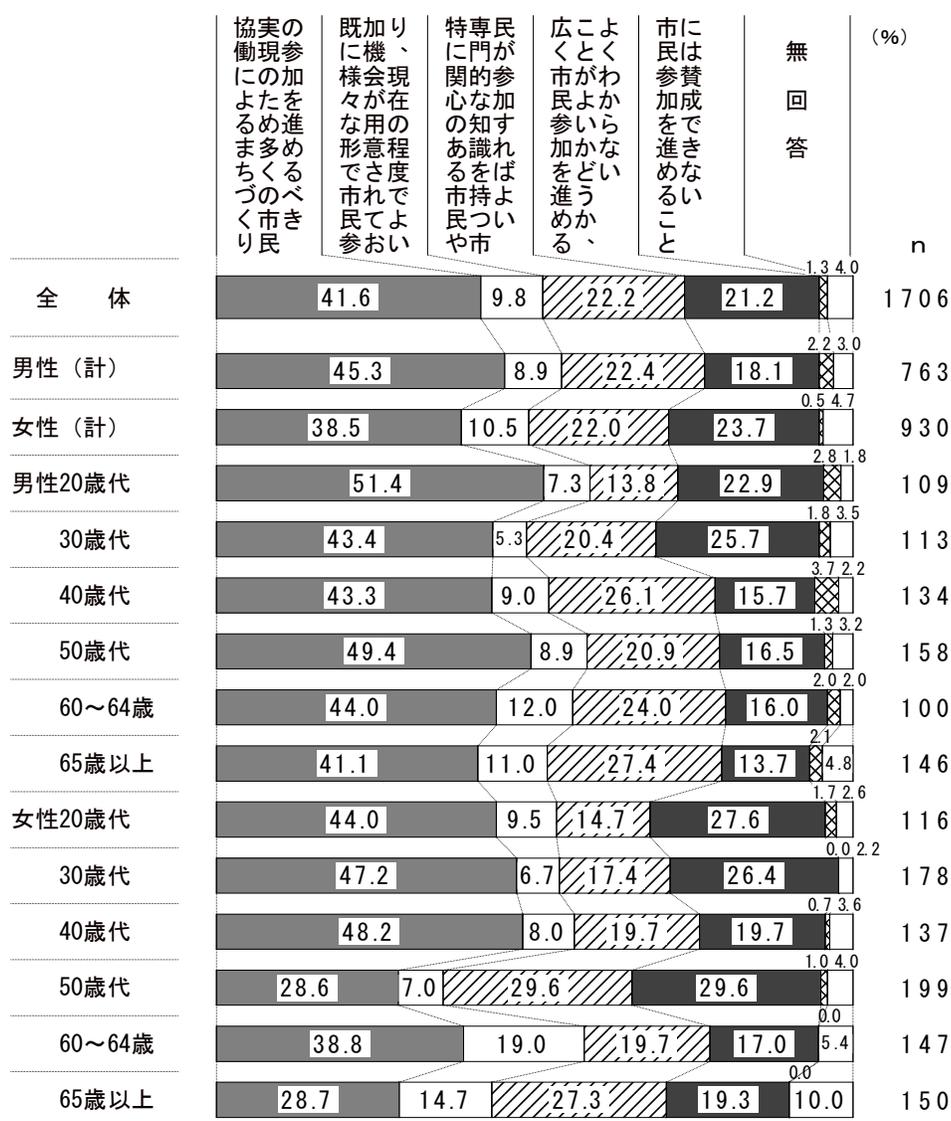


市民が市の政策立案や行政運営に参加することについて聞いたところ、「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」(41.6%)が4割を超え最も高く、次いで「特に関心のある市民や、専門的な知識を持っている市民が参加すればよい」(22.2%)と「広く市民参加を進めることがよいかどうか、よくわからない」(21.2%)が2割を超え、「既にいろいろな形で市民参加機会が用意されており、現在の程度でよい」(9.8%)と「市民参加を進めることには賛成できない」(1.3%)が1割未満となっている。(図5-6-1)

性別にみると、「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」は男性の方が7ポイント高く、「広く市民参加を進めることがよいかどうか、よくわからない」は女性の方が6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある」は男性の20歳代で5割を超え高くなっている。(図5-6-2)

図5-6-2 市民が市の政策立案や行政運営に参加することの意識—性・年齢別

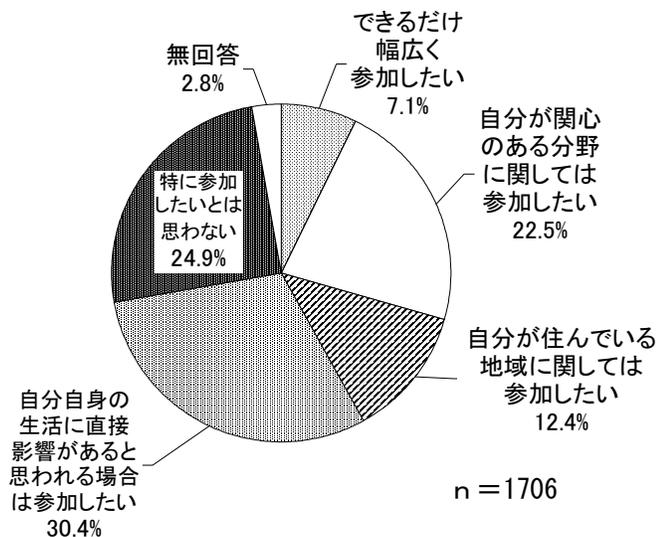


5-7 市の政策立案や行政運営への参加意向

- ◇「自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい」が3割、「特に参加したいとは思わない」が2割半ば

問18 あなたご自身は、市の政策立案や行政運営に参加したいと思いますか。
あなたの考えに最も近いと思うものはどれですか。(○は1つだけ)

図5-7-1



市の政策立案や行政運営に参加したいと思うかどうかについて聞いたところ、「自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい」(30.4%)が3割で最も高く、次いで「自分が関心のある分野に関しては参加したい」(22.5%)が2割を超え、「自分が住んでいる地域に関しては参加したい」(12.4%)が1割を超え、「できるだけ幅広く参加したい」(7.1%)が1割未満となっている。また、「特に参加したいとは思わない」(24.9%)が2割半ばとなっている。

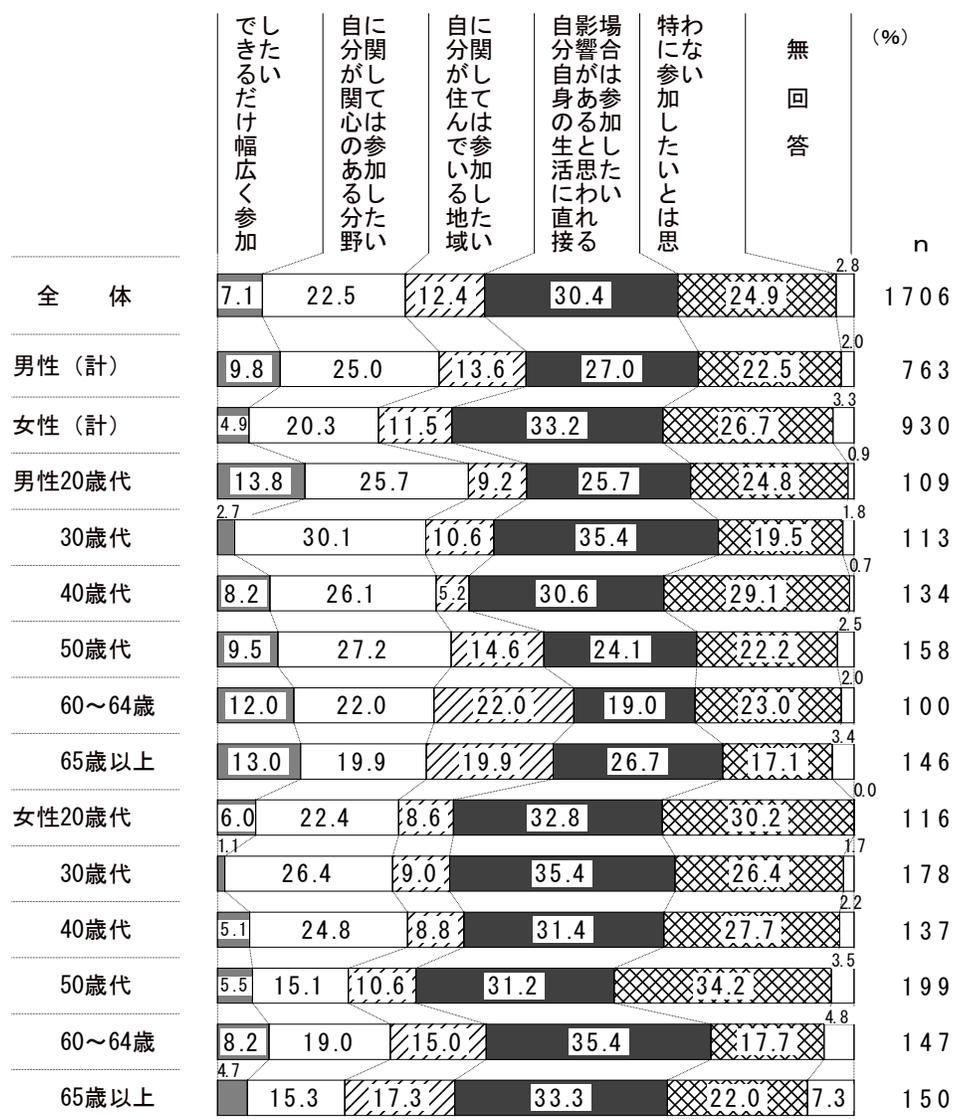
(図5-7-1)

性別にみると、「できるだけ幅広く参加したい」と「自分が関心のある分野に関しては参加したい」は男性の方が5ポイント高く、「自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい」は女性の方が6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「自分が住んでいる地域に関しては参加したい」は男性の60歳～64歳で2割を超え高く、「特に参加したいとは思わない」は女性の50歳代で3割半ばと高くなっている。

(図5-7-2)

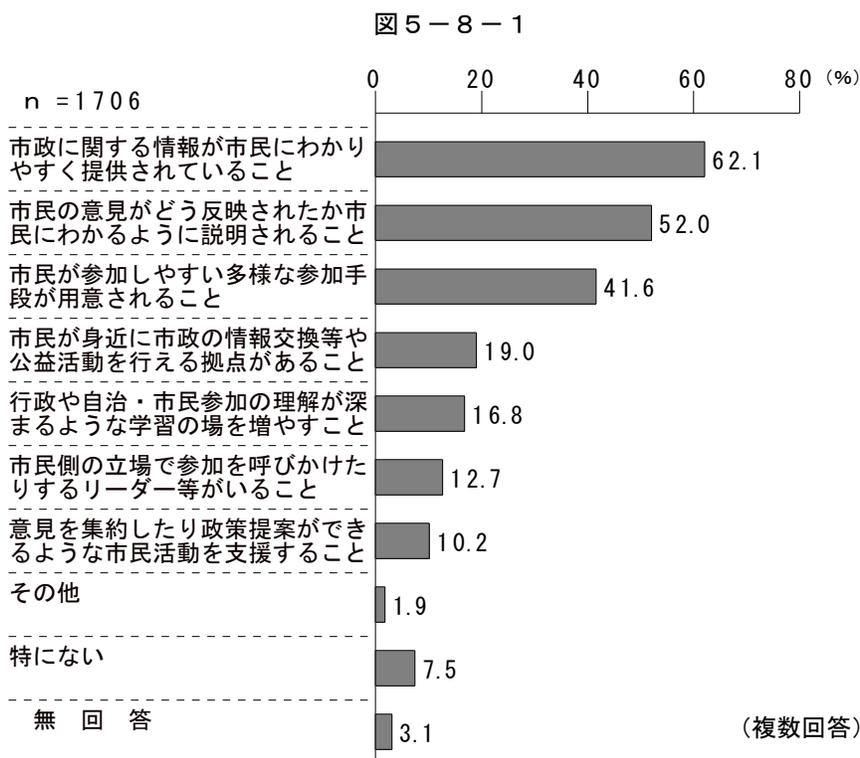
図5-7-2 市の政策立案や行政運営への参加意向一性・年齢別



5-8 市の政策立案や行政運営へ参加するために必要なこと

◇「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」が6割を超える

問19 市民が市の政策立案や行政運営に参加するためには、どのような環境を整える必要があると思いますか。(〇は3つまで)



市民が市の政策立案や行政運営に参加するために整える必要がある環境について聞いたところ、「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」(62.1%)が6割を超え最も高く、次いで「市民の意見がどのように反映されたか市民にわかるように説明されること」(52.0%)、「市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること」(41.6%)などの順となっている。

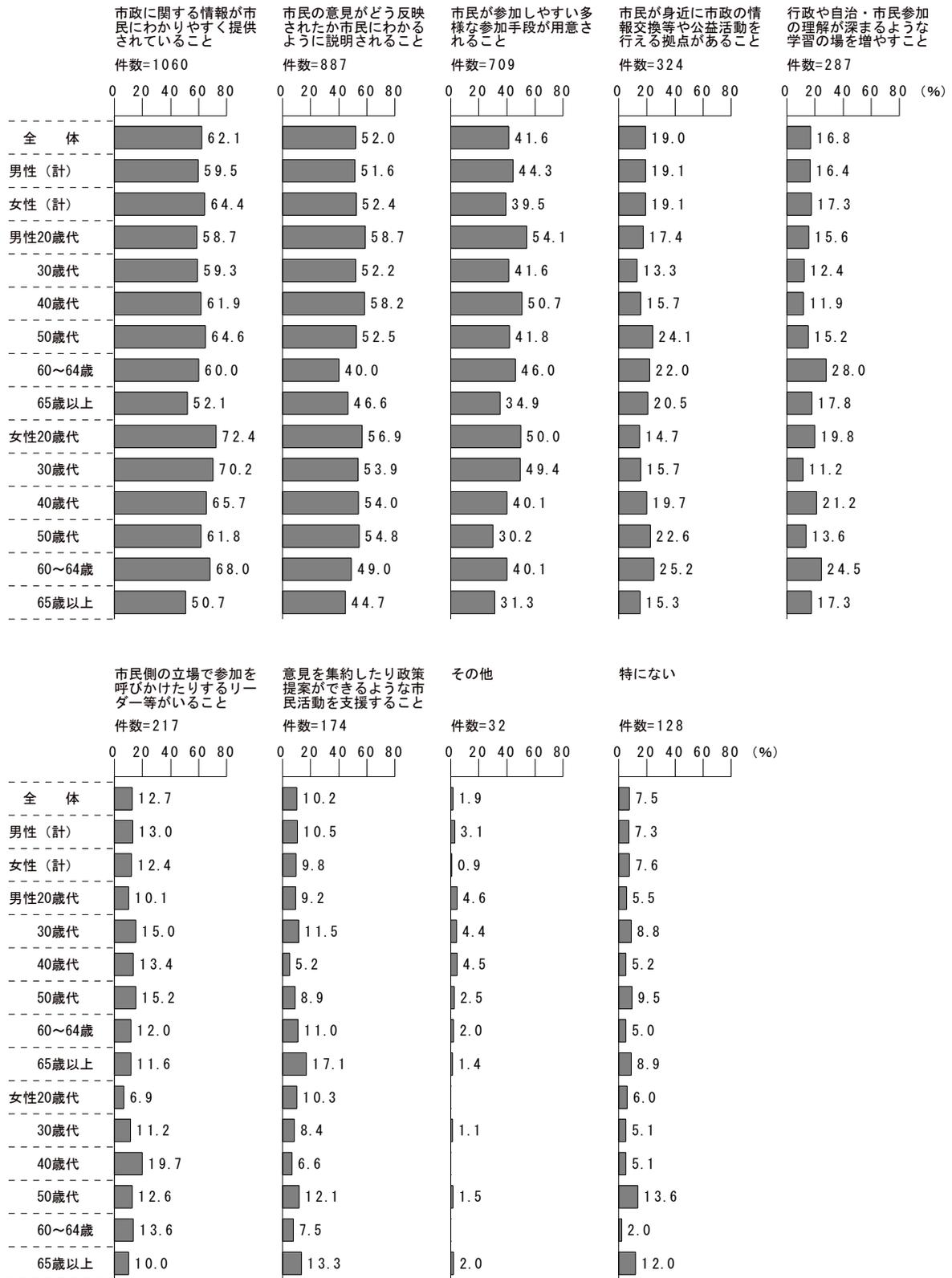
(図5-8-1)

性別にみると、「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」は女性の方が5ポイント高く、「市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること」は女性の20歳代と30歳代で7割以上と高くなっている。「市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること」は男性の20歳代で5割半ばと高くなっている。「行政のしくみや自治・市民参加についての理解が深まるような学習の場を増やすこと」は男性の60～64歳で3割近くと高くなっている。

(図5-8-2)

図5-8-2 市の政策立案や行政運営へ参加するために必要なこと一性・年齢別

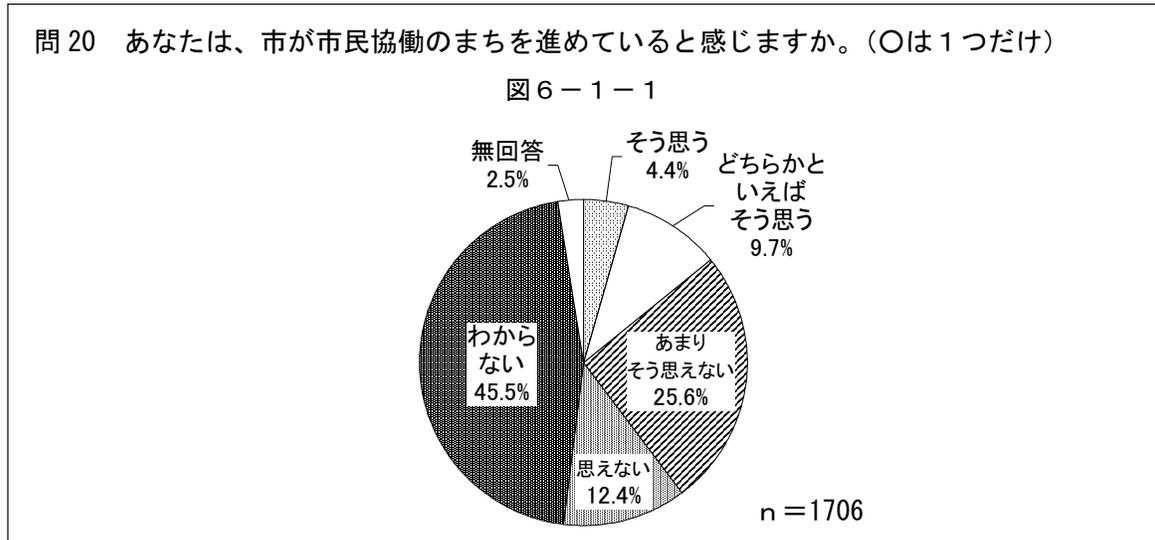


第2章

6. 「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度

6-1 市民協働の推進状況

◇『そう思う』が1割半ば、『思えない』が4割近く、「わからない」が4割半ば

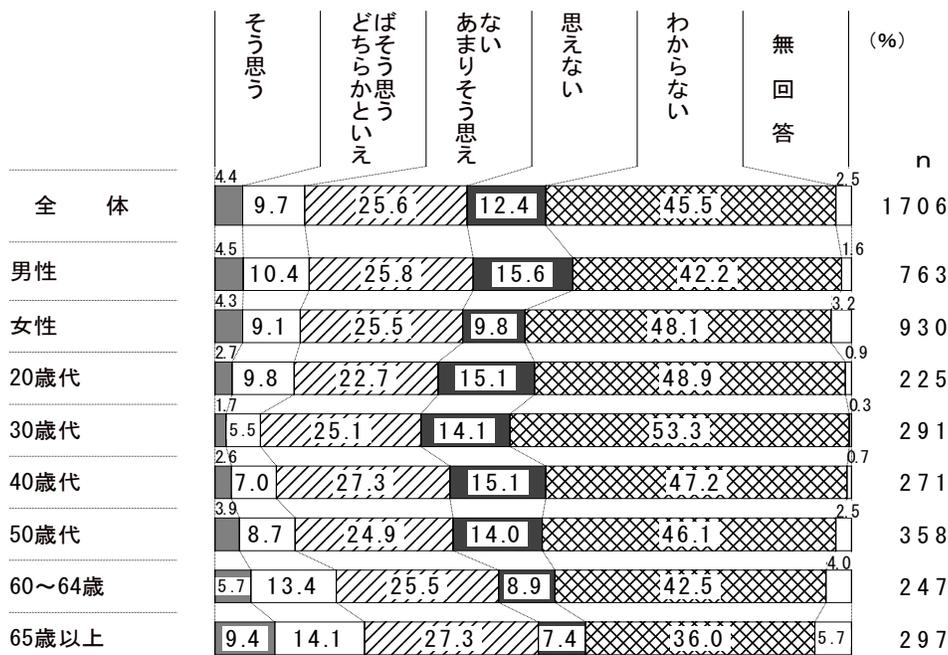


市が市民協働のまちを進めていると感じるかどうかについて聞いたところ、「そう思う」(4.4%)と「どちらかといえばそう思う」(9.7%)を合わせた『そう思う』(14.1%)が1割半ばで、「あまりそう思えない」(25.6%)と「思えない」(12.4%)を合わせた『思えない』(38.0%)が4割近くとなっている。また、「わからない」(45.5%)が4割半ばとなっている。(図6-1-1)

性別にみると、「思えない」は男性の方が6ポイント高く、「わからない」は女性の方が6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は65歳以上で2割を超え高くなっている。(図6-1-2)

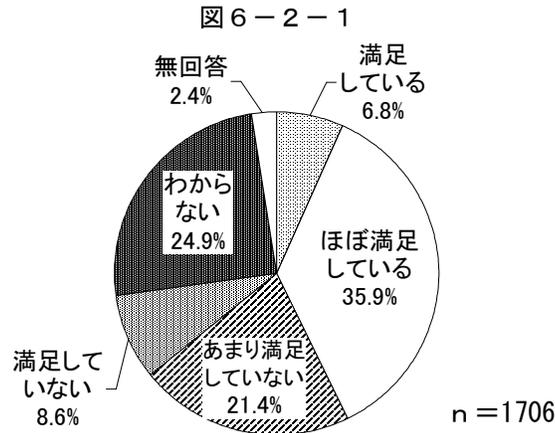
図6-1-2 市民協働の推進状況—性別・年齢別



6-2 現在の市政情報入手方法の満足度

◇『満足している』が4割を超え、『満足していない』が3割

問21 市は、市政の情報を、積極的に配信・提供していますが、あなたは、現在の市政情報の入手方法に満足していますか。(○は1つだけ)

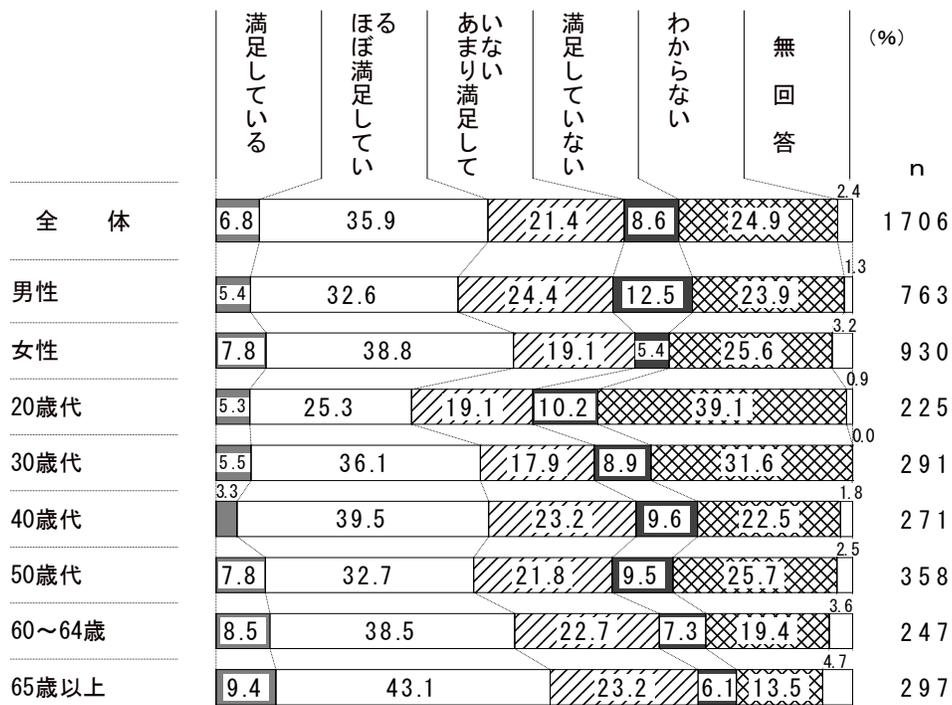


市政情報の入手方法の満足度について聞いたところ、「満足している」(6.8%)と「ほぼ満足している」(35.9%)を合わせた『満足している』(42.7%)は4割を超えている。「満足していない」(8.6%)と「あまり満足していない」(21.4%)を合わせた『満足していない』(30.0%)は3割となっている。また、「わからない」(24.9%)が2割半ばとなっている。(図6-2-1)

性別にみると、『満足している』は女性の方が9ポイント高く、『満足していない』は男性の方が12ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『満足している』は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、65歳以上では5割を超え高くなっている。また、「わからない」では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20歳代ではほぼ4割と高くなっている。(図6-2-2)

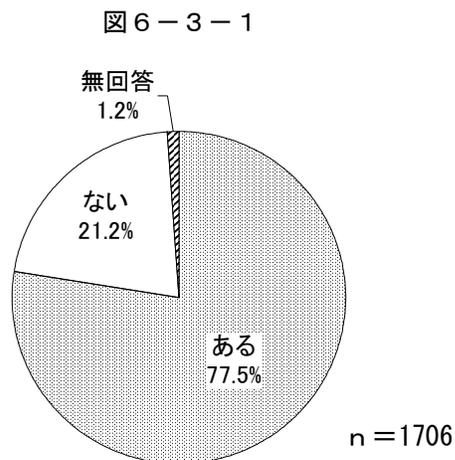
図6-2-2 現在の市政情報入手方法の満足度—性別・年齢別



6-3 市の窓口の利用の有無

◇「ある」が8割近くと、利用率は高い

問22 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健センターなど、市の窓口を利用したことはありますか。(○は1つだけ)



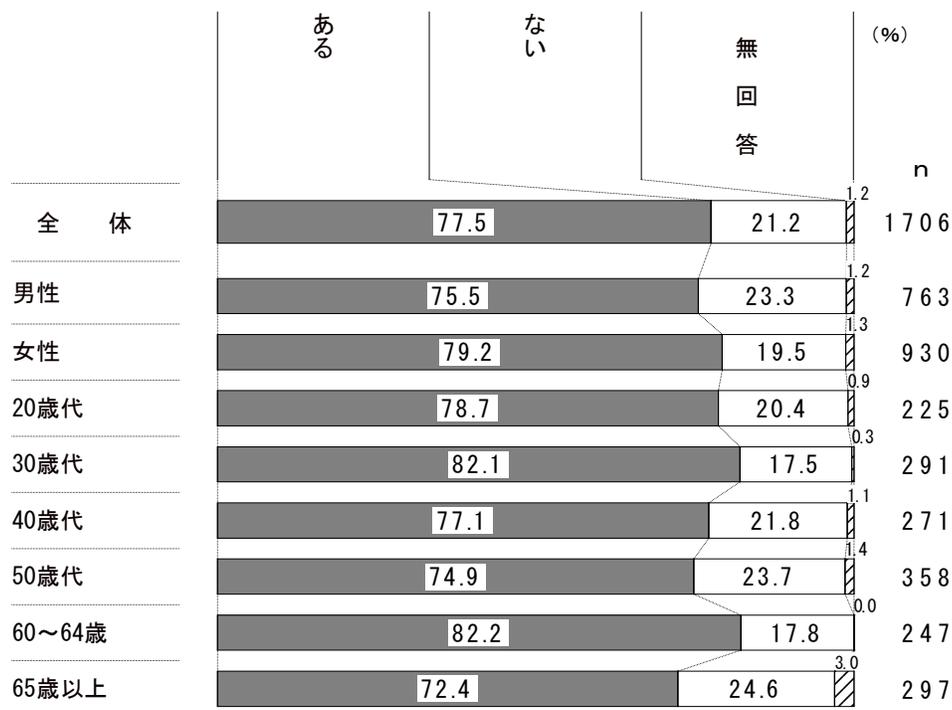
この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健センターなどの市の窓口を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」(77.5%)が8割近くで、「ない」(21.2%)を大きく上回っている。

(図6-3-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

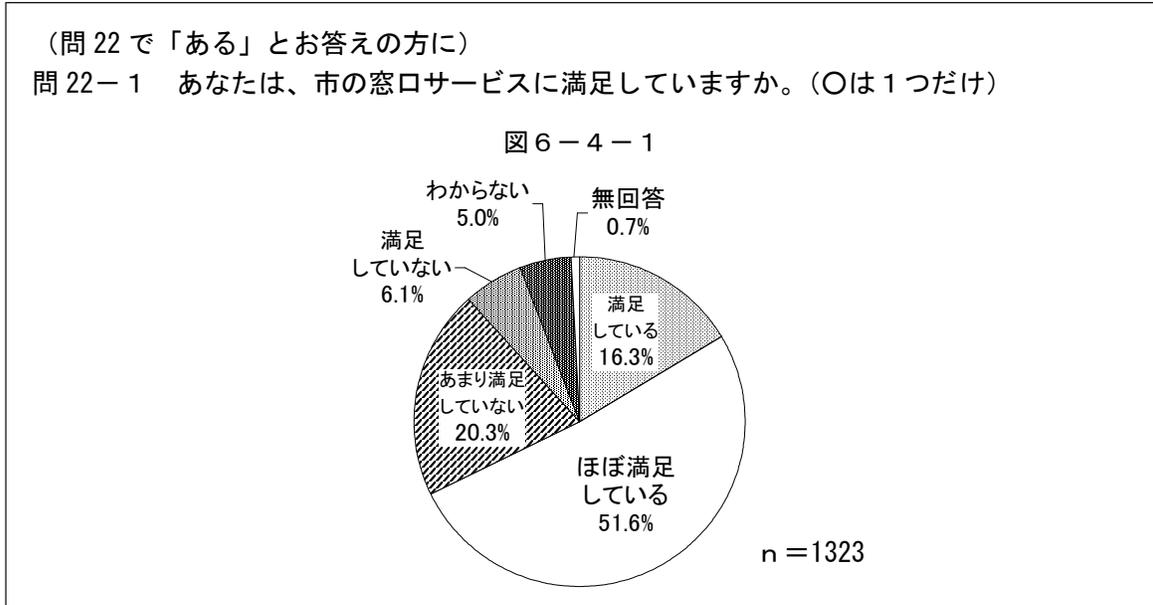
年齢別にみると、「ある」は30歳代と60～64歳で8割を超えている。(図6-3-2)

図6-3-2 市の窓口の利用の有無-性別・年齢別



6-4 市の窓口サービスの満足度

◇『満足している』が7割近く、『満足していない』が2割半ば

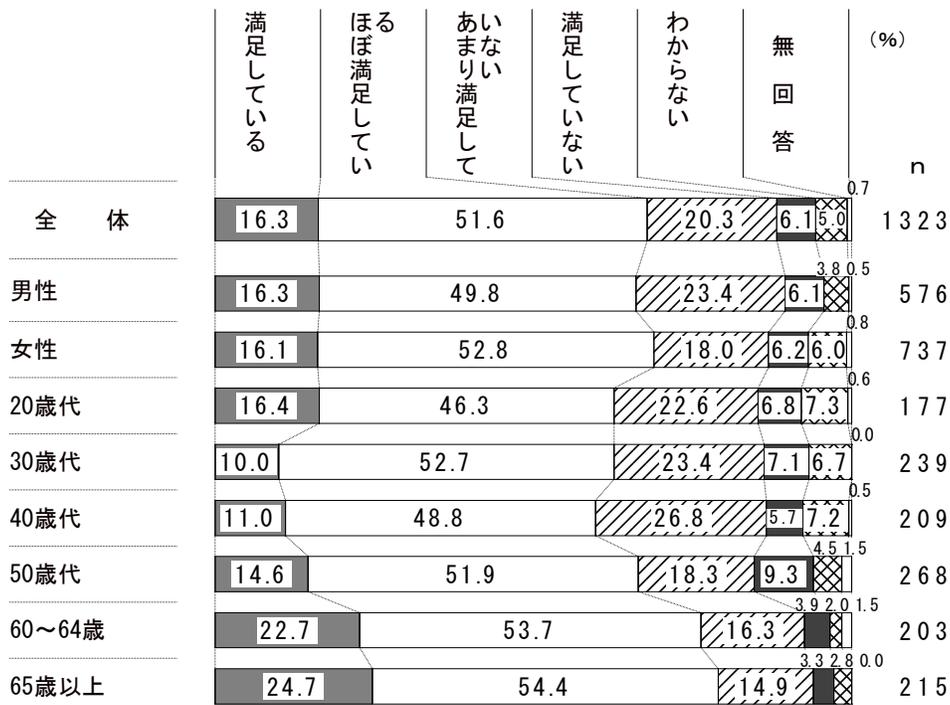


この1年間で市の窓口の利用が「ある」(1,323人)と答えた人に、市の窓口サービスの満足度について聞いたところ、「満足している」(16.3%)と「ほぼ満足している」(51.6%)を合わせた『満足している』(67.9%)は7割近くで、「あまり満足していない」(20.3%)と「満足していない」(6.1%)を合わせた『満足していない』(26.4%)は2割半ばとなっている。(図6-4-1)

性別にみると、「あまり満足していない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『満足している』は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、60歳以上の年代で7割以上を占め高くなっている。(図6-4-2)

図6-4-2 市の窓口サービスの満足度—性別・年齢別

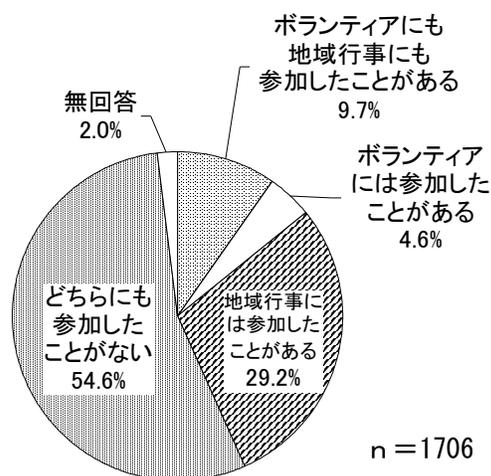


6-5 この1年間の地域行事への参加

◇『参加したことがある』が4割半ば

問23 あなたは、この1年間に公園清掃などのボランティア活動や盆踊りなど地域行事に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

図6-5-1



この1年間に公園清掃などのボランティア活動や盆踊りなどの地域行事に参加したことがあるか聞いたところ、「地域行事には参加したことがある」(29.2%)がほぼ3割、「ボランティアにも地域行事にも参加したことがある」(9.7%)と「ボランティアには参加したことがある」(4.6%)が1割未満となっており、3項目を合わせた『参加したことがある』(43.5%)が4割を超えている。また、「どちらにも参加したことがない」(54.6%)が5割半ばとなっている。(図6-5-1)

性別にみると、「地域行事には参加したことがある」は女性の方が6ポイント高く、「どちらにも参加したことがない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『参加したことがある』は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、60歳以上の年代で5割を超えて高い。「どちらにも参加したことがない」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20歳代で7割を超え高くなっている。(図6-5-2)

居住地域別にみると、『参加したことがある』は元八王子・恩方・川口(西部地域)と加住・石川(北部地域)で5割近くと高く、「どちらにも参加したことがない」は本庁管内(中央地域)で6割を超え高くなっている。(図6-5-3)

図6-5-2 この1年間の地域行事への参加—性別・年齢別

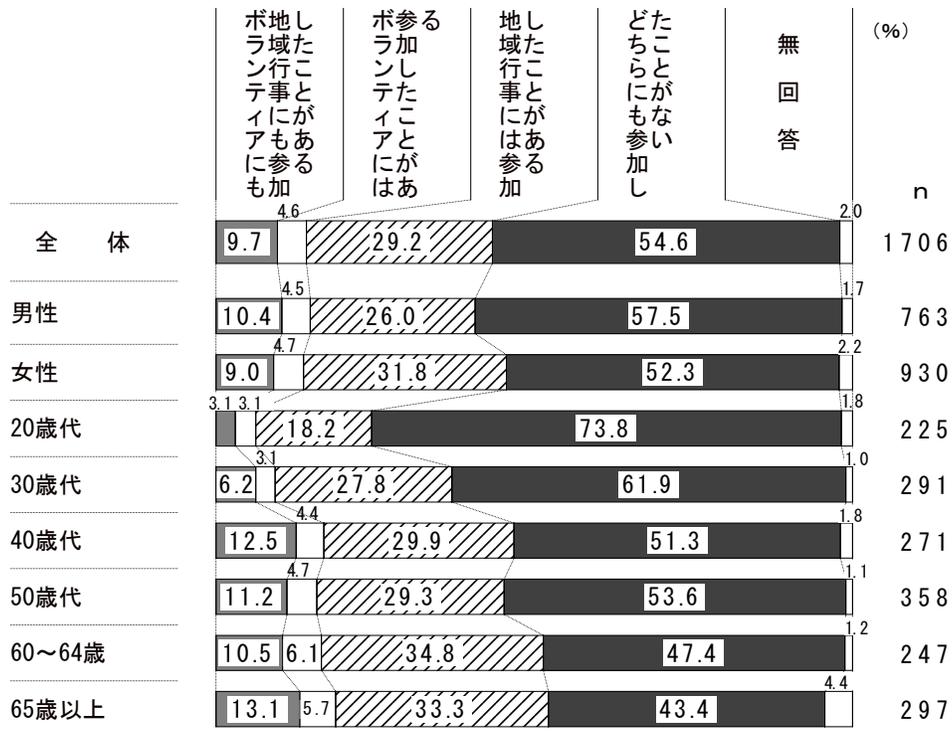
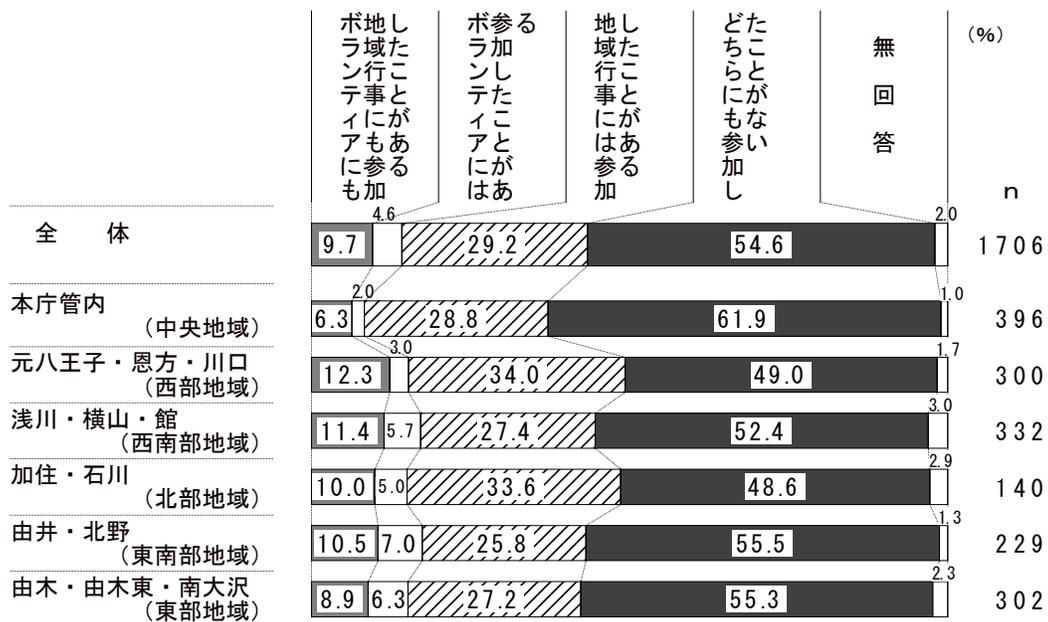
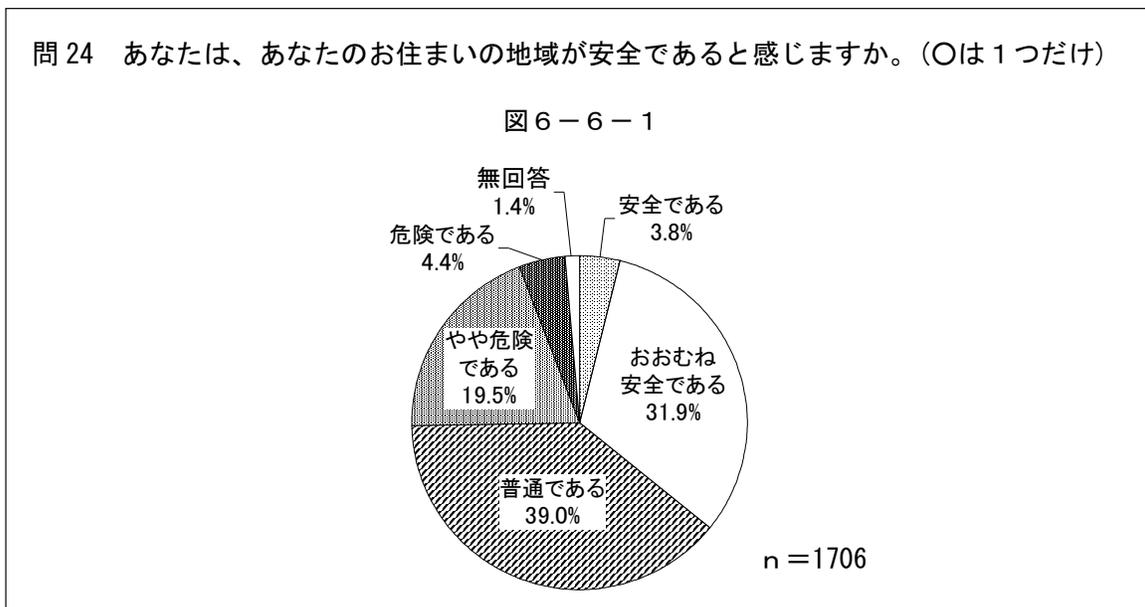


図6-5-3 この1年間の地域行事への参加—居住地域別



6-6 日常生活環境の安全度

◇『安全である』が3割半ば、「普通である」がほぼ4割、『危険である』が2割を超える



住まいの地域が安全であると感じるかどうかについて聞いたところ、「安全である」(3.8%)と「おおむね安全である」(31.9%)を合わせた『安全である』(35.7%)が3割半ば、「普通である」(39.0%)がほぼ4割、「やや危険である」(19.5%)と「危険である」(4.4%)を合わせた『危険である』(23.9%)が2割を超えている。(図6-6-1)

性別にみると、『安全である』は男性の方が5ポイント高く、『危険である』は女性の方が5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『危険である』は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20歳代で3割半ばと高くなっている。(図6-6-2)

居住地域別にみると、『安全である』は浅川・横山・館(西南部地域)と由木・由木東・南大沢(東部地域)で4割以上と高く、『危険である』は加住・石川(北部地域)で3割半ばと高くなっている。

(図6-6-3)

図 6-6-2 日常生活環境の安全度—性別・年齢別

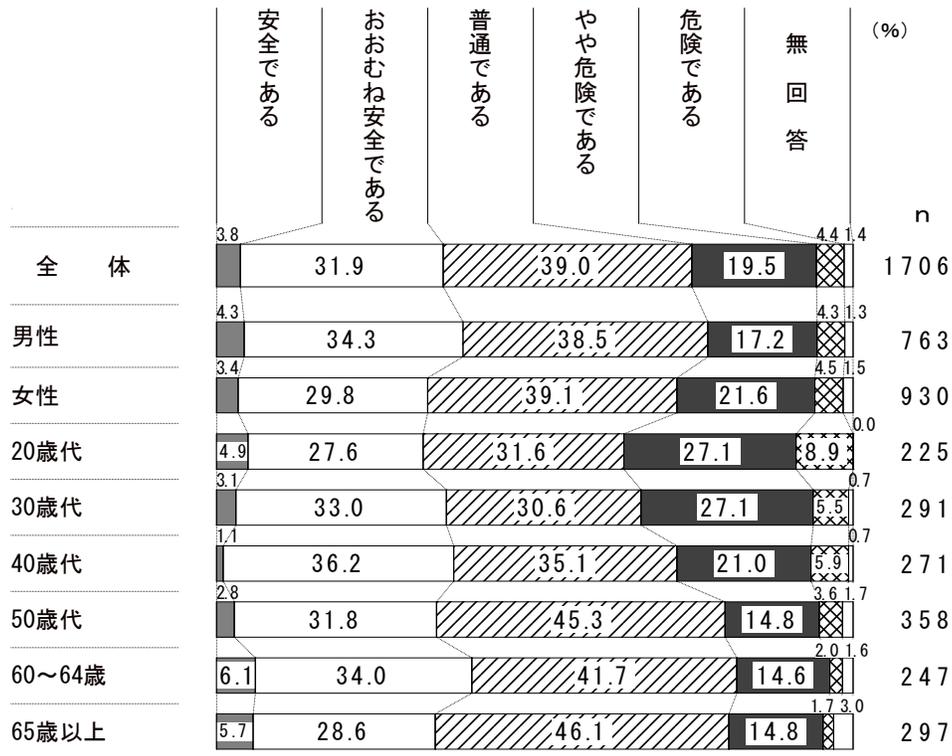
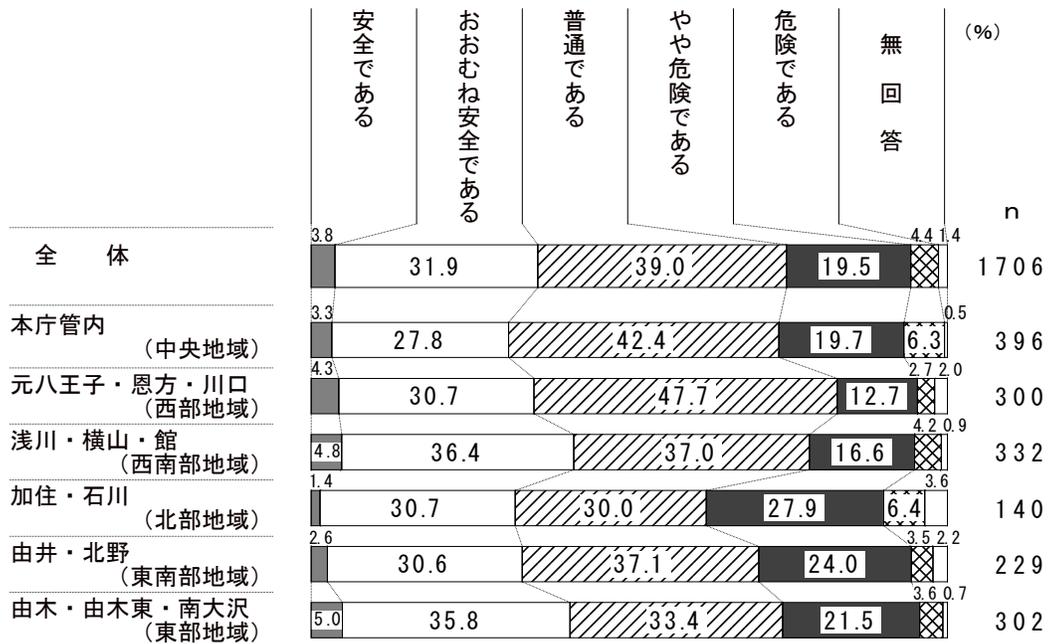


図 6-6-3 日常生活環境の安全度—居住地域別

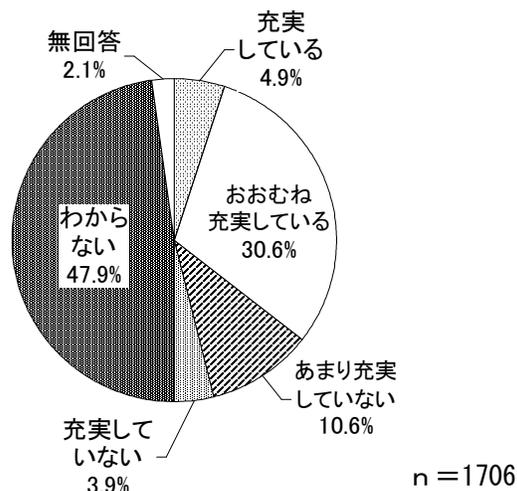


6-7 市の相談窓口の充実度

◇『充実している』が3割半ば、「わからない」が5割近く

問25 市では、様々な相談を行っています、あなたは、市の相談窓口が充実していると思いますか。(〇は1つだけ)

図6-7-1

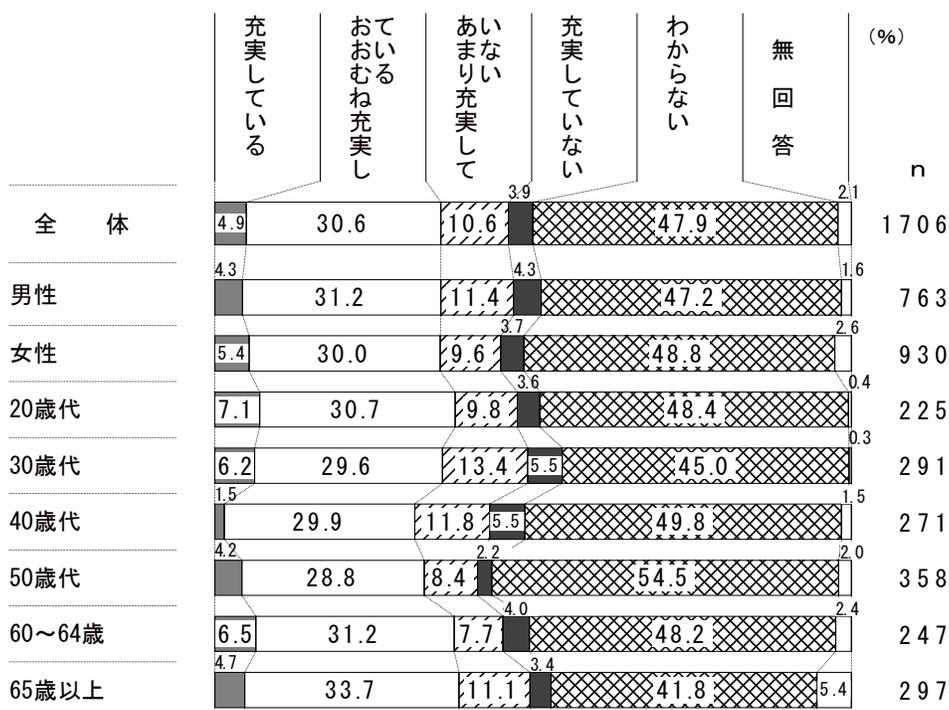


市の相談窓口が充実しているかどうかについて聞いたところ、「充実している」(4.9%)と「おおむね充実している」(30.6%)を合わせた『充実している』(35.5%)が3割半ばで、「あまり充実していない」(10.6%)と「充実していない」(3.9%)を合わせた『充実していない』(14.5%)が1割半ばとなっている。また、「わからない」(47.9%)が5割近くとなっている。(図6-7-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみても、各世代間で大きな差はみられない。(図6-7-2)

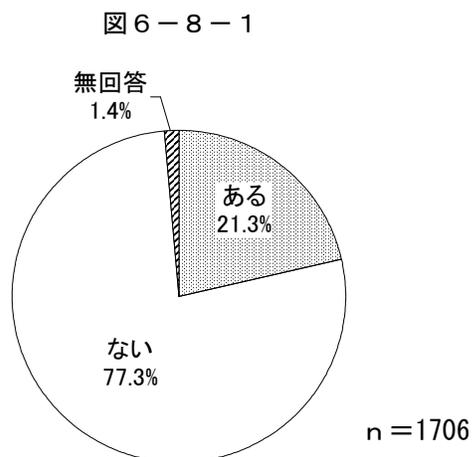
図6-7-2 市の相談窓口の充実度—性別・年齢別



6-8 市の相談窓口の利用の有無

◇「ある」が2割を超えるにとどまる

問26 あなたは、市の相談窓口を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

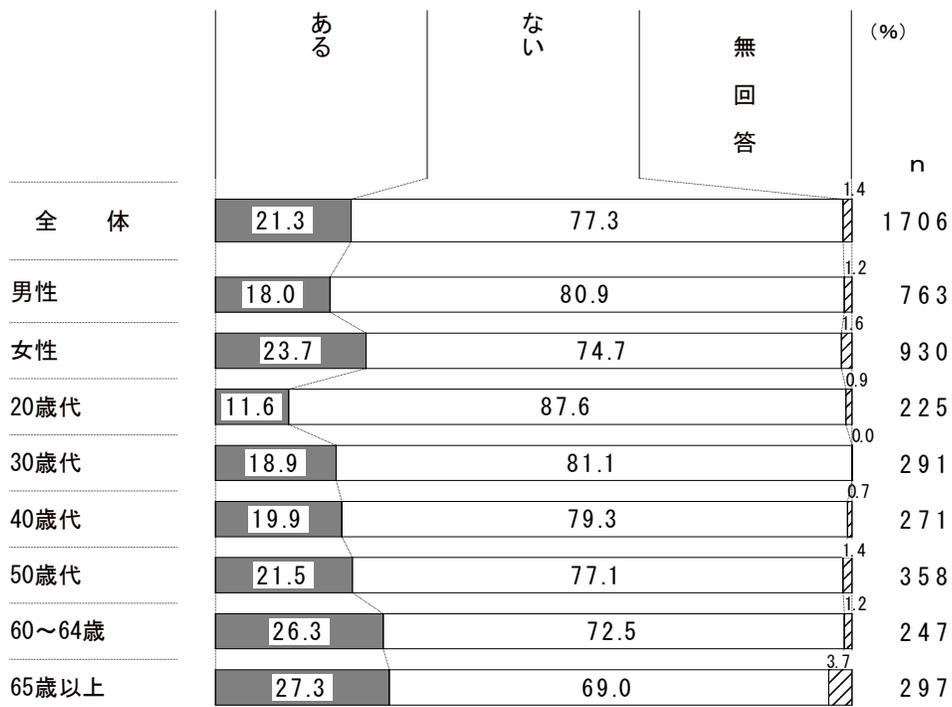


市の相談窓口の利用について聞いたところ、「ある」(21.3%)が2割を超え、「ない」(77.3%)が8割近くとなっている。(図6-8-1)

性別にみると、「ある」は女性の方が6ポイント高くなっている。

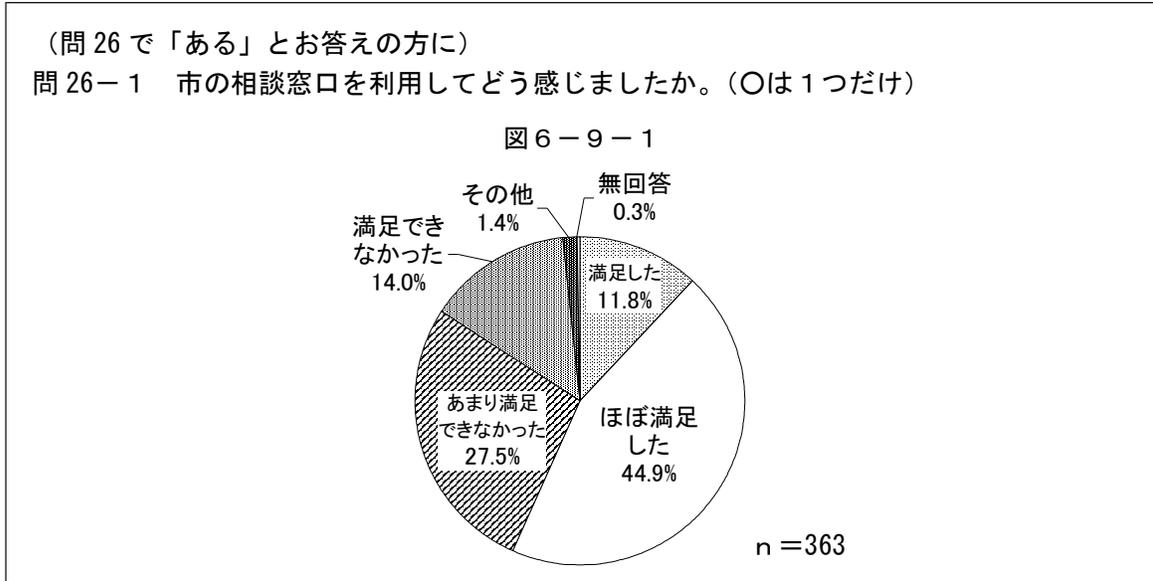
年齢別にみると、「ある」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。「ない」は20歳代で9割近くと高くなっている。(図6-8-2)

図6-8-2 市の相談窓口の利用の有無-性別・年齢別



6-9 相談窓口を利用した感想

◇『満足した』が6割近く

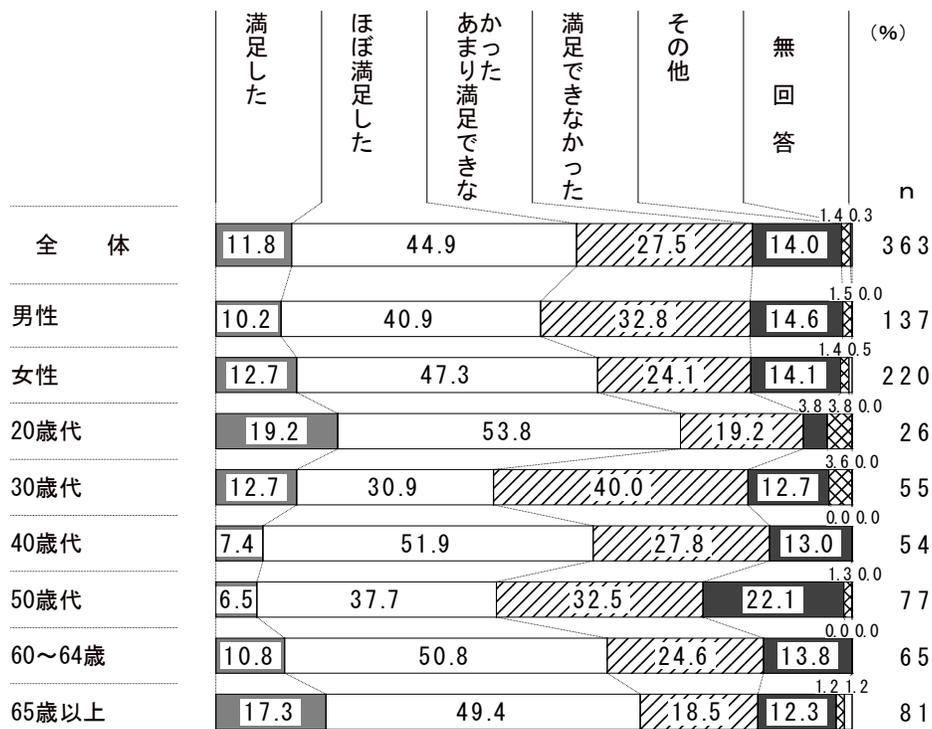


市の相談窓口の利用で「ある」と答えた人(363人)に、市の相談窓口を利用してどう感じたか聞いたところ、「満足した」(11.8%)と「ほぼ満足した」(44.9%)を合わせた『満足した』(56.7%)が6割近くで、「あまり満足できなかった」(27.5%)と「満足できなかった」(14.0%)を合わせた『満足できなかった』(41.5%)が4割を超えている。(図6-9-1)

性別にみると、「ほぼ満足した」は女性の方が6ポイント高く、『満足した』でも9ポイント高い。「あまり満足できなかった」は男性の方が9ポイント高くなっている。

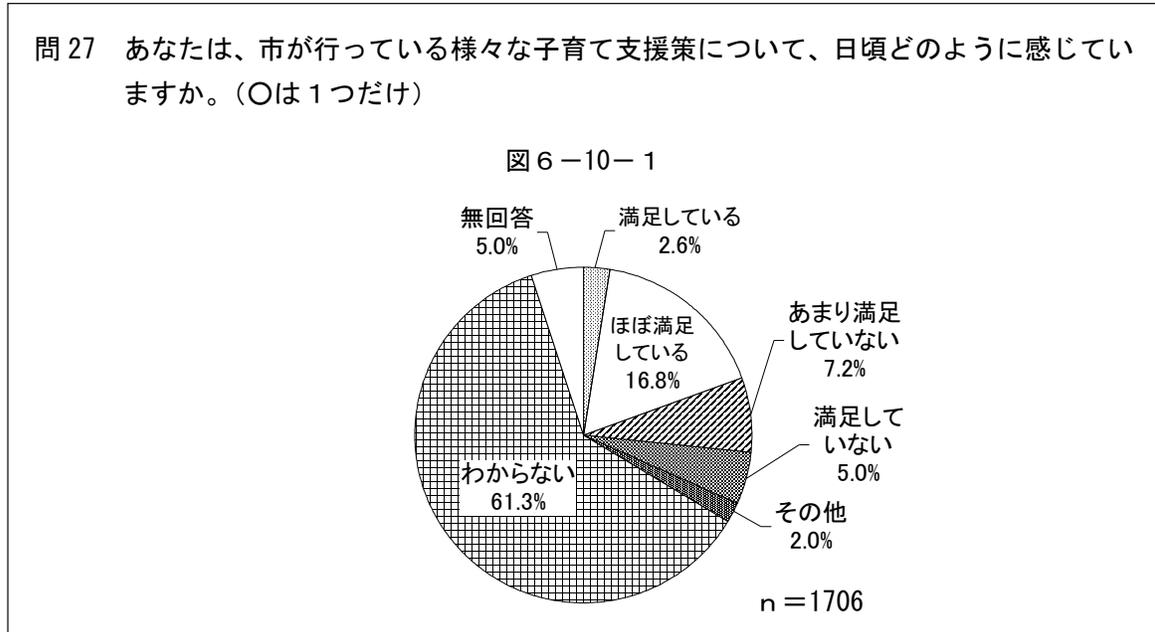
年齢別にみると、『満足した』は20歳代で7割を超え、65歳以上でも7割近くと高く、『満足できなかった』は30歳代と50歳代で5割を超え高くなっている。(図6-9-2)

図6-9-2 相談窓口を利用した感想—性別・年齢別



6-10 市の子育て支援策の満足度

◇『満足している』が2割、『満足していない』が1割を超え、「わからない」が6割を超える



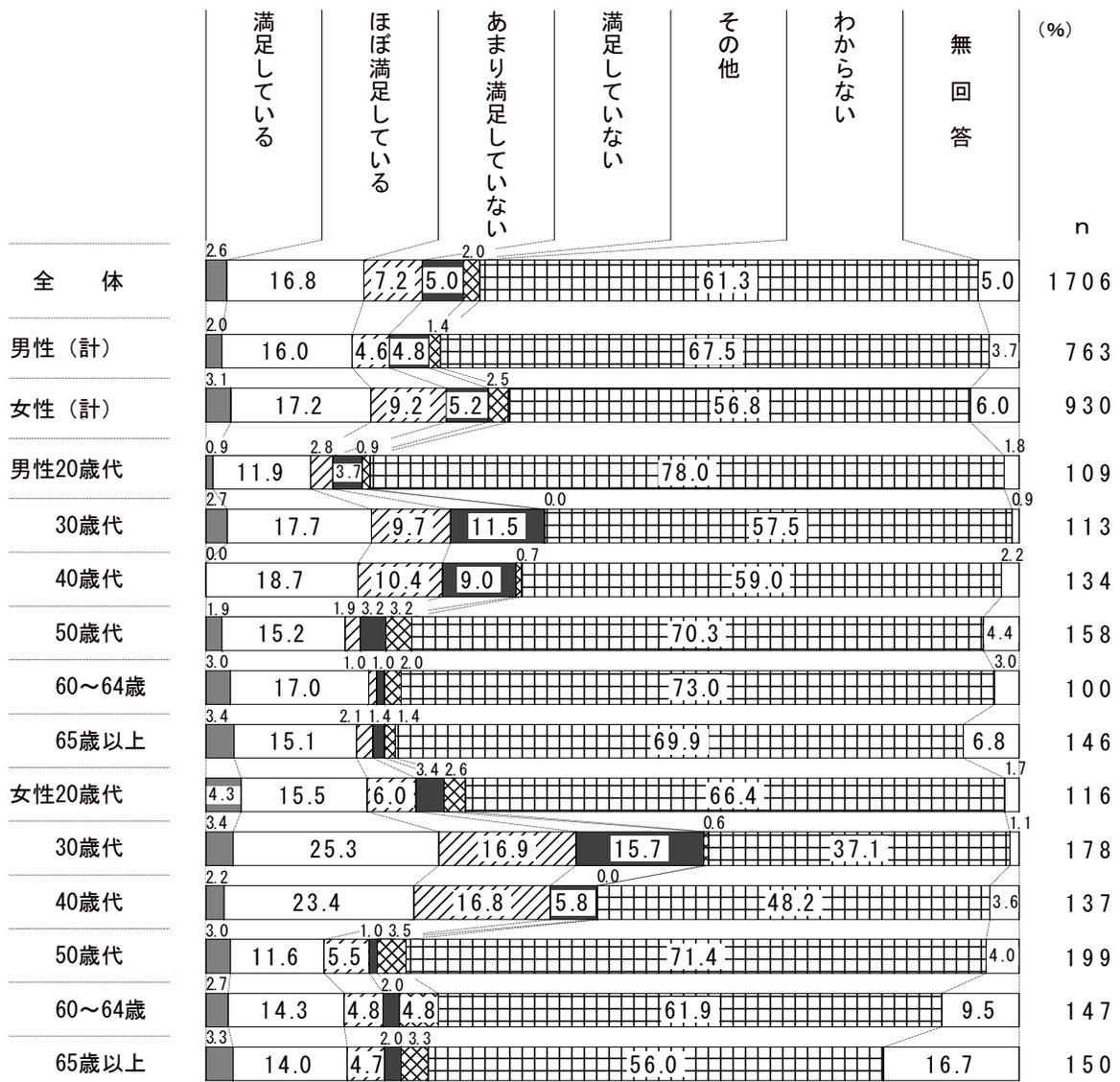
市の子育て支援策についてどのように感じているかについて聞いたところ、「満足している」(2.6%)と「ほぼ満足している」(16.8%)を合わせた『満足している』(19.4%)がほぼ2割で、「あまり満足していない」(7.2%)と「満足していない」(5.0%)を合わせた『満足していない』(12.2%)が1割を超えている。また、「わからない」(61.3%)が6割を超えている。

(図6-10-1)

性別にみると、『満足していない』は女性の方が5ポイント高く、「わからない」は男性の方が11ポイント高くなっている。

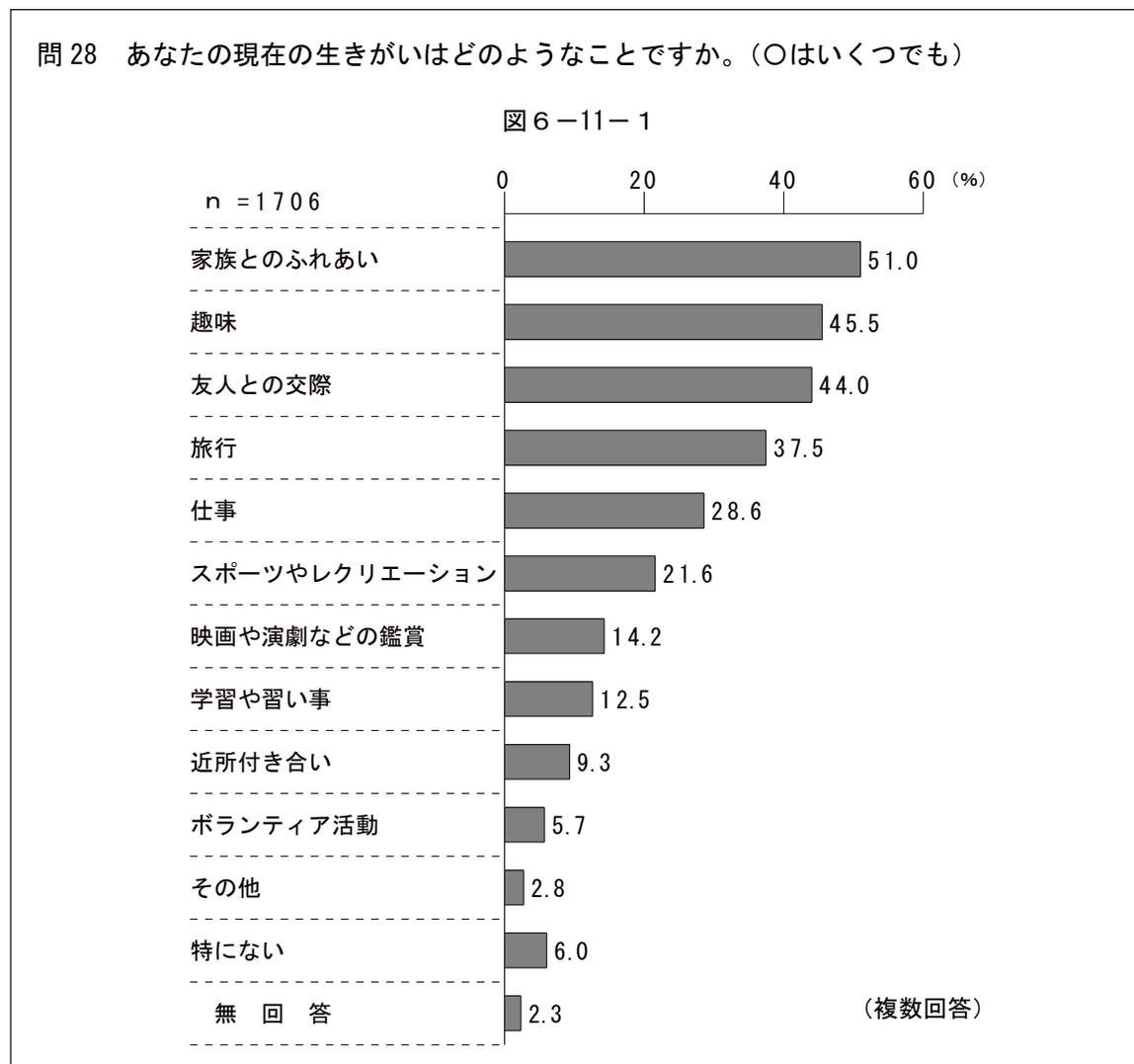
性・年齢別にみると、『満足していない』は女性の30歳代で3割を超え、40歳代でも2割を超え高くなっている。「わからない」は男性の20歳代、50歳代、60～64歳と女性の50歳代で7割以上と高くなっている。(図6-10-2)

図6-10-2 市の子育て支援策の満足度—性・年齢別



6-11 現在の生きがい

◇「家族とのふれあい」が半数を超える

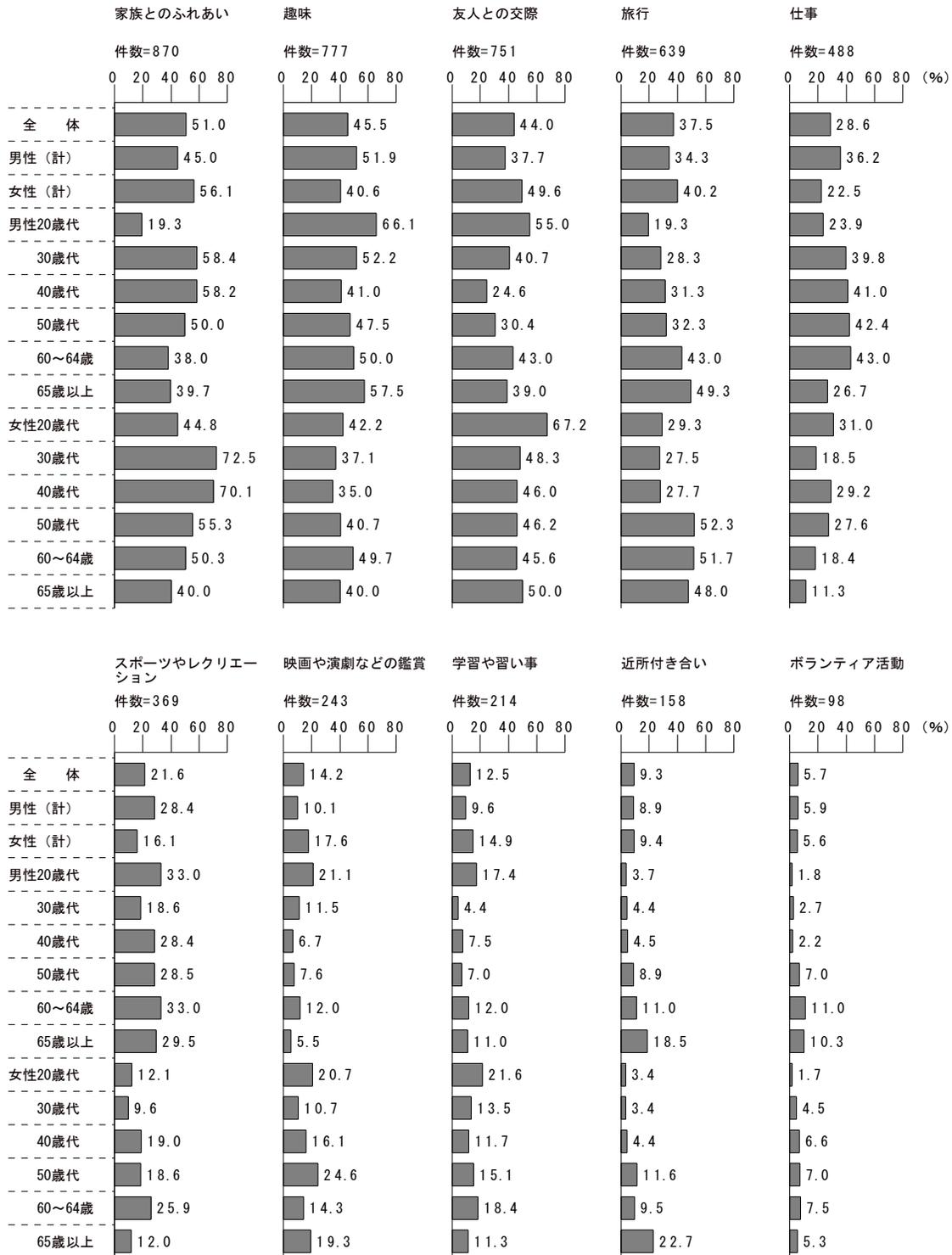


現在の生きがいについて聞いたところ、「家族とのふれあい」(51.0%)がほぼ5割と最も高く、次いで「趣味」(45.5%)、「友人との交際」(44.0%)、「旅行」(37.5%)、「仕事」(28.6%)などの順となっている。(図6-11-1)

上位10項目を性別にみると、女性の方が「友人との交際」は12ポイント、「家族とのふれあい」は11ポイント、「映画や演劇などの鑑賞」は8ポイント、「旅行」は6ポイント、「学習や習い事」は5ポイント高い。一方、男性の方が「仕事」は14ポイント、「スポーツやレクリエーション」は12ポイント、「趣味」は11ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「家族とのふれあい」は女性の30歳代と40歳代で7割を占め高く、「趣味」は男性の20歳代で6割半ばと高い。「友人との交際」は女性の20歳代で7割近くと高く、「旅行」は男性の65歳以上と女性の50歳以上の年代で5割前後と高い。「仕事」は男性の30歳代から60歳～64歳の年代で4割前後と高く、「スポーツやレクリエーション」は男性の20歳代と60歳～64歳で3割を超え高い。「近所付き合い」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、65歳以上で2割前後と高くなっている。(図6-11-2)

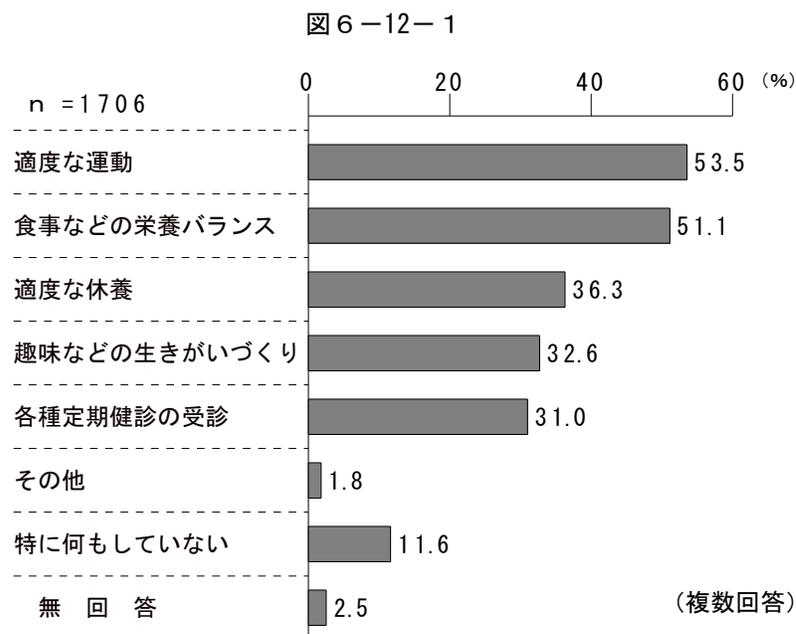
図6-11-2 現在の生きがい—性・年齢別（上位10項目）



6-12 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」と「食事などの栄養バランス」が半数を超えている

問 29 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることはどれですか。
(○はいくつでも)

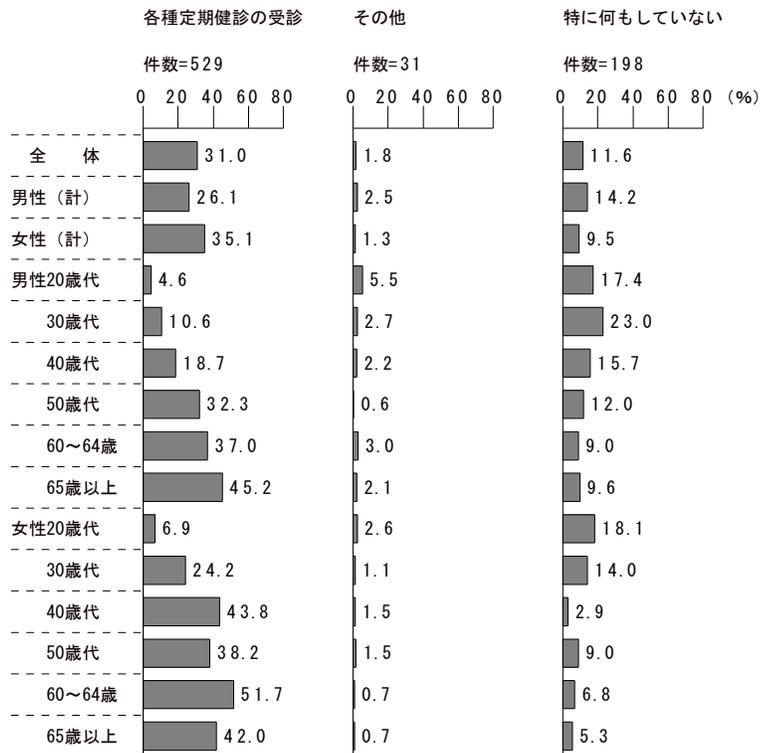
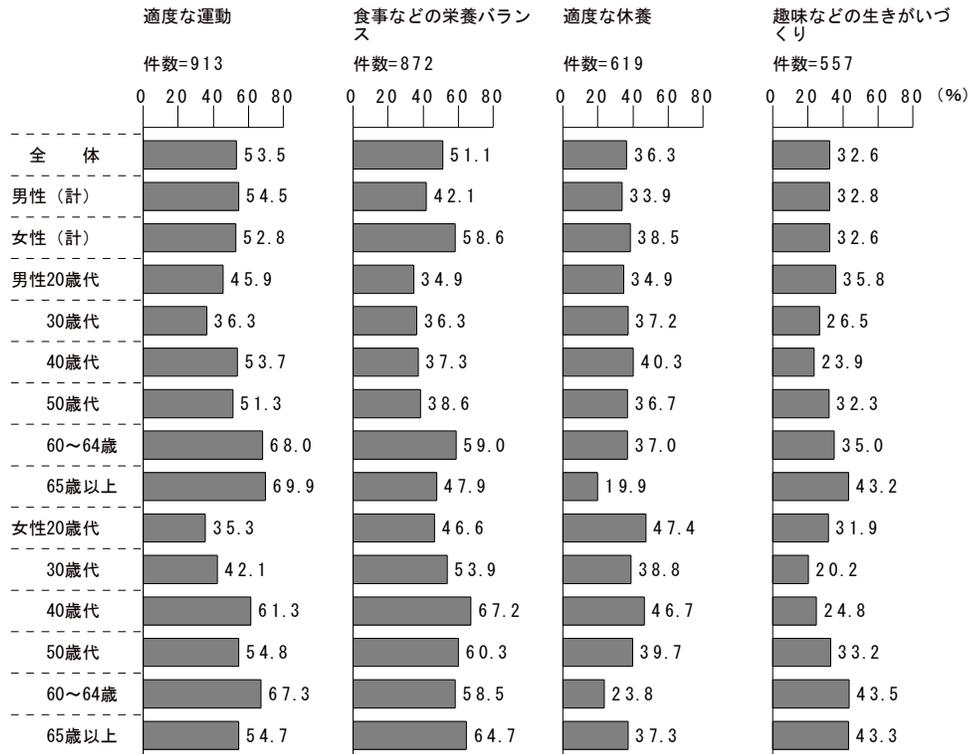


健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることについて聞いたところ、「適度な運動」(53.5%)が5割を超え最も高く、次いで「食事などの栄養バランス」(51.1%)、「適度な休養」(36.3%)、「趣味などの生きがいがづくり」(32.6%)、「各種定期検診の受診」(31.0%)の順となっている。(図 6-12-1)

性別にみると、「食事などの栄養バランス」は17ポイント、「各種定期検診の受診」は9ポイント、それぞれ女性の方が高く、「特に何もしていない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「適度な運動」は男性の60歳以上の年代と女性の60歳～64歳で7割近くと高く、「食事などの栄養バランス」は女性の40歳代と65歳以上で6割半ばと高い。「適度な休養」は女性の20歳代と40歳代で4割半ばと高く、「趣味などの生きがいがづくり」は男性の65歳以上と女性の60歳以上の年代で4割を超え高くなっている。「各種定期検診の受診」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、また女性の60歳～64歳で5割を超え高い。「特に何もしていない」は男性の30歳代で2割を超え高くなっている。(図 6-12-2)

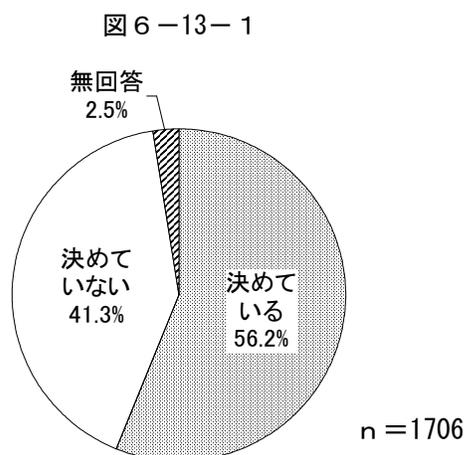
図6-12-2 健康のために心がけていること一性・年齢別



6-13 かかりつけの医療機関の有無

◇「決めている」が過半数を占める

問30 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

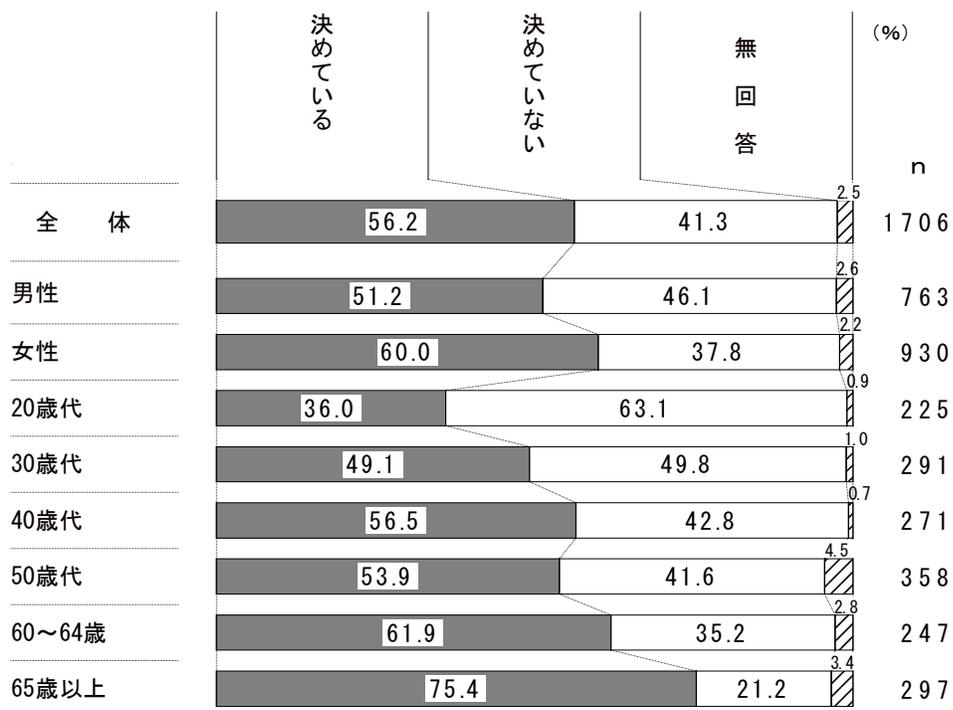


かかりつけの医療機関を決めているかについて聞いたところ、「決めている」(56.2%)が5割半ば、「決めていない」(41.3%)が4割を超えている。(図6-13-1)

性別にみると、「決めている」は女性の方が9ポイント高くなっている。

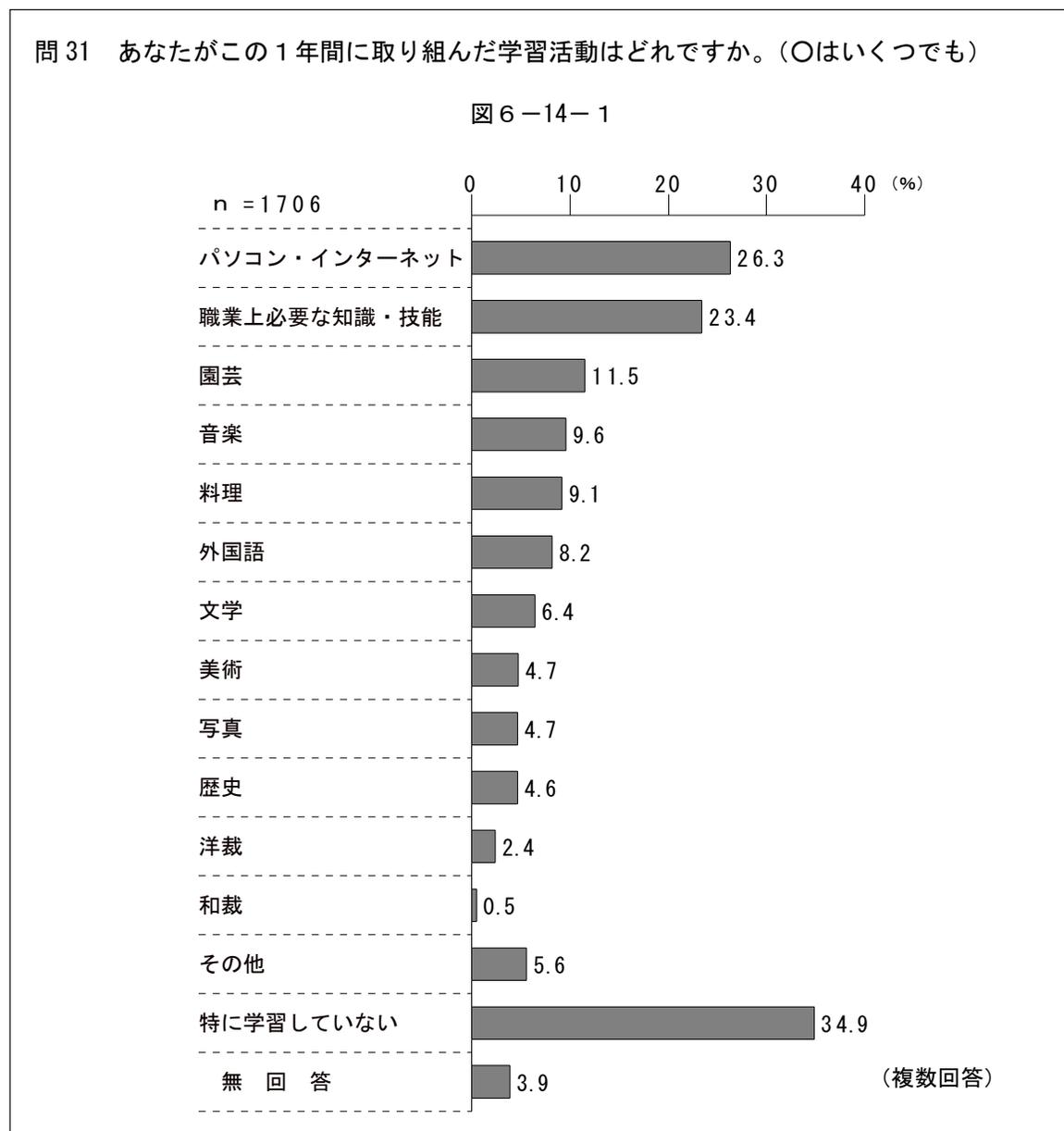
年齢別にみると、「決めている」は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、65歳以上で7割半ばと高くなっている。(図6-13-2)

図6-13-2 かかりつけの医療機関の有無－性別・年齢別



6-14 この1年間に取り組んだ学習活動

◇「パソコン・インターネット」が2割半ば、「職業上必要な知識・技能」が2割を超える



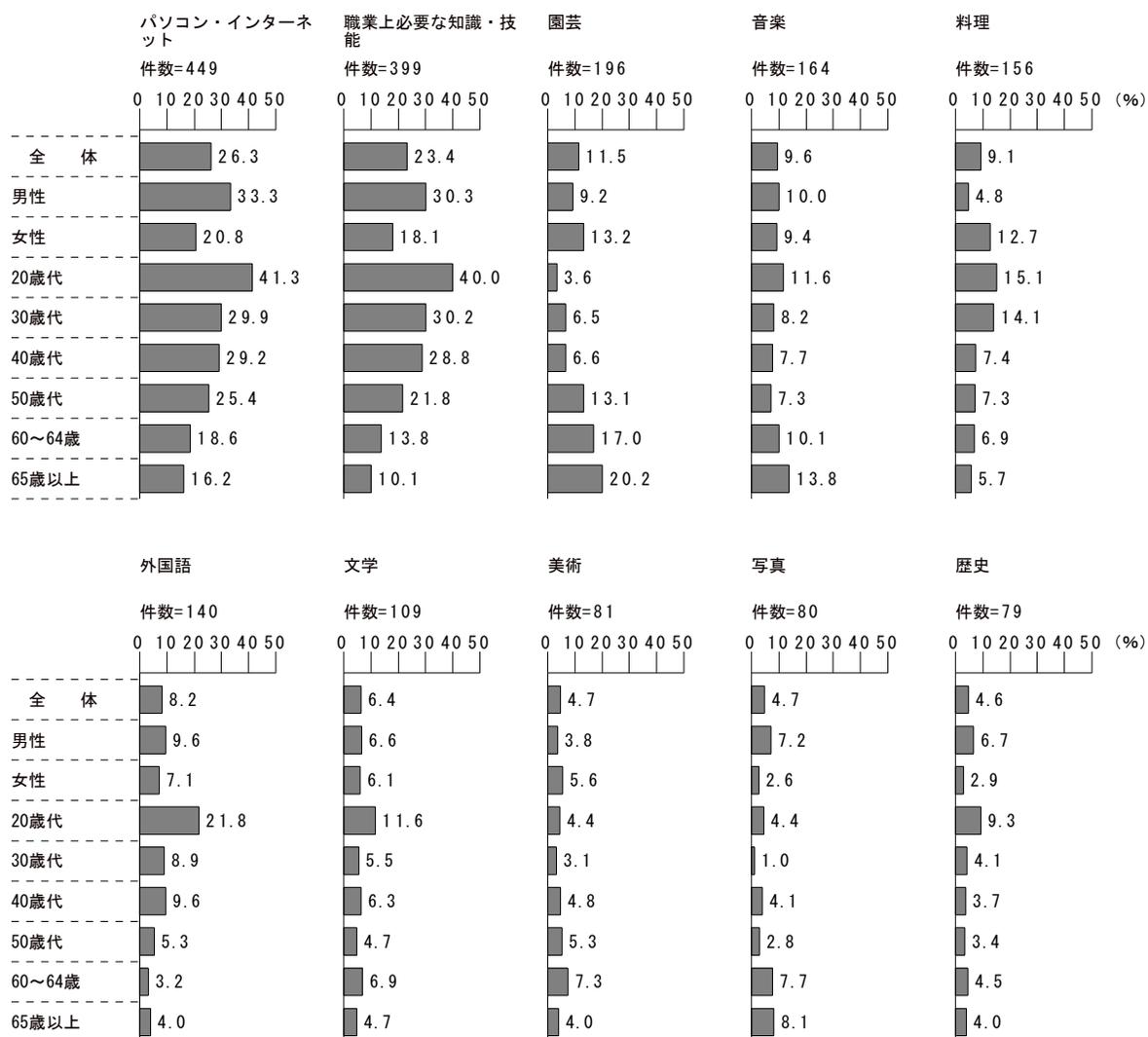
この1年間に取り組んだ学習活動について聞いたところ、「パソコン・インターネット」(26.3%)が2割半ばと最も高く、次いで「職業上必要な知識・技能」(23.4%)、「園芸」(11.5%)、「音楽」(9.6%)、「料理」(9.1%)などの順となっている。また、「特に学習していない」(34.9%)が3割半ばと高くなっている。(図6-14-1)

上位10項目を性別にみると、「パソコン・インターネット」と「職業上必要な知識・技能」で12ポイント、「写真」で5ポイント、それぞれ男性の方が高く、「料理」は女性の方が8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「パソコン・インターネット」、「職業上必要な知識・技能」、「料理」、「外国語」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、「パソコン・インターネット」と「職業上必要な知識・技能」は20歳代で4割以上、「外国語」は2割を超え高い。「園芸」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。

(図6-14-2)

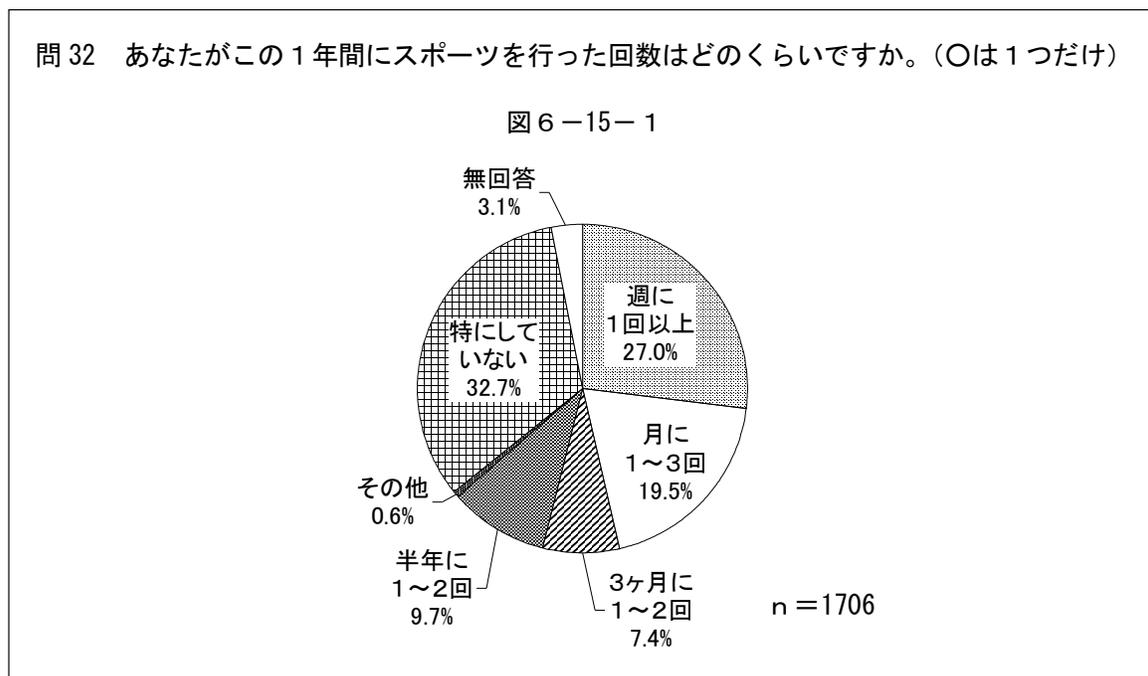
図6-14-2 この1年間に取り組んだ学習活動—性別・年齢別（上位10項目）



6-15 この1年間に行ったスポーツの頻度

◇「週に1回以上」が3割近く、「特にしていない」は3割を超える

問32 あなたがこの1年間にスポーツを行った回数ほどのくらいですか。(○は1つだけ)



この1年間にスポーツを行った回数について聞いたところ、「週に1回以上」(27.0%)が3割近く、「月に1~3回」(19.5%)が2割、「3ヶ月に1~2回」(7.4%)、「半年に1~2回」(9.7%)が1割未満となっている。また、「特にしていない」(32.7%)が3割を超えている。(図6-15-1)

性別にみると、「月に1~3回」は男性の方が5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「週に1回以上」は60~64歳で4割近くと高く、「月に1~3回」は20歳代で3割と高くなっている。(図6-15-2)

居住地域別にみると、地域による大きな差はみられない。(図6-15-3)

図6-15-2 この1年間に行ったスポーツの頻度－性別・年齢別

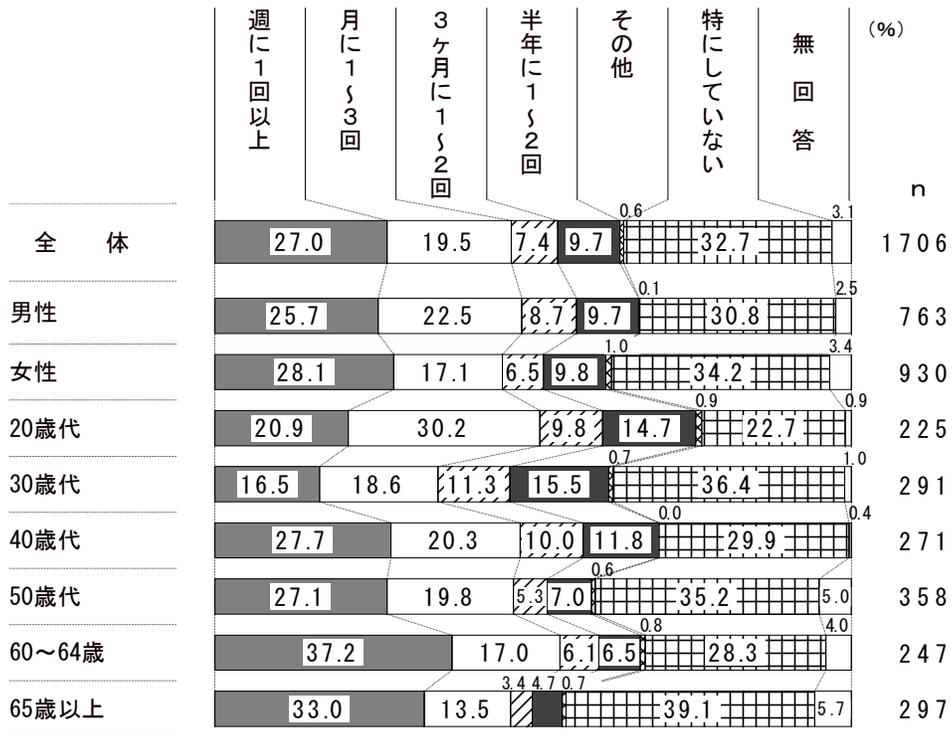
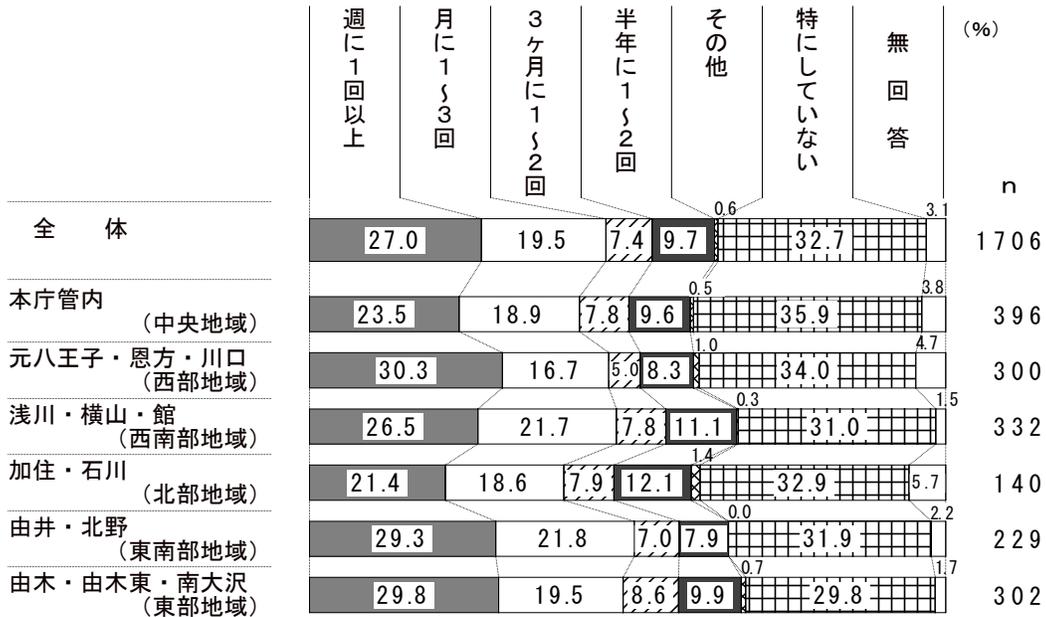


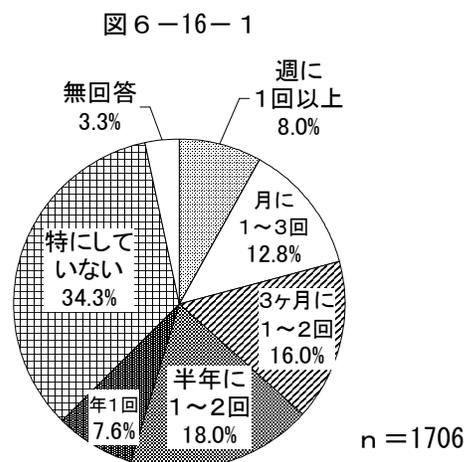
図6-15-3 この1年間に行ったスポーツの頻度－居住地域別



6-16 この1年間の芸術・文化活動の頻度

◇「半年に1～2回」と「3ヶ月に1～2回」が2割近く

問33 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で芸術・文化活動に参加しましたか。
(鑑(観)賞も含みます)(○は1つだけ)

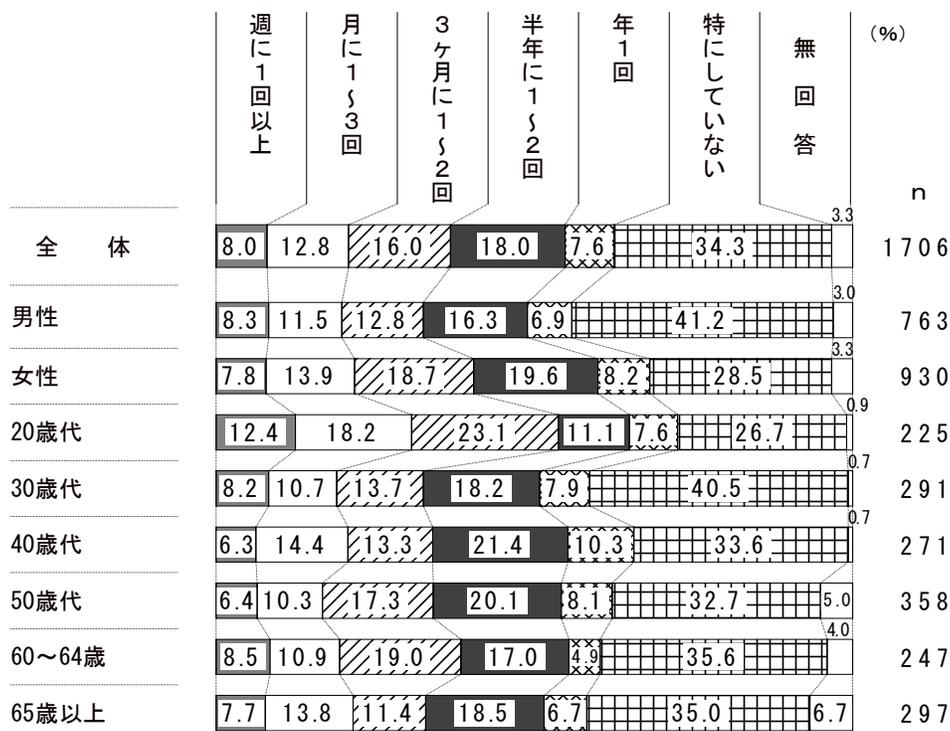


この1年間の芸術・文化活動の参加頻度について聞いたところ、「週に1回以上」(8.0%)が1割未満、「月に1～3回」(12.8%)が1割を超え、「3ヶ月に1～2回」(16.0%)が1割半ば、「半年に1～2回」(18.0%)が2割近く、「年1回」(7.6%)が1割未満となっている。また、「特にしていない」(34.3%)が3割半ばとなっている。(図6-16-1)

性別にみると、「3ヶ月に1～2回」は女性の方が6ポイント高く、「特にしていない」は男性の方が13ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢による顕著な傾向はあまり出ていない。(図6-16-2)

図6-16-2 この1年間の芸術・文化活動の頻度—性別・年齢別

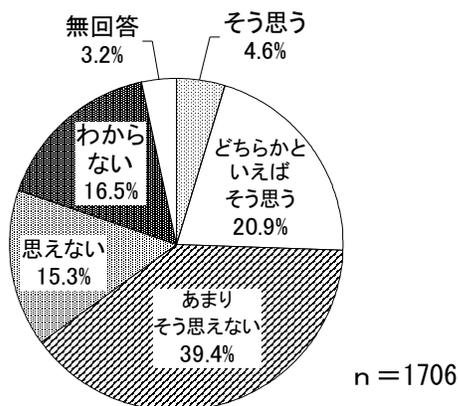


6-17 市は景観に配慮されたまちであるか

◇『思えない』が5割半ばと半数を占める

問34 あなたは、本市が景観に配慮されたまちであると思いますか。(○は1つだけ)

図6-17-1



市が景観に配慮されたまちであると思うかについて聞いたところ、「そう思う」(4.6%)と「どちらかといえばそう思う」(20.9%)を合わせた『そう思う』(25.5%)が2割半ばで、「あまりそう思えない」(39.4%)と「思えない」(15.3%)を合わせた『思えない』(54.7%)が5割半ばとなっている。また、「わからない」(16.5%)が2割近くとなっている。(図6-17-1)

性別にみると、「どちらかといえばそう思う」は女性の方が5ポイント高く、「あまりそう思えない」は男性の方が7ポイント高く、「思えない」を合わせた『思えない』でも9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢による顕著な傾向はあまり出ていない。(図6-17-2)

居住地域別にみると、『そう思う』は由木・由木東・南大沢(東部地域)で4割と高くなっている。

(図6-17-3)

図6-17-2 市は景観に配慮されたまちであるか—性別・年齢別

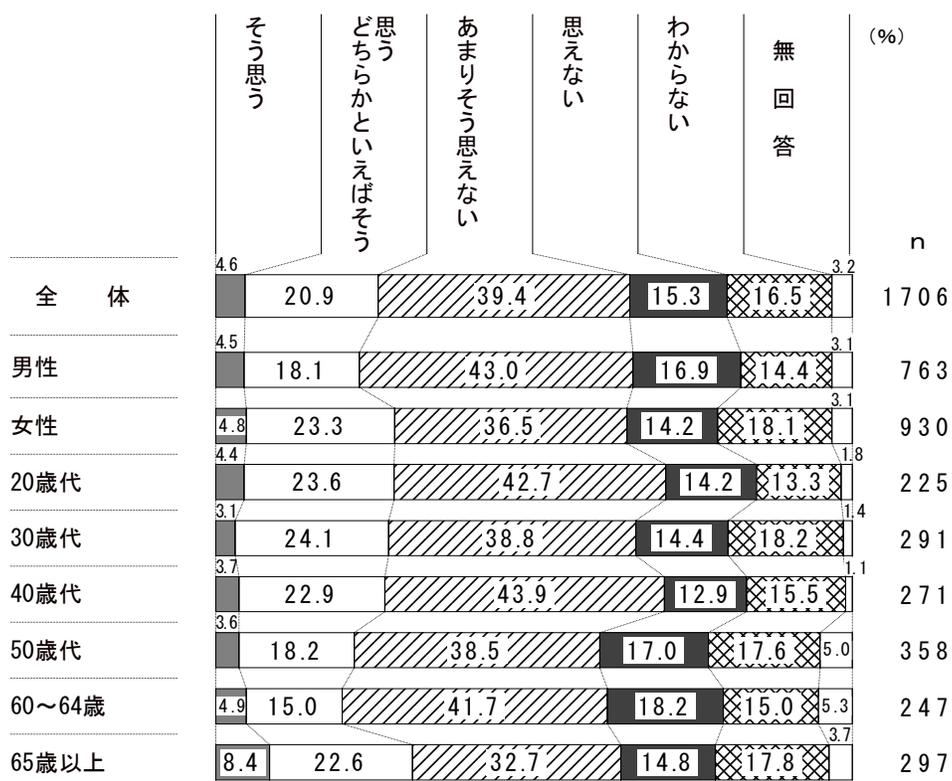
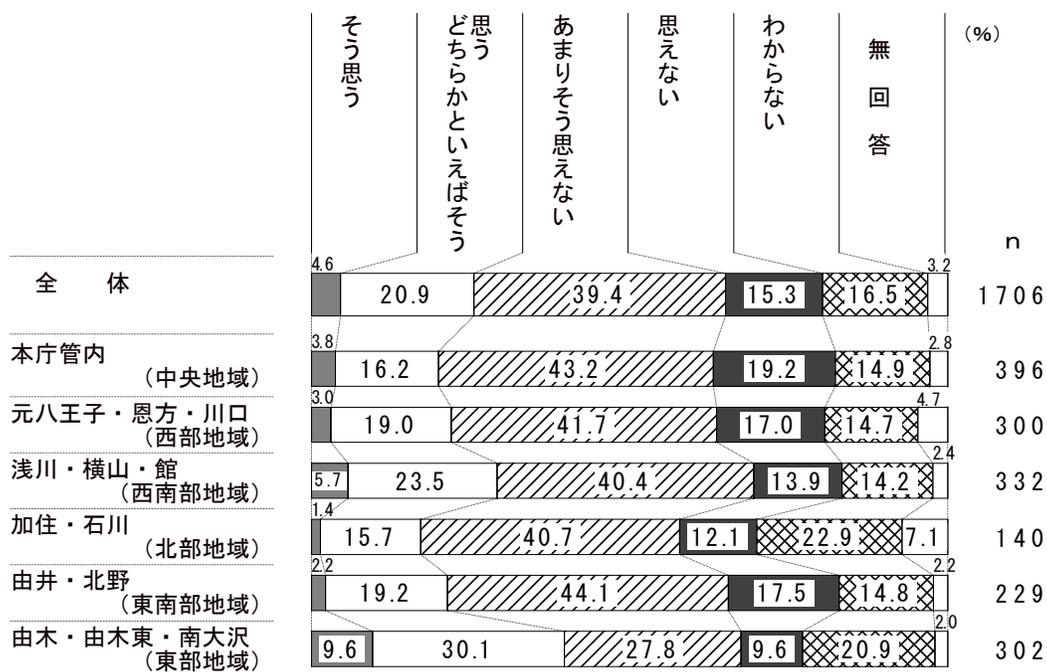


図6-17-3 市は景観に配慮されたまちであるか—居住地域別

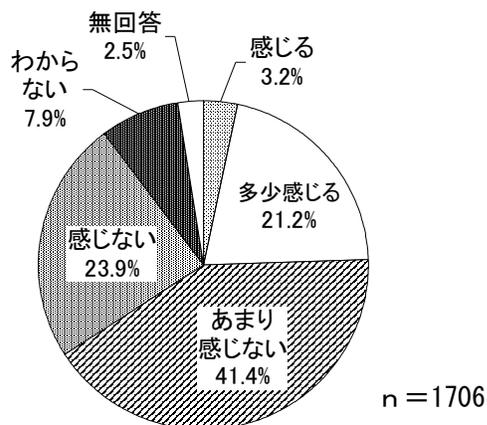


6-18 市のにぎわいと活力の有無

◇『感じない』が6割半ば

問 35 あなたは、市がにぎわいと活力があるまちであると感じますか。(○は1つだけ)

図 6-18-1



市がにぎわいと活力があるまちであると感じるかについて聞いたところ、「感じる」(3.2%)と「多少感じる」(21.2%)を合わせた『感じる』(24.4%)が2割半ばで、「あまり感じない」(41.4%)と「感じない」(23.9%)を合わせた『感じない』(65.3%)が6割半ばとなっている。(図6-18-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、『感じる』は20歳代で3割半ばと高くなっている。(図6-18-2)

居住地域別にみると、『感じる』は由木・由木東・南大沢(東部地域)で4割近くと高くなっている。

(図6-18-3)

図6-18-2 市のにぎわいと活力の有無－性別・年齢別

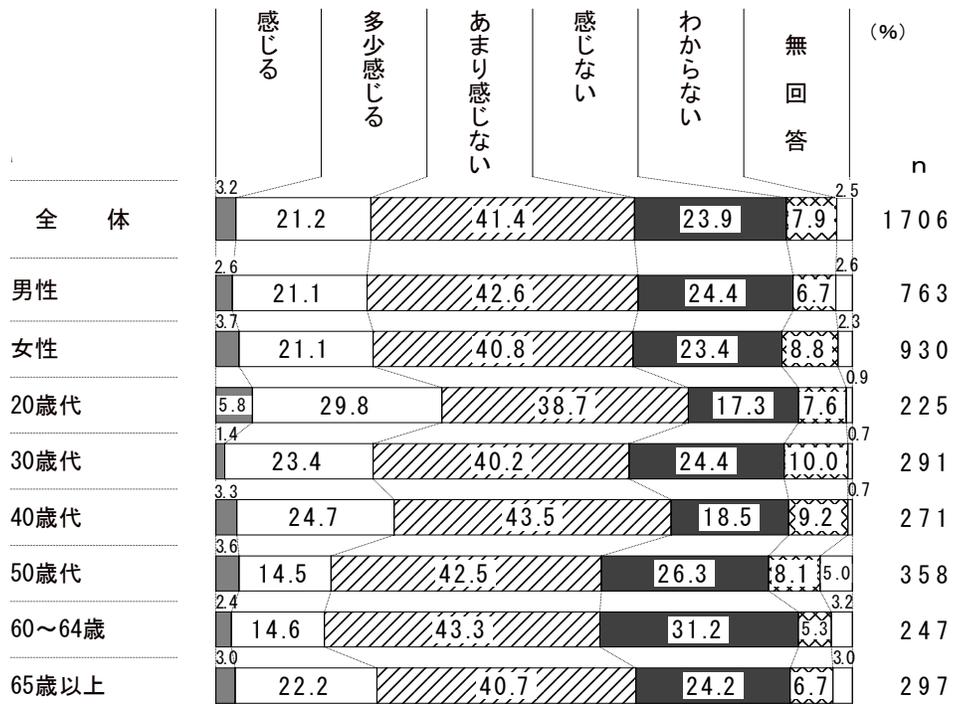
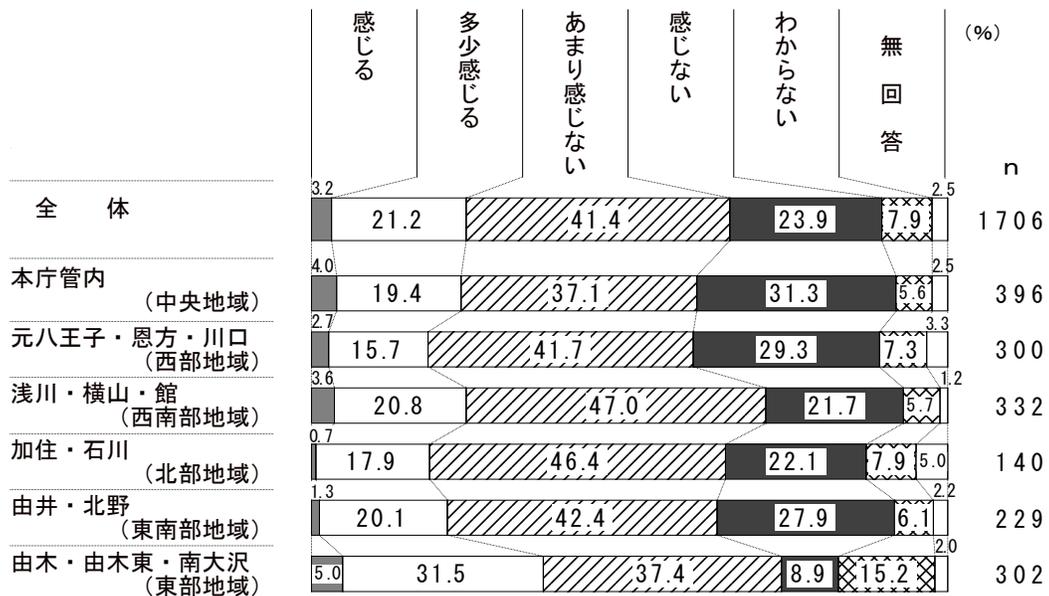


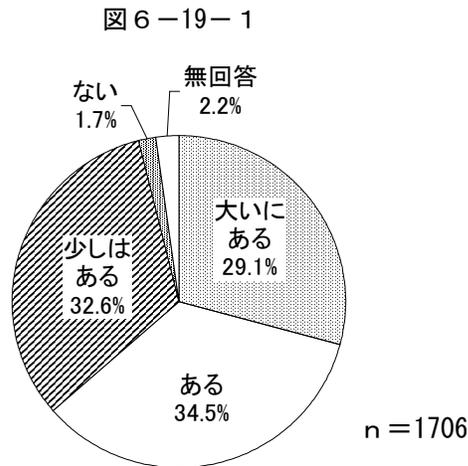
図6-18-3 市のにぎわいと活力の有無－居住地域別



6-19 環境問題への関心度

◇『ある』が9割を超え、関心度は非常に高い

問36 あなたは、環境問題に関心はありますか。(○は1つだけ)

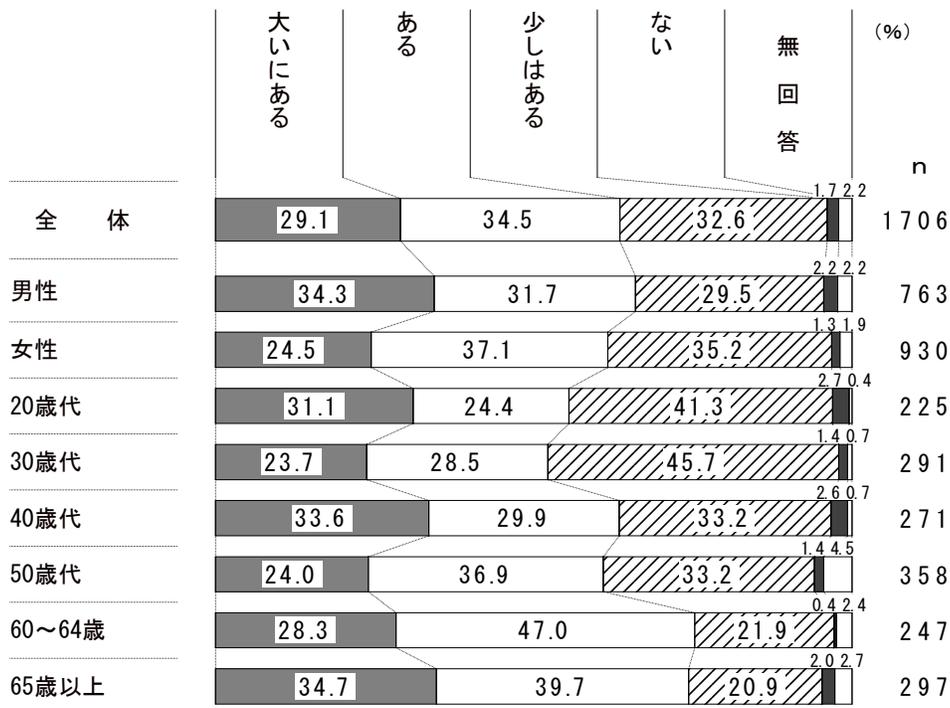


環境問題に関心があるかどうかについて聞いたところ、「大いにある」(29.1%)がほぼ3割、「ある」(34.5%)が3割半ば、「少しはある」(32.6%)が3割を超え、3項目を合わせた『ある』(96.2%)が9割半ばと高くなっている。一方、「ない」(1.7%)はわずかである。(図6-19-1)

性別にみると、「大いにある」は男性の方が10ポイント高く、「ある」は5ポイント、「少しはある」は6ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は60歳～64歳で5割近くと高くなっている。(図6-19-2)

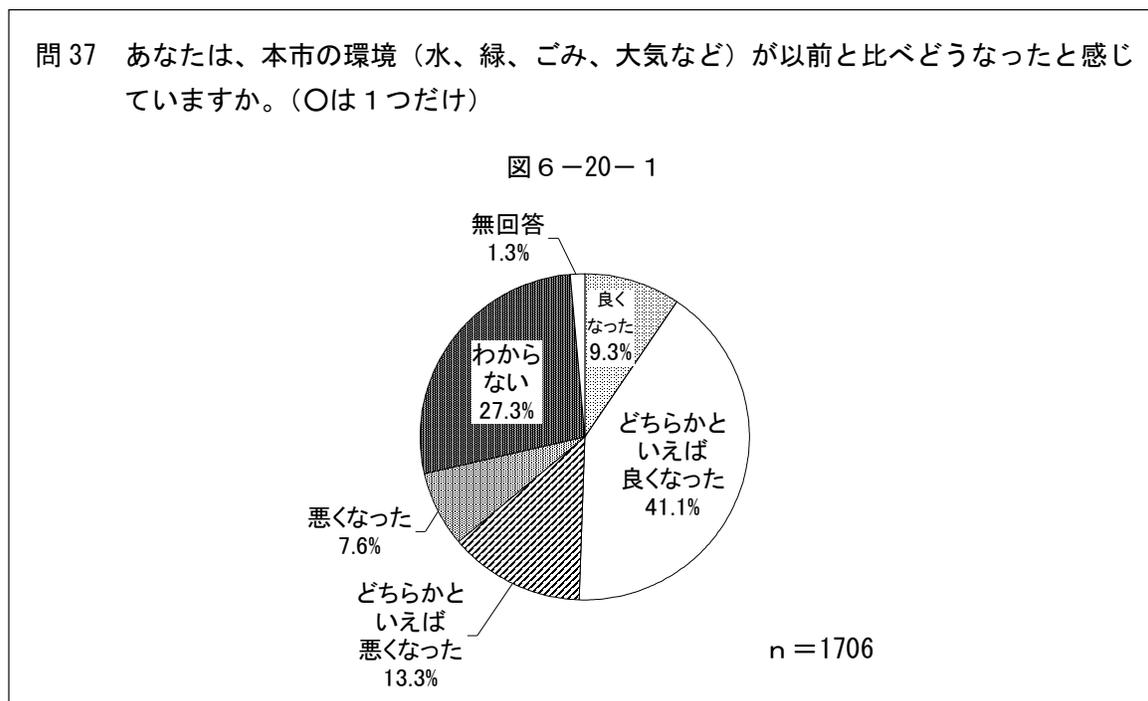
図6-19-2 環境問題への関心度—性別・年齢別



6-20 市の現在の環境

◇『良くなった』が半数を占める

問 37 あなたは、本市の環境（水、緑、ごみ、大気など）が以前と比べどうなったと感じていますか。（○は1つだけ）



市の環境（水、緑、ごみ、大気など）が以前と比べどうなったと感じているか聞いたところ、「良くなった」（9.3%）と「どちらかといえば良くなった」（41.1%）を合わせた『良くなった』（50.4%）が5割で、「どちらかといえば悪くなった」（13.3%）と「悪くなった」（7.6%）を合わせた『悪くなった』（20.9%）がほぼ2割となっている。また、「わからない」（27.3%）が3割近くとなっている。

（図 6-20-1）

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、『良くなった』は高い年代ほど割合が高い傾向にあり、60歳以上の年代で6割以上を占め高い。「わからない」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20歳代で4割と高くなっている。（図 6-20-2）

居住地域別にみると、『良くなった』は元八王子・恩方・川口（西部地域）でほぼ6割と高くなっている。（図 6-20-3）

図6-20-2 市の現在の環境—性別・年齢別

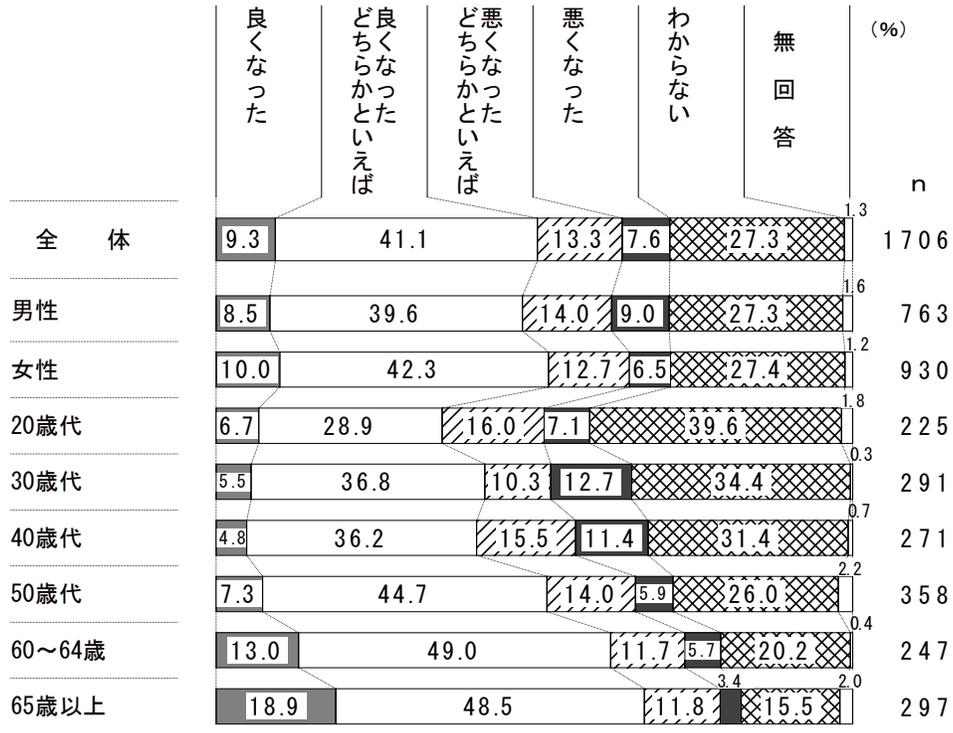
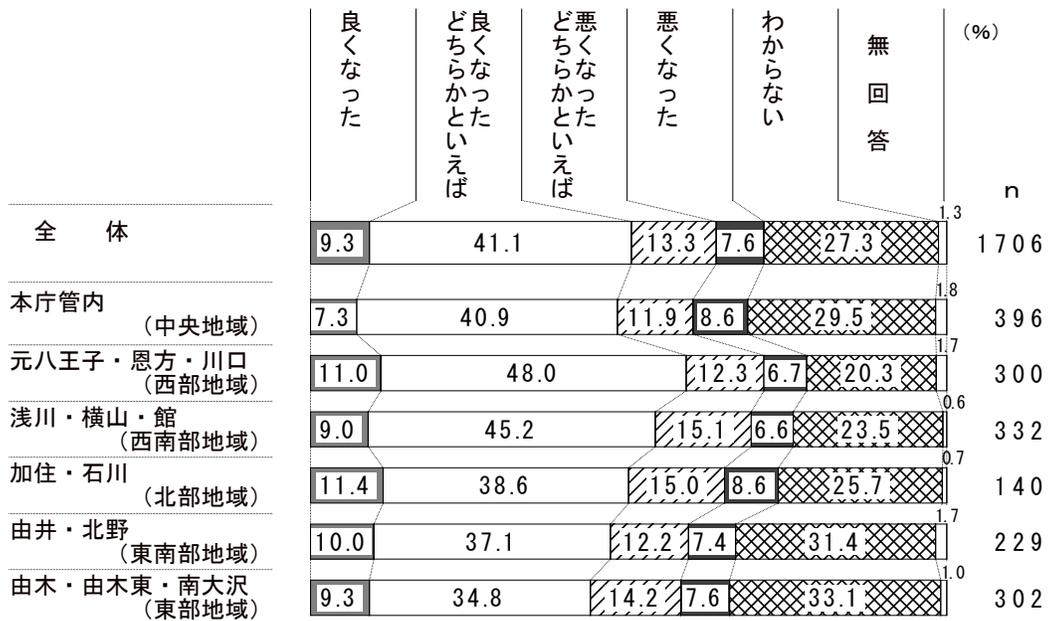


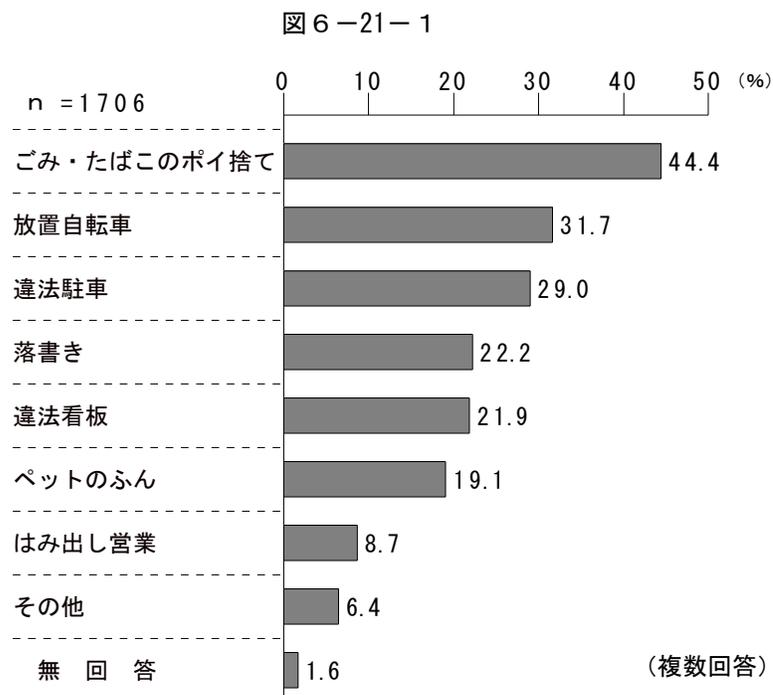
図6-20-3 市の現在の環境—居住地域別



6-21 都市の美観が損なわれる原因

◇「ごみ・たばこのポイ捨て」が4割半ば

問 38 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。(○は2つまで)

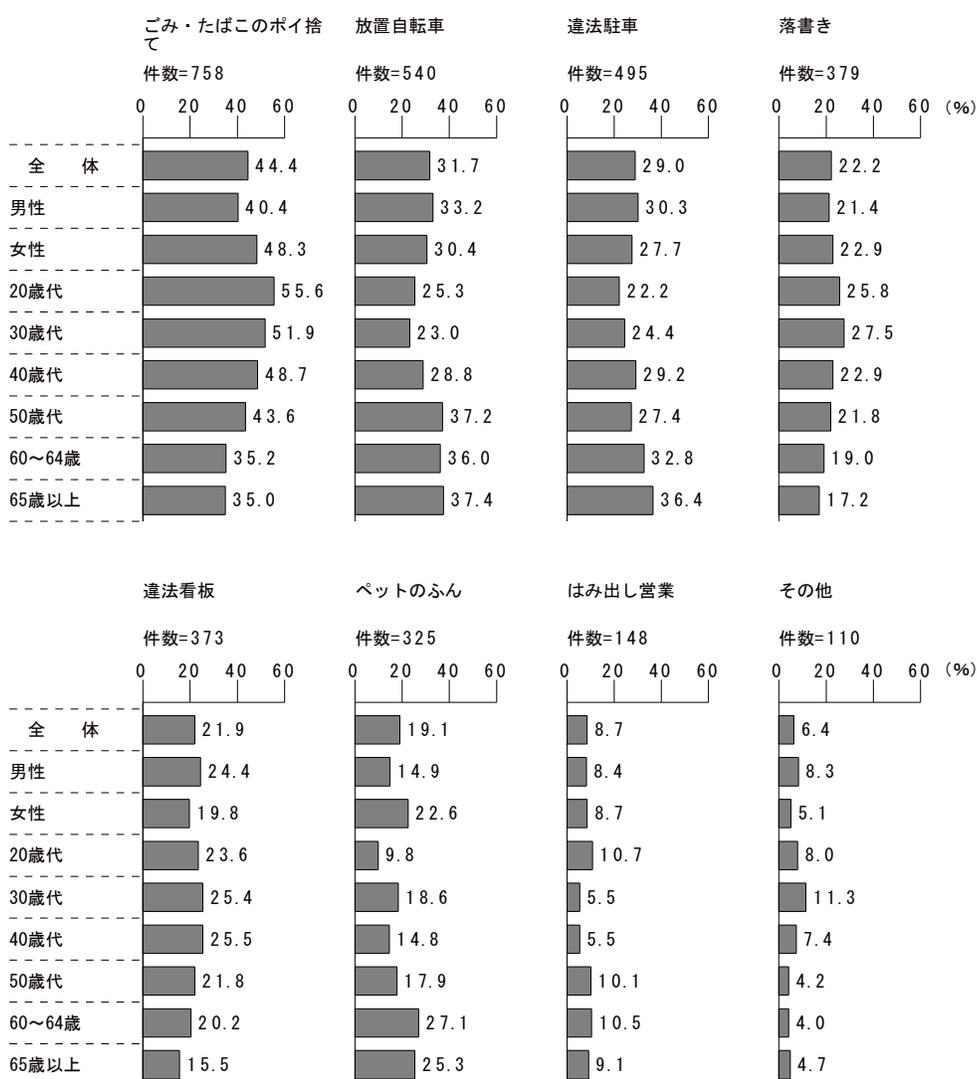


都市の美観が損なわれる原因について聞いたところ、「ごみ・たばこのポイ捨て」(44.4%)が4割半ばと最も高く、次いで「放置自転車」(31.7%)、「違法駐車」(29.0%)、「落書き」(22.2%)、「違法看板」(21.9%)などの順となっている。(図 6-21-1)

性別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」と「ペットのふん」でそれぞれ女性の方が8ポイント高くなっている。

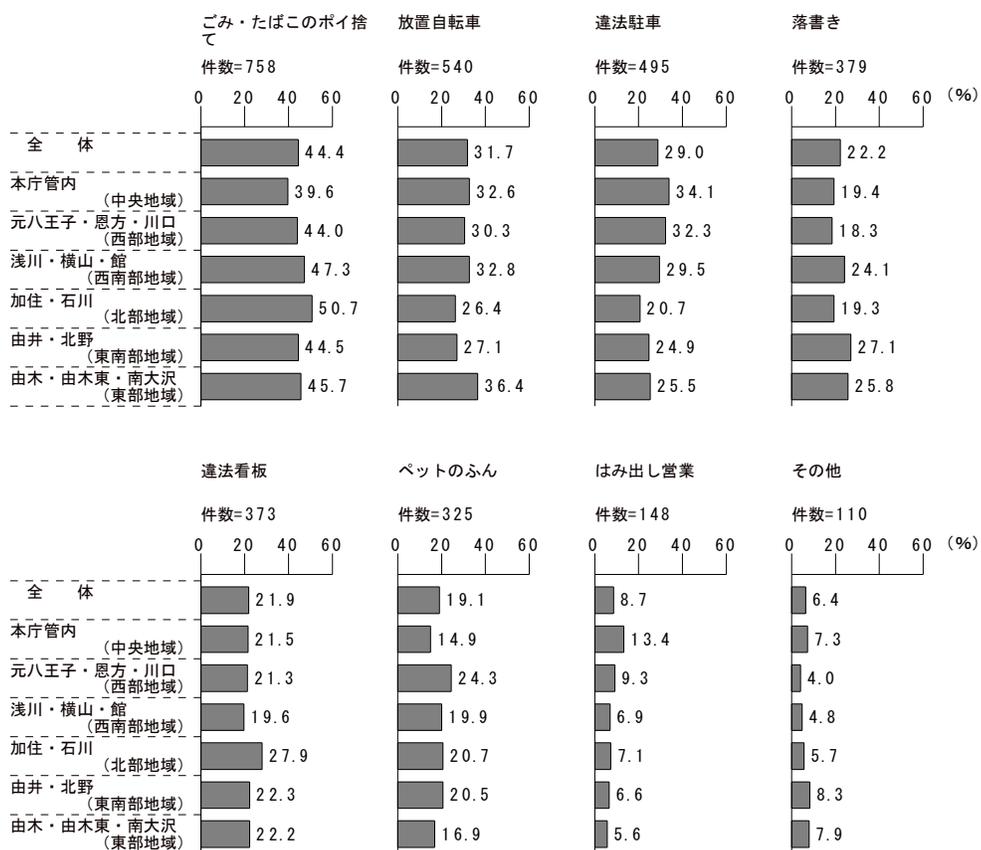
年齢別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20歳代で5割半ばと高く、「違法駐車」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。(図6-21-2)

図6-21-2 都市の美観が損なわれる原因—性別・年齢別



居住地域別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は加住・石川（北部地域）でほぼ5割と高くなっている。「放置自転車」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割半ばとなっている。「違法駐車」は本庁管内（中央地域）で3割半ばを占めて高く、逆に加住・石川（北部地域）ではほぼ2割と低い。（図6-21-3）

図6-21-3 都市の美観が損なわれる原因—居住地域別

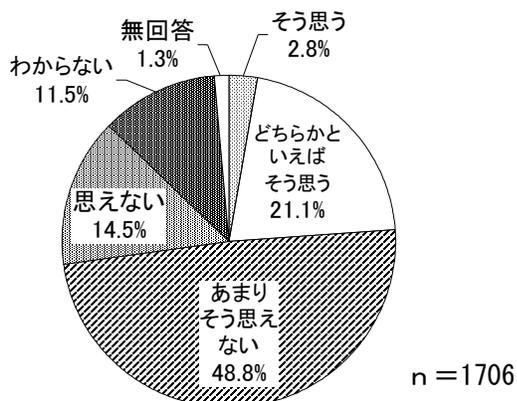


6-22 市は、美観が保持されたまちだと思うか

◇『思えない』が6割を超える

問 39 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

図 6-22-1



市は美観が保持されたまちだと思うかどうかについて聞いたところ、「そう思う」(2.8%)と「どちらかといえばそう思う」(21.1%)を合わせた『そう思う』(23.9%)が2割を超え、「あまりそう思えない」(48.8%)と「思えない」(14.5%)を合わせた『思えない』(63.3%)が6割を超えている。また、「わからない」(11.5%)が1割を超えている。(図6-22-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、すべての年代で『思えない』は5割以上を占めている。(図6-22-2)

居住地域別にみると、『そう思う』は由木・由木東・南大沢(東部地域)で4割近くと高く、『思えない』は本庁管内(中央地域)で7割を超え高くなっている。(図6-22-3)

図6-22-2 市は、美観が保持されたまちだと思うかー性別・年齢別

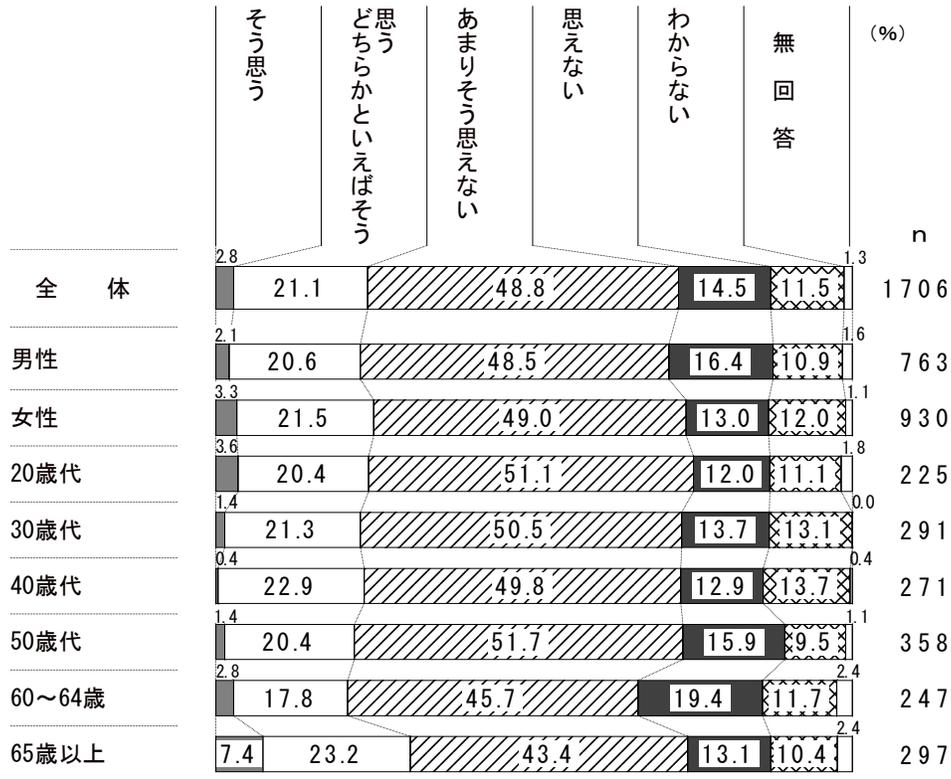
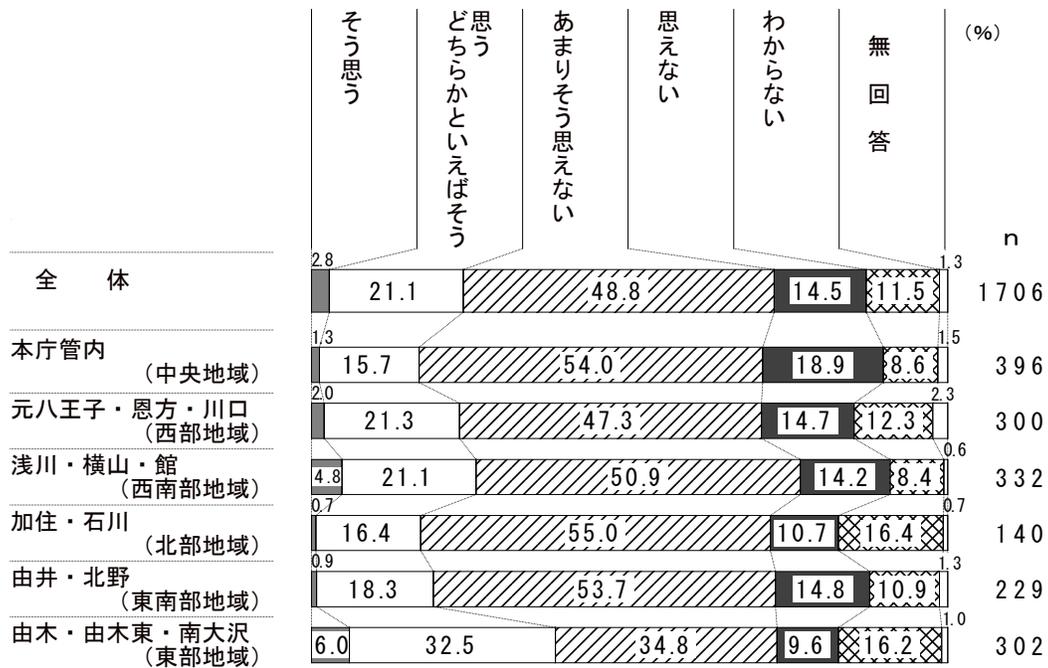


図6-22-3 市は、美観が保持されたまちだと思うかー居住地域別

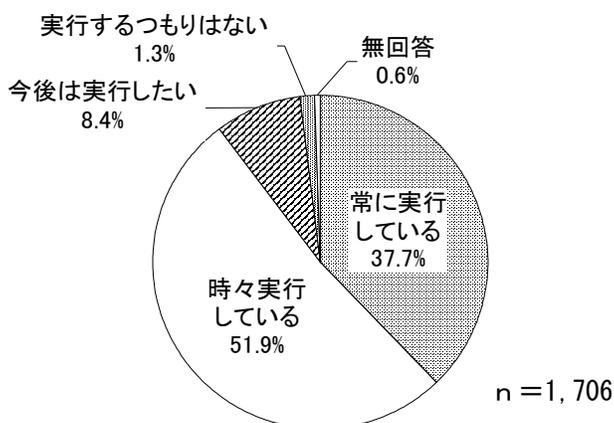


6-23 省エネ・省資源を実行しているか

◇『実行している』が9割と多数を占める

問 40 省エネ・省資源のためには、冷暖房を控える、電気をこまめに消す、冷蔵庫の開閉に気を遣う、ごみ減量のためのリサイクルを心がける、マイカーの使用を控える、省エネ製品を利用する、買物用のバッグを持参して買い物に行くなどがありますが、あなたは、省エネ・省資源を意識して実行していますか。(○は1つだけ)

図6-23-1

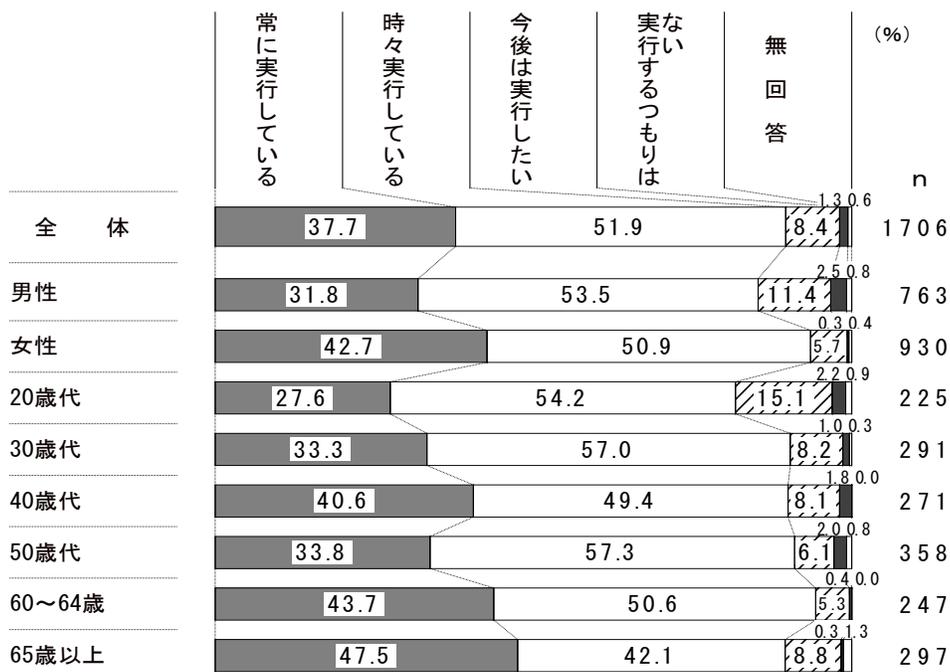


省エネ・省資源を意識して実行しているかについて聞いたところ、「常に行っている」(37.7%)が4割近く、「時々実行している」(51.9%)が5割を超え、合わせた『実行している』(89.6%)は9割と高い。また、「今後は実行したい」(8.4%)と「実行するつもりはない」(1.3%)が1割未満となっている。(図6-23-1)

性別にみると、「常に行っている」は女性の方が11ポイント高く、「今後は実行したい」は男性の方が6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常に行っている」は高い年代ほど割合が高い傾向にある。(図6-23-2)

図6-23-2 省エネ・省資源を実行しているか—性別・年齢別



Ⅲ 調査票

平成 17 年度（第 37 回）八王子市市政世論調査

市政世論調査へのご協力をお願い

市では、市民の皆さんの生活環境への意識、市の施策等に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、まちづくりに有効に活用していくために、毎年市政世論調査を実施しています。また、この調査を通じて市民の皆さんの市政への参加を図り、市民の皆さんと市との協働によるまちづくりを推進していきます。

この調査の対象者は、市内にお住まいの 20 歳以上の方々から無作為に 3,000 名を選ばせていただきました。また、調査は無記名で、調査結果につきましては統計的な処理をいたしますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成 17 年 5 月

八王子市長 黒須 隆一

【ご記入にあたってのお願い】

- ご回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。
(無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。)
- ご回答は、次の要領で行ってください。
 - あらかじめ設けてある**選択肢の中から選んで○印をつけてください。**
 - 回答の○の数**は、(○は1つだけ) (○は3つまで) (○はいくつでも) などのように指定していますので、それに合わせてください。
 - ご自分の答えが選択肢の中にない場合は、「その他」を選び、「(具体的に)」**内にその内容を**具体的に記入**してください。
 - 質問は、1 ページから順に最後までお答えください。**なお、問○-1のように、**一部の方だけにお答えいただく質問もありますが、その場合は矢印や説明文に従ってお答えください。**

◎ ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
平成 17 年 6 月 9 日 (木) までにご投函ください。切手を貼る必要はありません。

※ ご協力いただいた方には、後日、調査結果報告書（概要版）をお送りします。

《お問い合わせ先》 八王子市総合政策部広聴広報室（広聴担当）まで
電話：0426-20-7411（直通）
(月曜日～金曜日 午前8時30分～午後7時)

<あなたご自身について> ～基本項目（フェイス・シート）～

最初にあなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別は、次のどちらにあたりますか。（○は1つだけ） n=1706

1	男性	44.7	2	女性	54.5	(無回答)	0.8
---	----	------	---	----	------	-------	-----

F 2 あなたの年齢は、次のどれにあたりますか。（○は1つだけ） n=1706

1	20歳代	13.2	3	40歳代	15.9	5	60～64歳	14.5	(無回答)	1.0
2	30歳代	17.1	4	50歳代	21.0	6	65歳以上	17.4		

F 3 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。（○は1つだけ） n=1706

1	20～39歳で単身者	15.4
2	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない	3.8
3	20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前	9.7
4	20～64歳で一番下の子どもが小学生	8.0
5	20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生	7.0
6	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している	24.7
7	40～64歳で単身者	5.7
8	40～64歳で配偶者がいて子どもがいない	6.5
9	65歳以上	17.5
	(無回答)	1.8

F 4 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。ご自分の立場（自分が親、自分が子ども）にかかわらず、世帯構成をお答えください。（○は1つだけ） n=1706

1	ひとり暮らし（単身世帯）	8.9	4	親と子ども夫婦（二世帯世帯）	6.7
2	夫婦のみ（一世帯世帯）	23.6	5	親と子どもと孫（三世帯世帯）	7.7
3	親と未婚の子ども（二世帯世帯）	49.9	6	その他（具体的に）	1.9
				(無回答)	1.3

F 5 現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。（○は1つだけ） n=1706

1	1人	10.6	3	3人	25.7	5	5人	7.9	7	7人以上	1.5
2	2人	25.3	4	4人	23.6	6	6人	4.3		(無回答)	1.1

F 6 あなたは、八王子市に住んで何年になりますか。(○は1つだけ) n=1706

1	1年未満	2.9	3	3～10年未満	16.4	5	20年以上	39.2
2	1～3年未満	4.8	4	10～20年未満	16.2	6	生まれてからずっと (無回答)	19.7 0.9

F 7 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1706

1	農・林・漁業	0.5	7	アルバイト・パート	15.3
2	自営業	7.0	8	(専業)主婦・主夫	20.8
3	自由業(開業医、弁護士、司法書士など)	0.8	9	学生	3.3
4	会社や団体の役員	3.7	10	その他(具体的に)	0.2
5	会社・商店・サービス業などの勤め人	29.6	11	無職	13.0
6	教員・公務員	4.8		(無回答)	1.1

(F 7で、「1」から「7」とお答えの方に)

→ F 7-1 あなたの職場は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1051

1	八王子市内	46.5	2	八王子市外	48.2	(無回答)	5.2
---	-------	------	---	-------	------	-------	-----

F 8 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1706

1	一戸建て(持ち家)	56.2	5	都市再生機構(旧公団)・会社の賃貸住宅	4.1
2	分譲マンション	19.7	6	都営・市営住宅	4.0
3	一戸建て(借家)	2.1	7	社宅・官舎・寮	2.5
4	民間の賃貸アパート ・マンション	10.2	8	その他(具体的に) (無回答)	0.2 1.0

F 9 あなたのお住まいは、次のように各事務所の管轄区域に分類した場合、どの地区にあたりますか。(○は1つだけ) n=1706

※該当する地区が不明な場合は、()内にお住まいの町名をご記入ください。

1	本庁管内(中央地域)	23.2	5	由井・北野(東南部地域)	13.4
2	元八王子・恩方・川口(西部地域)	17.6	6	由木・由木東・南大沢(東部地域)	17.7
3	浅川・横山・館(西南部地域)	19.5	7	不明(お住まいの町名)	0.2
4	加住・石川(北部地域)	8.2		(無回答)	0.2

F 10 あなたのご家庭は、町会や自治会に入っていますか。(○は1つだけ) n=1706

1	入っている	79.6	2	入っていない	19.3	(無回答)	1.1
---	-------	------	---	--------	------	-------	-----

第 1 章

<定住意向>

問1 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

n=1706

1 ずっと住み続けたい	42.6	3 市外へ移りたい	11.9
2 当分は住み続けたい	44.4	(無回答)	1.2

(問1で「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分は住み続けたい」とお答えの方に)

→問1-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

n=1483

1 緑が多く自然に恵まれている	58.4	6 古き良きものが多い	4.0
2 交通の便が良い	31.9	7 街並み・景観が美しい	10.3
3 買い物に便利	26.0	8 公園などがよく整備されている	9.8
4 地域住民の連帯感が強い	9.5	9 その他(具体的に)	17.4
5 教育環境が良い	3.9	10 特に理由はない	14.1
		(無回答)	1.1

(問1で「3 市外へ移りたい」とお答えの方に)

→問1-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

n=203

1 自然環境が悪い	8.4	6 住宅事情が悪い	11.8
2 交通の便が悪い	43.3	7 公害が多い	6.4
3 買い物に不便	26.6	8 街の雰囲気が嫌い	23.6
4 隣近所となじめない	5.4	9 その他(具体的に)	36.5
5 この街に愛着がない	23.2	10 特に理由はない	4.4
		(無回答)	1.0

<生活環境>

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ) n=1706

項目	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	(無回答)
(1) 日当たりや風通し	52.4	17.0	18.5	8.4	2.8	0.9
(2) 大気汚染	19.6	17.1	43.0	11.8	6.4	2.1
(3) 騒音・振動	21.6	17.4	32.2	17.0	10.3	1.5
(4) 災害時の安全性	12.0	14.6	52.3	13.2	5.2	2.8
(5) 下水・排水	31.3	11.8	43.3	7.6	4.8	1.2
(6) し尿処理	35.7	10.3	44.9	3.6	2.9	2.7
(7) ごみ処理	26.1	16.3	42.7	9.1	4.3	1.3
(8) 防犯や風紀	9.7	15.3	48.7	18.8	5.6	1.9
(9) 病院などの医療施設	8.6	17.1	44.8	20.5	7.7	1.3
(10) 集会施設	11.0	11.8	59.3	12.0	3.8	2.2
(11) 公園・遊び場	15.2	17.2	40.4	17.6	7.7	1.8
(12) 道路の整備状況	16.2	15.7	41.0	17.3	8.6	1.2
(13) 緑の豊かさ	35.9	29.1	26.4	5.5	2.0	1.2
(14) 交通の便	19.1	21.7	30.5	16.4	11.3	1.1
(15) 交通の安全性	9.7	15.3	49.0	17.0	7.3	1.6
(16)全体としての「住みやすさ」	13.0	30.4	45.1	8.7	1.5	1.5

<市政への要望>

問3 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください。

1	2	3

n=1706

1	財政再建	13.4	19	交通安全対策	6.7
2	行財政改革	12.0	20	防犯対策	29.7
3	学校教育	13.3	21	防災対策	10.6
4	青少年の健全育成	11.0	22	高度情報化社会への対応	2.2
5	生涯学習	3.9	23	商・工業などの地域経済対策	8.0
6	文化施設・文化事業	6.0	24	道路整備	9.7
7	国際化の推進	1.1	25	交通機関・駐車場の整備	7.7
8	コミュニティづくり	2.4	26	緑の保全や公園の整備	12.1
9	学園都市づくり	0.7	27	下水道処理	2.6
10	男女共同参画社会づくり	0.8	28	都市整備事業（再開発、区画整理等）	4.0
11	保健医療	22.6	29	清掃事業（ごみ、し尿処理、リサイクル）	8.0
12	介護保険	9.1	30	公害防止対策	2.9
13	社会福祉（ひとり親、低所得者）	9.8	31	都市景観	4.9
14	高齢者福祉	23.7	32	観光・レクリエーション	2.4
15	障害者福祉	4.6	33	不法投棄・放置対策	
16	少子化対策・子育て支援	14.3		（自動車、自転車、バイク、ごみ等）	14.2
17	消費者保護	4.6	34	その他（具体的に ）	2.6
18	住宅対策	4.1	35	特にない	0.4
				（無回答）	3.2

<防災対策について>

阪神・淡路大震災を始め、各地で起こった大地震の教訓のもと、今、地域での防災対策の必要性が求められています。そこで、市では、災害に強い人づくり、まちづくりを進めていくために、市民の皆さんの防災に対する意識や実態についてお聞きします。

問4 あなたの家庭では、大地震等に備えどのようなものを準備していますか。(〇はいくつでも)
n=1706

1 食料・飲料水	39.9	6 貴重品類等非常持出品	19.6
2 医薬品	19.2	7 衣類	7.2
3 携帯ラジオ	42.0	8 その他(具体的に)	3.5
4 懐中電灯	62.6	9 何もしていない	26.6
5 消火器	27.1	(無回答)	2.1

問5 阪神・淡路大震災では、死亡被災者の約9割が建物倒壊や家具等の転倒による圧死でした。
あなたの家庭では、建物倒壊防止対策を行っていますか。(〇は1つだけ) n=1706

1 「耐震補強を行っている」または「もともと耐震構造である」	25.4
2 耐震調査は行ったが、耐震補強は行っていない	4.2
3 何もしていない	66.3
(無回答)	4.2

(問5で「3 何もしていない」とお答えの方に)

→ 問5-1 何もしていない主な理由は何ですか。(〇は1つだけ) n=1131

1 耐震調査や耐震補強をしたいが、相談先がわからない	14.4
2 集合住宅・賃貸住宅なので、自分で決められない	38.9
3 必要を感じない	15.0
4 面倒だから	14.9
5 その他(具体的に)	15.8
(無回答)	1.0

問6 あなたの家庭では、何か家具の転倒防止対策を行っていますか。(〇は1つだけ)
n=1706

1 家具や冷蔵庫などを固定している	18.0
2 今後、家具や冷蔵庫などの固定をしたいと思っている	47.7
3 何もしていない(その理由)	31.4
(無回答)	2.9

問7 家の外まわりの安全対策として、ブロック塀等の補強対策を行っていますか。(〇は1つだけ)
n=1706

1 補強を行っている	7.3
2 今後、補強を行いたいと思っている	11.0
3 補強を行っていない(その理由)	17.8
4 ブロック塀等はない	59.0
(無回答)	4.9

問8 あなたの自宅周辺では、災害発生時に危険だと思う場所がありますか。(〇はいくつでも)
n=1706

1 高層ビル・マンション	15.8	5 近くの河川	12.8
2 木造密集地	9.6	6 その他(具体的に)	6.7
3 化学工場、石油タンク等の貯蔵施設	3.2	7 特にない	38.0
4 がけ地	11.6	8 わからない	13.1
		(無回答)	1.8

問9 あなたは、市で作成した防災マップをご存知ですか。(〇は1つだけ) n=1706

1 持っているので、知っている	22.1	3 持っていないし、知らない	56.7
2 持っていないが、知っている	18.7	(無回答)	2.5

問10 あなたは、お住まいの地域の避難場所がどこにあるかを知っていますか。(〇はいくつでも)
n=1706

1 広域避難場所(大火や有毒ガス、煙から避難する場所)	16.4
2 一時避難場所(広域避難場所に行くまで一時様子を見る場所)	15.5
3 避難所(自宅が焼失、倒壊し住まいがない方に学校の体育館等で避難生活する場所)	25.9
4 広域か一時かわからないが、避難場所は知っている	40.2
5 避難場所はいずれも知らない	24.8
(無回答)	2.2

問11 大地震の時、家族で決めている集合場所や連絡方法は次のどれですか。

(1)(2)それぞれについてお答えください。

n=1706

n=1706

(1) 集合場所(〇は1つだけ)		(2) 連絡方法(〇は主なもの1つだけ)	
1 自宅	19.2	1 携帯電話	46.6
2 公園・広場	9.4	2 災害用伝言ダイヤル	5.3
3 学校	19.6	3 その他(具体的に)	1.0
4 その他(具体的に)	1.8	4 特に決めていない	41.0
5 特に決めていない	46.5	(無回答)	6.1
(無回答)	3.6		

問12 ご近所で、一人暮らしの高齢者または寝たきりの方や障害者の方がいますか。(〇は1つだけ)
n=1706

1 いる	20.7	2 いない	41.0	3 わからない	37.0	(無回答)	1.3
------	------	-------	------	---------	------	-------	-----

(問12で「1 いる」とお答えの方に)

→ 問12-1 大地震の時どのように対応しますか。(〇は1つだけ) n=353

1 直ちに手助けする	13.0	4 ご近所同士で声を掛け合い、様子を見る	53.5
2 様子を見に行く	25.8	5 その他(具体的に)	3.4
3 防災機関(消防・警察・市)へ連絡する	3.4	(無回答)	0.8

問13 防災対策で市に期待または充実すべきだと思うものはありますか。(〇はいくつでも)

n = 1706

1	高齢者や障害者救助支援対策	46.8	6	避難所での相談窓口の設置	35.3
2	防災情報の発信	56.9	7	訓練の指導や充実	19.1
3	仮設トイレの整備	59.8	8	防災マップ等による防災意識の向上	31.9
4	防災倉庫や避難所の整備	37.5	9	その他(具体的に)	2.8
5	食糧や救助備蓄品の充実	67.2		(無回答)	2.4

問14 防災対策に対してご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

<「市民参加のしくみづくり」について>

市は、「八王子ゆめおりプラン(※)」で、市民と行政が相互理解を深め、それぞれの役割と責任でまちづくりを計画的に進めていくこととしています。本年度は、市民参加のしくみづくりに着手するなど、市民が市政に参加・参画しやすい環境を整備していきます。そこで、市民の皆さんの市民参加に関する経験やご意見をお伺いします。

(※) 八王子ゆめおりプラン：市の基本構想・基本計画。公募市民による「ゆめおり市民会議」で素案づくりを行い、平成15年3月に策定。計画期間は15年度から24年度までの10か年。

まず、あなたの経験についてお伺いします。

問15 市では市民の皆さんに市の政策立案(計画策定や制度づくりなど)や行政運営に主体的に参加していただくために、様々なことを行っています。あなたが知っているものをお答えください。

(〇はいくつでも)

n = 1706

1	各種審議会や運営協議会等の市民委員の公募	12.4
2	各種計画策定のための市民会議の委員の公募	8.0
3	計画案に対する意見聴取のための説明会の開催	10.3
4	計画案に対するはがきやEメールでの市民意見の募集	10.7
5	計画案づくりのためのワークショップ(※)の開催	3.4
6	知っているものはない	69.3
	(無回答)	5.9

(※) ワークショップ：参加者が主体的に論議に参加したり、言葉だけでなく身体を使って体験したり、相互に刺激し合うグループによる学びと創造の方法。

問 16 あなたは、市の政策立案や行政運営に対して意見を述べたことがありますか。(○は1つだけ)
(○はいくつでも) n=1706

1 はい	3.6	2 いいえ	94.4	(無回答)	2.0
------	-----	-------	------	-------	-----

(問 16 で「1 はい」とお答えの方に)

→ 問 16-1 どのような方法・手段で意見を述べましたか。(○はいくつでも)
(○はいくつでも) n=62

1	審議会委員や市民会議の委員として町会や市民団体を代表する立場で参加	8.1
2	審議会委員や市民会議の公募市民委員として参加	3.2
3	市の広報やホームページを通じての意見応募	33.9
4	市主催の市政に関する説明会に参加して、発言したりアンケートに回答	19.4
5	市主催の計画案づくりのためのワークショップに参加	4.8
6	所属する町会や市民団体を通じて要望書や意見書を提出	25.8
7	市の出前講座(※)や自分の所属する団体主催の会議に、市の担当者に出席を求めた	12.9
8	その他(具体的に)	16.1
	(無回答)	11.3

(※) 出前講座：市民が主催する学習会などに市の職員等を派遣して、担当所管の事業について説明を行うもの。

(問 16 で「1 はい」とお答えの方に)

→ 問 16-2 意見を述べたことについて、どのように感じていますか。(最も近いもの1つに○)
(○はいくつでも) n=62

1	自分の意見が反映され、意見を述べてよかったと思う	19.4
2	自分の意見は必ずしも反映されたとはいえないが、意見を述べる機会は必要だ	46.8
3	自分の意見は反映されず、不満を感じている	21.0
4	自分の意見がどのように反映されたかわからず、なんとも言えない	9.7
	(無回答)	3.2

(問 16 で「2 いいえ」とお答えの方に)

→ 問 16-3 あなたが意見を述べたことがない理由として、最も近いと思うものはどれですか。
(○は1つだけ) n=1610

1	はがきやEメールを出したり、説明会に出席したりする時間がない	13.2
2	意見をまとめるために必要な情報が得られない	15.3
3	意見を述べても反映されるとは思えない	20.1
4	意見はあるが面倒	8.0
5	通常の広聴事業(※)を通じて、市民の意向は反映されていると思う	4.2
6	市長や議会が責任をもって決めていると思う	12.6
7	特に意見はない	19.6
8	その他(具体的に)	5.5
	(無回答)	1.4

(※) 広聴事業：市民の声を市政に反映させるために行っている「市長へのはがき」「タウンミーティング」「市政世論調査」「市政モニター制度」などの事業。

次に、あなたのお考えをお伺いします。

問 17 市民が市の政策立案や行政運営に参加することについて、あなたの考えに最も近いと思うものはどれですか。(○は1つだけ) n = 1706

1	協働によるまちづくりを実現するために、幅広く、多くの市民の参加を進める必要がある	41.6
2	既にいろいろな形で市民参加機会が用意されており、現在の程度でよい	9.8
3	特に関心のある市民や、専門的な知識を持っている市民が参加すればよい	22.2
4	広く市民参加を進めることがよいかどうか、よくわからない	21.2
5	市民参加を進めることには賛成できない(そう思う理由を具体的に)	1.3
	(無回答)	4.0

問 18 あなたご自身は、市の政策立案や行政運営に参加したいと思いますか。あなたの考えに最も近いと思うものはどれですか。(○は1つだけ) n = 1706

1	できるだけ幅広く参加したい	7.1
2	自分が関心のある分野に関しては参加したい	22.5
3	自分が住んでいる地域に関しては参加したい	12.4
4	自分自身の生活に直接影響があると思われる場合は参加したい	30.4
5	特に参加したいとは思わない	24.9
	(無回答)	2.8

問 19 市民が市の政策立案や行政運営に参加するためには、どのような環境を整える必要があると思いますか。(○は3つまで) n = 1706

1	市政に関する情報が市民にわかりやすく提供されていること	62.1
2	市民が参加しやすい多様な参加手段が用意されること	41.6
3	市民の意見がどのように反映されたか市民にわかるように説明されること	52.0
4	市民が身近なところで市政に関する情報交換や意見交換をしたり 公益的な活動を行ったりするための拠点があること	19.0
5	市民の意見を集約したり政策提案ができるような市民活動を支援すること	10.2
6	市民側の立場で参加を呼びかけたり市政に関する学習会を企画したりする リーダーやコーディネーターがいること	12.7
7	行政のしくみや自治・市民参加についての理解が深まるような学習の場を増やすこと	16.8
8	その他(具体的に)	1.9
9	特にない	7.5
	(無回答)	3.1

第 2 章

＜「八王子ゆめおりプラン」の施策指標の目標値に対する達成度＞

この章は、八王子市の基本構想・基本計画（「八王子ゆめおりプラン」）に掲げる施策が目的どおり成果を挙げているか、その達成度を計るため、調査させていただくものです。

問 20 あなたは、市が市民協働のまちを進めていると感じますか。（○は1つだけ） n=1706

「協働」とは、市民の皆さんと行政が、それぞれの立場や能力を理解、尊重しつつ、対等なパートナーとして連携し、課題に取り組むことをいいます。

1 そう思う	4.4	3 あまりそう思えない	25.6	5 わからない	45.5
2 どちらかといえばそう思う	9.7	4 思えない	12.4	(無回答)	2.5

問 21 市は、市政の情報を、積極的に配信・提供していますが、あなたは、現在の市政情報の入手方法に満足していますか。（○は1つだけ） n=1706

市の情報は、広報はちおうじ、ホームページ、議会だより、町会・自治会の回覧物や掲示物、地域の新聞(ミニコミ紙)、市で作成したパンフレット・ポスター、新聞・テレビなどのマスメディア、八王子テレメディア、JR八王子駅前河川情報板などで配信・提供しています。

1 満足している	6.8	3 あまり満足していない	21.4	5 わからない	24.9
2 ほぼ満足している	35.9	4 満足していない	8.6	(無回答)	2.4

問 22 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健センターなど、市の窓口を利用したことはありますか。（○は1つだけ） n=1706

1 ある	77.5	2 ない	21.2	(無回答)	1.2
------	------	------	------	-------	-----

(問 22 で「1 ある」とお答えの方に)

→ 問 22-1 あなたは、市の窓口サービスに満足していますか。（○は1つだけ） n=1323

1 満足している	16.3	3 あまり満足していない	20.3	5 わからない	5.0
2 ほぼ満足している	51.6	4 満足していない	6.1	(無回答)	0.7

問 23 あなたは、この1年間に公園清掃などのボランティア活動や盆踊りなど地域行事に参加したことがありますか。（○は1つだけ） n=1706

1 ボランティアにも地域行事にも 参加したことがある	9.7	3 地域行事には参加したことがある	29.2	5 わからない	5.0
2 ボランティアには参加したことがある	4.6	4 どちらにも参加したことがない	54.6	(無回答)	2.0

問 24 あなたは、あなたのお住まいの地域が安全であると感じますか。(○は1つだけ)

n=1706

1 安全である	3.8	4 やや危険である	19.5
2 おおむね安全である	31.9	5 危険である	4.4
3 普通である	39.0	(無回答)	1.4

問 25 市では、様々な相談を行っています。あなたは、市の相談窓口が充実していると思いますか。

(○は1つだけ)

n=1706

市で行っている相談は、健康・栄養・歯、母子・福祉、女性のための相談、法律、不動産、登記、税金、相続・遺言等暮らしの手続、年金・雇用保険・労働条件相談、行政、外国人生活相談、人権、交通事故、消費者、子育て、心の相談、総合教育相談、こども電話相談などです。

1 充実している	4.9	3 あまり充実していない	10.6	5 わからない	47.9
2 おおむね充実している	30.6	4 充実していない	3.9	(無回答)	2.1

問 26 あなたは、市の相談窓口を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

n=1706

1 ある	21.3	2 ない	77.3	(無回答)	1.4
------	------	------	------	-------	-----

(問 26 で「1 ある」とお答えの方に)

→ 問 26-1 市の相談窓口を利用してどう感じましたか。(○は1つだけ)

n=363

1 満足した	11.8	3 あまり満足できなかった	27.5	5 その他(具体的に)	1.4
2 ほぼ満足した	44.9	4 満足できなかった	14.0	(無回答)	0.3

問 27 あなたは、市が行っている様々な子育て支援策について、日頃どのように感じていますか。

(○は1つだけ)

n=1706

市は、子育て支援策として、待機児解消に向けて保育園の定員を増やしています。また、放課後児童を預かる学童保育所の整備や、子育てについて気軽に相談ができる子ども家庭支援センターを地域に設置しています。この他、乳幼児医療費助成やひとり親家庭医療費助成などの医療費の負担軽減や児童手当の支給などを行っています。

1 満足している	2.6	4 満足していない	5.0
2 ほぼ満足している	16.8	5 その他(具体的に)	2.0
3 あまり満足していない	7.2	6 わからない	61.3
		(無回答)	5.0

(問27-1へ)

(問27-1へ)

(問 27 で「3 あまり満足していない」「4 満足していない」とお答えの方に)

問 27-1 なぜ、そのように感じるのか理由があれば自由にご記入ください。

問 28 あなたの現在の生きがいほどのようなことですか。(○はいくつでも) n=1706

1 仕事	28.6	7 旅行	37.5
2 スポーツやレクリエーション	21.6	8 家族とのふれあい	51.0
3 学習や習い事	12.5	9 近所付き合い	9.3
4 ボランティア活動	5.7	10 友人との交際	44.0
5 趣味	45.5	11 その他(具体的に)	2.8
6 映画や演劇などの鑑賞	14.2	12 特にな (無回答)	6.0 2.3

問 29 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけて行動していることはどれですか。

(○はいくつでも)

n=1706

1 適度な運動	53.5	5 趣味などの生きがいづくり	32.6
2 適度な休養	36.3	6 その他(具体的に)	1.8
3 食事などの栄養バランス	51.1	7 特に何もしていない	11.6
4 各種定期健診の受診	31.0	(無回答)	2.5

問 30 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

n=1706

かかりつけ医とは、自分の体の状態を把握している身近な医師のことで、普段の健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査・治療を必要とするかどうかの判断、紹介などが期待されます。

1 決めている	56.2	2 決めていない	41.3	(無回答)	2.5
---------	------	----------	------	-------	-----

問 31 あなたがこの1年間に取り組んだ学習活動はどれですか。(○はいくつでも) n=1706

1 パソコン・インターネット	26.3	6 文学	6.4	11 園芸	11.5
2 音楽	9.6	7 歴史	4.6	12 職業上必要な知識・技能	23.4
3 美術	4.7	8 料理	9.1	13 その他(具体的に)	5.6
4 写真	4.7	9 洋裁	2.4	14 特に学習していない	34.9
5 外国語	8.2	10 和裁	0.5	(無回答)	3.9

問 32 あなたがこの1年間にスポーツを行った回数はどのくらいですか。(○は1つだけ) n=1706

スポーツの種類は、水泳、ジョギング、マラソン、テニス、スカッシュ、体操（ラジオ体操、健康体操など）、ハイキング、登山、ゴルフ、サイクリング、ウォーキング、サーフィン、ダイビング、スキー・スノーボード、トレーニング（器具を使うもの）、ストレッチ、なわとび、釣り、卓球、野球・ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボール、エアロビクス、バドミントン、武道（柔道、剣道、空手道、少林寺拳法など）、ダンス（社交ダンス、フォークダンスなど）、ラグビーなどです。

1	週に1回以上	27.0	4	半年に1～2回	9.7
2	月に1～3回	19.5	5	その他（具体的に)	0.6
3	3ヶ月に1～2回	7.4	6	特にしていない	32.7
				(無回答)	3.1

問 33 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で芸術・文化活動に参加しましたか。(鑑(観)賞も含みます)(○は1つだけ) n=1706

芸術・文化活動の分野は、文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊、映画、漫画、アニメーション・メディア芸術、伝統芸能（歌舞伎、落語など）、茶道、華道、書道、囲碁、将棋、歴史・文化財などです。

1	週に1回以上	8.0	4	半年に1～2回	18.0
2	月に1～3回	12.8	5	年1回	7.6
3	3ヶ月に1～2回	16.0	6	特にしていない	34.3
				(無回答)	3.3

問 34 あなたは、本市が景観に配慮されたまちであると思いますか。(○は1つだけ) n=1706

1	そう思う	4.6	3	あまりそう思えない	39.4	5	わからない	16.5
2	どちらかといえばそう思う	20.9	4	思えない	15.3		(無回答)	3.2

問 35 あなたは、市がにぎわいと活力があるまちであると感じますか。(○は1つだけ) n=1706

1	感じる	3.2	3	あまり感じない	41.4	5	わからない	7.9
2	多少感じる	21.2	4	感じない	23.9		(無回答)	2.5

問 36 あなたは、環境問題に関心はありますか。(○は1つだけ) n=1706

1	大いにある	29.1	3	少しはある	32.6	(無回答)	2.2
2	ある	34.5	4	ない	1.7		

問 37 あなたは、本市の環境（水、緑、ごみ、大気など）が以前と比べどうなったと感じていますか。
（○は1つだけ） n=1706

1	良くなった	9.3	4	悪くなった	7.6
2	どちらかといえば良くなった	41.1	5	わからない	27.3
3	どちらかといえば悪くなった	13.3		（無回答）	1.3

問 38 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。（○は2つまで）
（○は1つだけ） n=1706

1	違法駐車	29.0	5	落書き	22.2
2	放置自転車	31.7	6	違法看板	21.9
3	ペットのふん	19.1	7	はみ出し営業	8.7
4	ごみ・たばこのポイ捨て	44.4	8	その他（具体的に ）	6.4
				（無回答）	1.6

問 39 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。（○は1つだけ）
（○は1つだけ） n=1706

1	そう思う	2.8	3	あまりそう思えない	48.8	5	わからない	11.5
2	どちらかといえばそう思う	21.1	4	思えない	14.5		（無回答）	1.3

問 40 省エネ・省資源のためには、冷暖房を控える、電気をこまめに消す、冷蔵庫の開閉に気を遣う、ごみ減量のためのリサイクルを心がける、マイカーの使用を控える、省エネ製品を利用する、買物用のバッグを持参して買い物に行くなどがありますが、あなたは、省エネ・省資源を意識して実行していますか。（○は1つだけ） n=1706

1	常に実行している	37.7	3	今後は実行したい	8.4
2	時々実行している	51.9	4	実行するつもりはない	1.3
				（無回答）	0.6

ご回答、大変ありがとうございました。

…ご多忙の中、誠に恐縮ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、6月9日（木）までにお近くの郵便ポストにご投函ください。（切手を貼る必要はありません。）

市政世論調査報告書(第37回)

平成17年9月

発行 八王子市 総合政策部 広聴広報室
東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号
電話 0426 (20) 7411 (直通)

調査担当 株式会社 エスピー研
電話 03 (3239) 0071 (代表)
